

調査資料－161

ポストドクター等のキャリア選択に関する分析

2008年12月

文部科学省 科学技術政策研究所

第1調査研究グループ

三須 敏幸 巖 晶 角田 英之

“Investigative Survey on the Research Activities and Awareness of Postdoctoral Fellows:
Analysis on Career Choices of Postdoctoral Scholars”

December 2008

Toshiyuki MISU, Akira HOROIWA, Hideyuki TSUNODA

1st Policy-Oriented Research Group

National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

JAPAN

目 次

概要

第 1 章 はじめに	1
第 2 章 調査の概要	3
2.1. 調査の目的及び方法	3
2.2. 有効回答者の属性	5
第 3 章 ポストドクター等のキャリアパスの特徴	10
3.1. ポストドクター等としての経験	10
3.2. ポストドクター等以外の常勤職の経験	15
第 4 章 ポストドクター等の意識に見る進路選択の特徴	18
4.1. 研究者を目指した時期	18
4.2. 研究者を目指したきっかけ	20
4.3. ポストドクター等になった理由	32
第 5 章 ポストドクター等の進路志向とキャリア支援	35
5.1. ポストドクター等を目指す職業	35
5.2. ポストドクター等が考える就職の選択肢	38
5.3. ポストドクター等の公的資格の有無	42
5.4. ポストドクター等に対するキャリア支援の現状	44
5.5. ポストドクター等の円滑なキャリア・トランジションの実現に向けて	52
5.6. ポストドクター等のデュアル・キャリアの実態と進路選択	57
第 6 章 まとめ	60
6.1. ポストドクター等のキャリアパスの特徴	60
6.2. ポストドクター等の意識に見る進路選択の特徴	61
6.3. ポストドクター等へのキャリア支援の現状	61
6.4. ポストドクター等の進路志向とキャリア開発	62
6.5. 今後に向けて	63
謝辞	
参考資料：依頼状・手順書・調査票	67

【概要】

科学技術政策研究所第1調査研究グループでは、ポストドクター等若手研究者に対する各種支援を効果的に実施するための基礎データを収集する目的で、2005年度以降、『大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査』（「雇用状況調査」）、『ポストドクター進路動向8機関調査』、『ポストドクター等の研究活動・生活意識調査』などの一連の調査を実施してきた。本報告書は、大学、公的研究機関等に所属するポストドクター等の1割程度の者に対して実施したインターネット調査『ポストドクター等の研究活動・生活意識調査』（調査期間：2007年11月26日～2008年1月11日）のうち、特にポストドクター等の進路選択上の諸要因に関する分析結果について報告する。

1. 調査の概要

本調査では、我が国の大学、公的研究機関等に対して、所属するポストドクター等¹の男女比率、研究分野比率に応じて1割程度の者を調査対象者として抽出してもらい、当該機関で選ばれた調査対象者が直接、インターネット上の調査票に回答する方法を採用した。総依頼者数²は1,564名、有効回答者数は1,035名であった（有効回答率は66.2%）。

有効回答者の性別の特徴を見ると、男性が75%、女性が25%となっており、これは我が国のポストドクター等のべ人数を調べた「雇用状況調査」（2006年度実績）と比べても2ポイントの差に留まっている。また、研究分野別に見ると、理学38%、工学22%、保健15%と続いているものの、「雇用状況調査」（2005年度実績値）と比較すると、本調査は理学分野の比率が高く（7ポイントの差）、工学分野が低く（8ポイントの差）なっている。

2. 調査結果

①ポストドクター等のキャリアパスの特徴

我が国のポストドクター等に占める35歳以上の割合が約4分の1であることなどを踏まえて、ポストドクター等としての経験年数（現在の所属機関以外でのポストドクター等の経験を含む）やポストドクター等以外の常勤職の経験などを聞くことで、その背景について調べた。

- ▶ポストドクター等としての経験年数（現在の所属機関以外でのポストドクター等の経験を含む）が5年以下の者は、全体の84%を占める。ただし、理学分野については、6年以上ポストドクター等を続けている者の割合が他分野に比べて高くなっている（図1）。
- ▶ポストドクター等以外の常勤職に就いた経験のある者の割合が、35-39歳の年齢層で39%、40歳以上の年齢層で58%と高くなっている（図2）。また、男女別に見ると、女性のポストドクター等では、ポストドクター等以外の常勤職を経験した者の割合が31%と、男性の20%に比べて高くなっている（本文 p.15）。

¹ 本報告で使用する「ポストドクター等」は、「雇用状況調査」の定義に準じており、便宜上、満期退学者もポストドクター等に含まれる。

² 総依頼者数は、ポストドクター等の総数（のべ人数）16,394名（2006年度実績）に対して約1割に当たる。

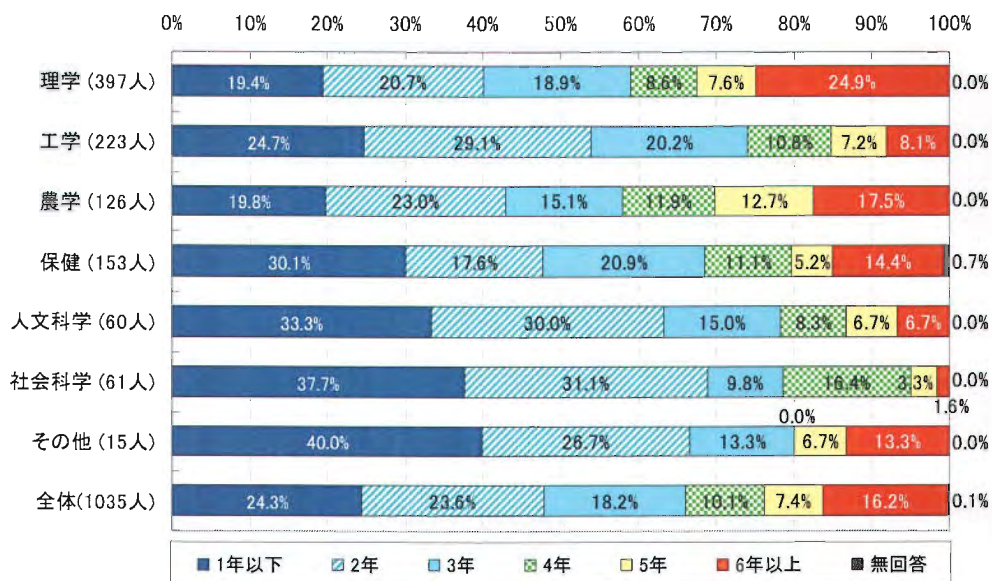


図1. ポストドクター等としての経験年数(分野別)

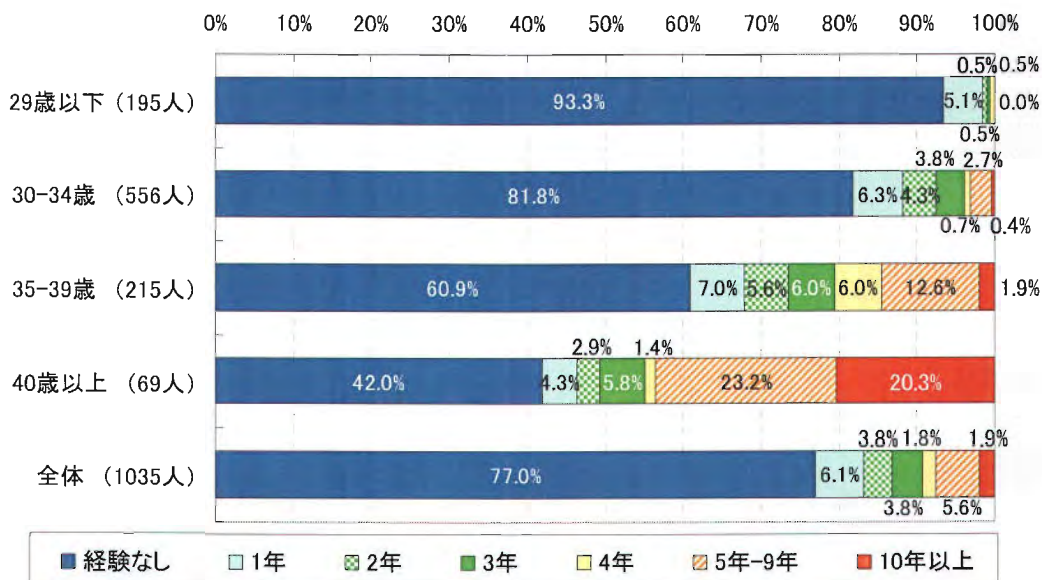


図2. ポストドクター等以外の常勤職の経験(年齢別)

②ポストドクター等の過去の進路選択要因

ポストドクター等が現在のポストに就くまでの経緯と意識を把握するために、研究者を目指した時期やポストドクター等になった主な理由などについて調べた。

- ▶大学進学以降に「研究者になりたいと思った」者が全体の58%を占める（図3）。
- ▶男性では「小学校」「中学校」「高等学校」で「研究者になりたいと思った」者が37%を占めるのに対し、女性は28%であった（図3）。
- ▶全ての研究分野で、大学進学以降に「研究者になりたいと思った」者が半数以上を占めている。ただし、人文・社会科学分野よりも、理学、工学、農学、保健分野のポストドクター等のほうが、「小学校」「中学校」「高等学校」で研究者を目指していた者の比率が高い（本文 p.18）。
- ▶ポストドクター等になった主な理由として「研究を続けたかったから」「研究者になりたかったから」を挙げる者が全体の73%を占めている。そのうち女性のポストドクター等については、「研究を続けたかったから」が特に多くなっている（図4）。

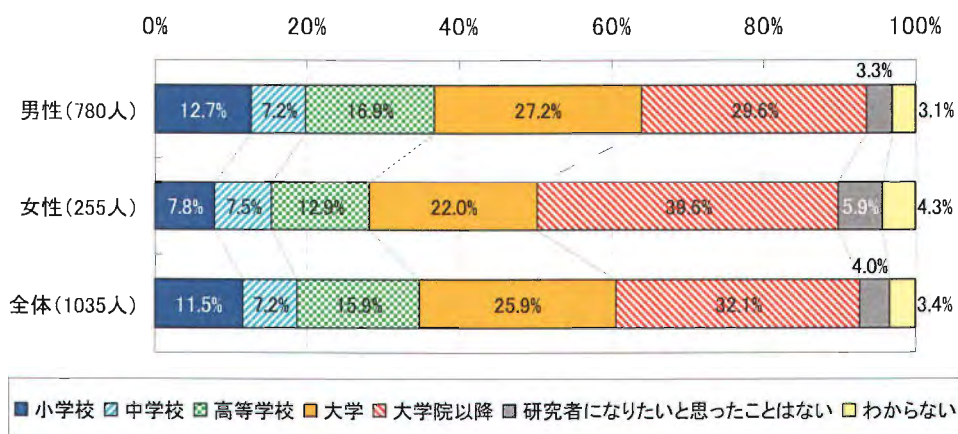


図3. 研究者になりたいと思った時期(男女別)

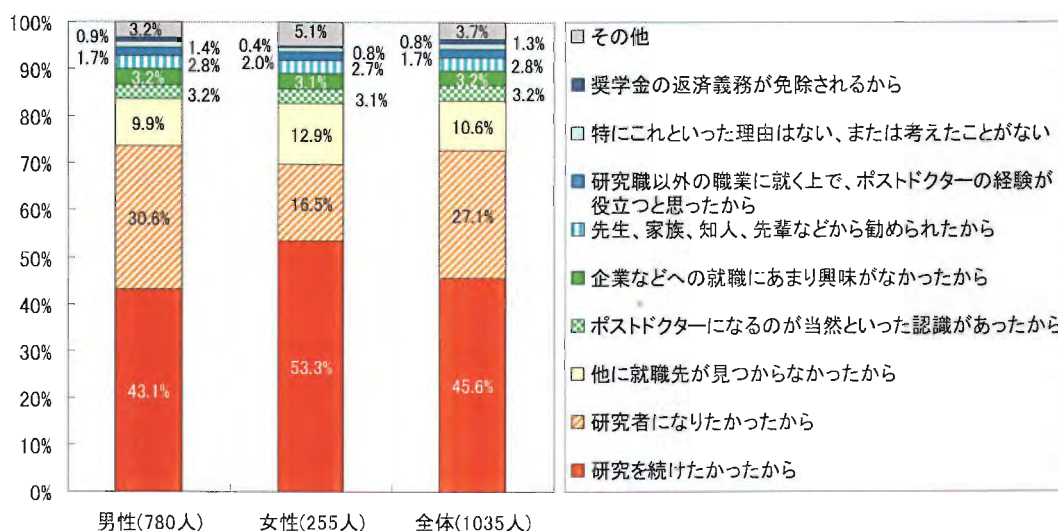


図4. ポストドクター等になった主な理由(男女別)

③ポストドクター等が考える就職の選択肢

「あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません」との設問に対して、複数の職業を例示した上で、それぞれの職業について「是非就きたい」、「就いても良い」、「どちらともいえない」、「あまり就きたくない」、「就きたくない」の5つの選択肢を用意して、ポストドクター等の職業選択の許容範囲を調べた。

- ▶ポストドクター等の約4分の3は、大学・公的研究機関の研究者（短大・高専教員を含む）になることを強く希望している（図5）。
- ▶半数以上のポストドクター等が、民間企業を含む研究者・技術者に就くことに前向きである（図5）。
- ▶男女とも、実際に就職しても良いと考える職業に差異はあまり見られない。ただし、「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者」、「国家公務員、地方公務員」、「学術関連のコミュニケーター職」については、女性のほうが男性よりも肯定的である（本文 p. 38）。
- ▶全ての研究分野のポストドクター等が「大学・公的研究機関の研究者」を強く希望しており、次いで、理学、工学、農学、保健分野では「企業の研究者・技術者」、人文科学分野では「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者」になることを比較的肯定的に捉えている（本文 p. 38）。

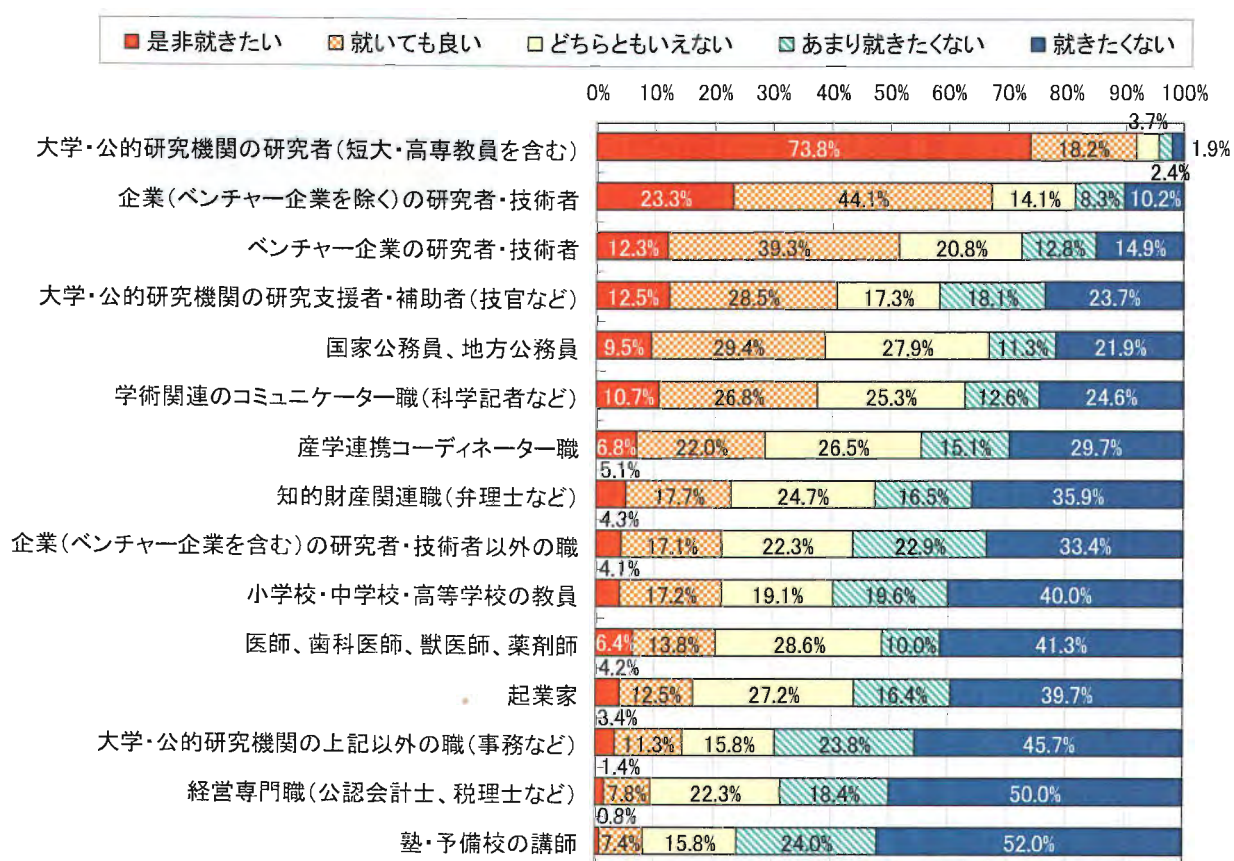


図5. ポストドクター等の職業別就職意欲

④ポストドクター等のキャリア開発

研究業務以外のスキルが要求される職業への就職を円滑に進めるためには、希望に応じて、ポストドクター期間中に、キャリア開発に繋がる業務をある一定の割合で許容することも選択肢として考えられる。そこで、ポストドクター期間中のキャリア開発に繋がる取組みへのニーズを把握する目的で、現在のポストドクター等としての研究業務の他に、兼任を希望する業務について聞いた。

- ▶現在のポストドクター等としての研究業務以外に、大学等での教育業務を希望する者が最も多く、次いで、民間企業での研究開発業務や現在の研究テーマとは異なる研究活動を希望している。その一方で、現在のポストドクター等としての研究業務以外の活動を「特に希望しない」と回答した者は、全体の13%に留まっている（図6）。
- ▶女性のポストドクター等は、研究・開発業務以外の専門的業務（科学館等でのコミュニケーター業務、知的財産関連業務など）の兼任を希望する者の割合が、男性に比べて高い（図7）。
- ▶社会科学分野のポストドクター等については、「民間企業での研究・開発業務」や「研究・開発業務以外の専門的業務」の兼任を希望する者の割合が、他分野に比べて高い（本文 p. 52）。

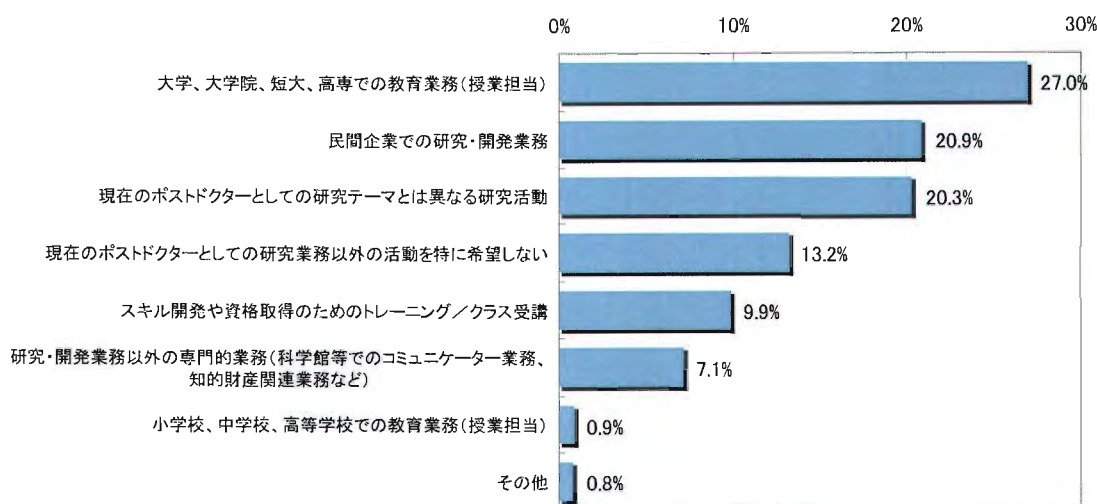


図 6. ポストドクター等が兼務を希望する業務

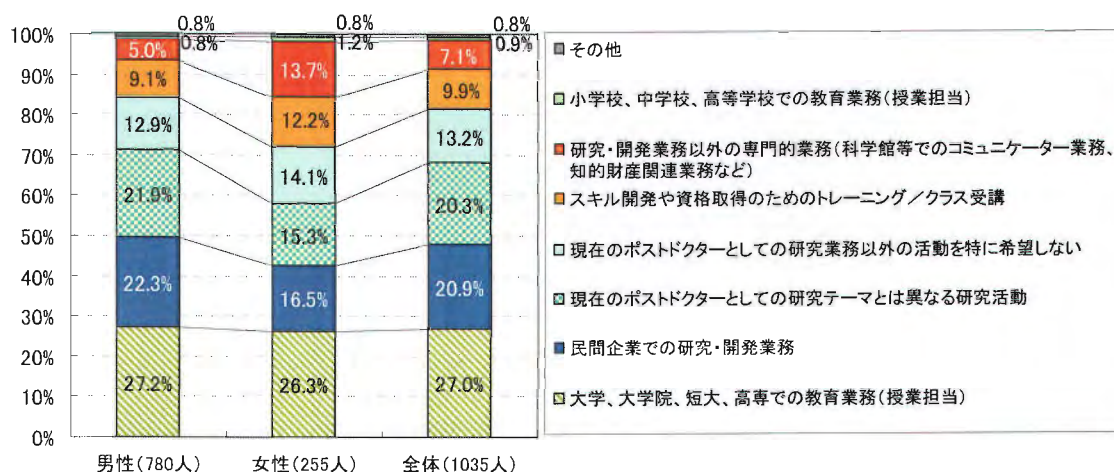


図 7. ポストドクター等が兼務を希望する業務(男女別)

⑤ポストドクター等の配偶者の存在と就職活動

家族の生活拠点への配慮などから、就職活動の際に応募範囲（地域や雇用条件など）を限定せざるを得ないといった状況も予想されたため、配偶者（パートナー）³の存在が就職活動に与える影響を調べた。

- ▶配偶者がいる女性のポストドクター等では、「配偶者の仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」と回答した者が最も多く、次いで「配偶者との別居も止むを得ない」となっている（図8）。
- ▶配偶者の職業が研究職である場合には、「配偶者の仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」と回答する者が多い（図9）。
- ▶配偶者の職業がポストドクター相当の職である場合には、「配偶者との別居も止むを得ない」と回答する者の割合が最も高くなっている（図9）。

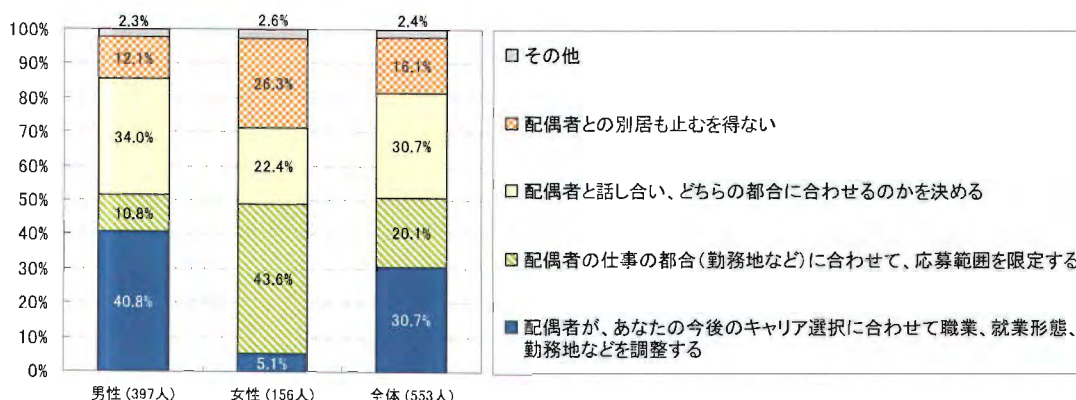


図8. ポストドクター等の就職活動と配偶者の職業との関係 (男女別)

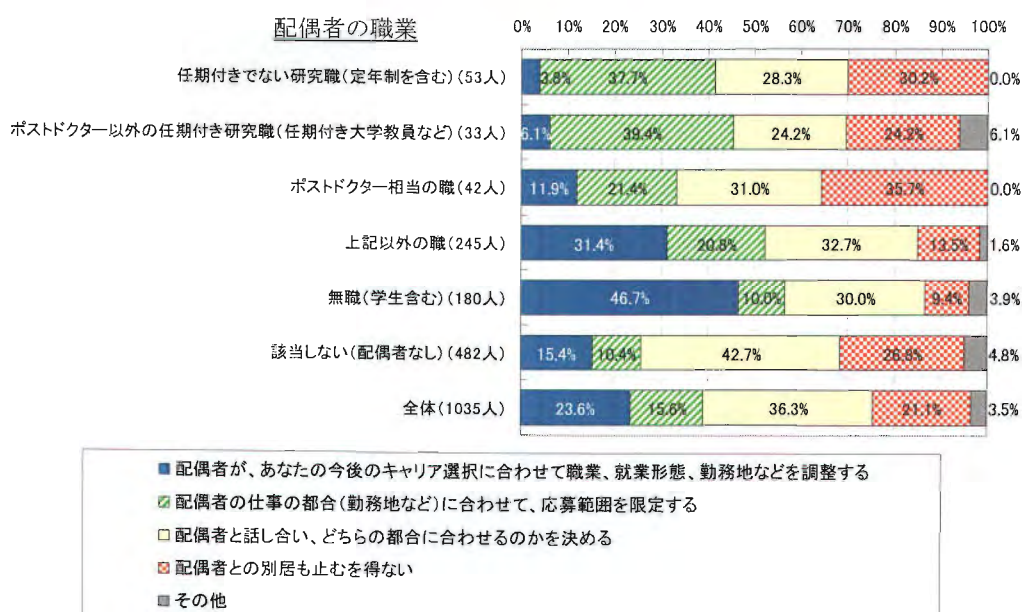


図9. ポストドクター等の配偶者の職業と就職活動との関係 (配偶者の職業別)

³ 調査票及び本文中では、「配偶者/パートナー」としてしている。

3. まとめ

今回の調査対象となったポストドクター等の約4分の3は、大学・公的研究機関の研究者（短大・高専教員を含む）になることを強く希望しているが、ベンチャーを含む民間企業の研究者・技術者になることに前向きな者も半数以上存在している。また、研究支援者・補助者（技官など）、公務員、学術関連のコミュニケーターなどの職業に就くことに対しても比較的肯定的な者が多い。さらに、将来のキャリアを考える上で、現在のポストドクター等としての研究業務の他に、別の業務の兼任を希望する者も多かった。特に、「大学、大学院、短大、高専での教育業務（授業担当）」の兼任を希望する者のみならず、「民間企業での研究・開発業務」、「現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動」といった業務の兼任を希望する者が多いことも特徴といえる。本調査の結果からは、学術研究機関の研究者以外の進路についても柔軟に検討し、また自らのキャリア発展に繋がる取組みに対しても前向きなポストドクター像が浮かび上がる。

科学技術と社会との関わりが深化・多様化する中で、ポストドクター等の高度な専門性を有する人材が多様な方面へ進み、その能力を活用することが期待されている。各機関においては、ポストドクター等への幅広いキャリア開発のための機会を提供するなど、彼らの任期終了後の進路を見据えた活動を支援していくことが望まれる。

第1章 はじめに

第3期科学技術基本計画では、「研究者を志すポストドクターは自立して研究が行える若手研究者の前段階と位置付け、若手研究者の採用過程の透明化や自立支援を推進する中でポストドクター支援を行う。また、ポストドクターに対するアカデミックな研究職以外の進路も含めたキャリアサポートを推進するため、大学や公的研究機関の取組を促進するとともに、民間企業等とポストドクターの接する機会の充実を図る」として、ポストドクター等若手研究者の採用過程における透明化や自立支援のみならず、学術研究機関の研究職以外の進路も含めたキャリアサポートの重要性を指摘している。一部の大学・公的研究機関等においては、文部科学省の「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」（2006年度～）を通じて、ポストドクター等若手研究者への組織的支援と環境整備に向けた取組を始めており、ポストドクター等に対する自立支援や多様な場での活躍を促すための環境は徐々に整備されつつある。

実際のポストドクター等を取り巻く状況を見てみると、大学での主な受け皿と考えられる助手（助教）及び講師ポストの数は過去10年間あまり増加しておらず、また当該ポストの平均年齢も年々上昇傾向にあることから、ポストドクター等が大学教員になるまでの期間が長期化していることが考えられる。さらに、文部科学省『大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査』（以下、雇用状況調査）及び『学校基本調査』を参考にすると、理学分野は他分野に比べて、大学本務教員のポストドクター等¹に対する人数比が小さく、大学教員ポストの獲得競争が厳しいことが予想される。実際に、3,870人のポストドクター等（我が国のポストドクター等の総数約1万5千人のうちのおよそ4分の1に相当）の進路動向について調査した科学技術政策研究所『ポストドクター進路動向8機関調査』（以下、進路動向調査）においても、理学分野についてはポストドクター等の終了直後に再び他機関のポストドクター等になる比率が高いことなどが示されている。

一方で、文部科学省『民間企業の研究活動に関する調査報告』によると、最近の民間企業における博士課程修了者（新卒）及びポストドクターの研究開発者としての採用実績は、それぞれ11%及び2%前後の低水準で推移している。採用された博士課程修了者（新卒）やポストドクターの研究者としての資質については、いずれも6割程度の企業が「期待を上回る」「ほぼ期待通り」と回答

¹ 科学技術政策研究所 調査資料-156『大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査』において、「ポストドクター等」は「博士の学位を取得後、①大学等の研究機関で研究業務に従事している者であって、教授・准教授・助教等の職にない者や、②独立行政法人等の研究機関において研究業務に従事している者のうち、任期を付して任用されている者であり、かつ所属する研究グループのリーダー・主任研究員等でない者。（博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得の上退学した者（いわゆる「満期退学者」）を含む。）」と定義されている。

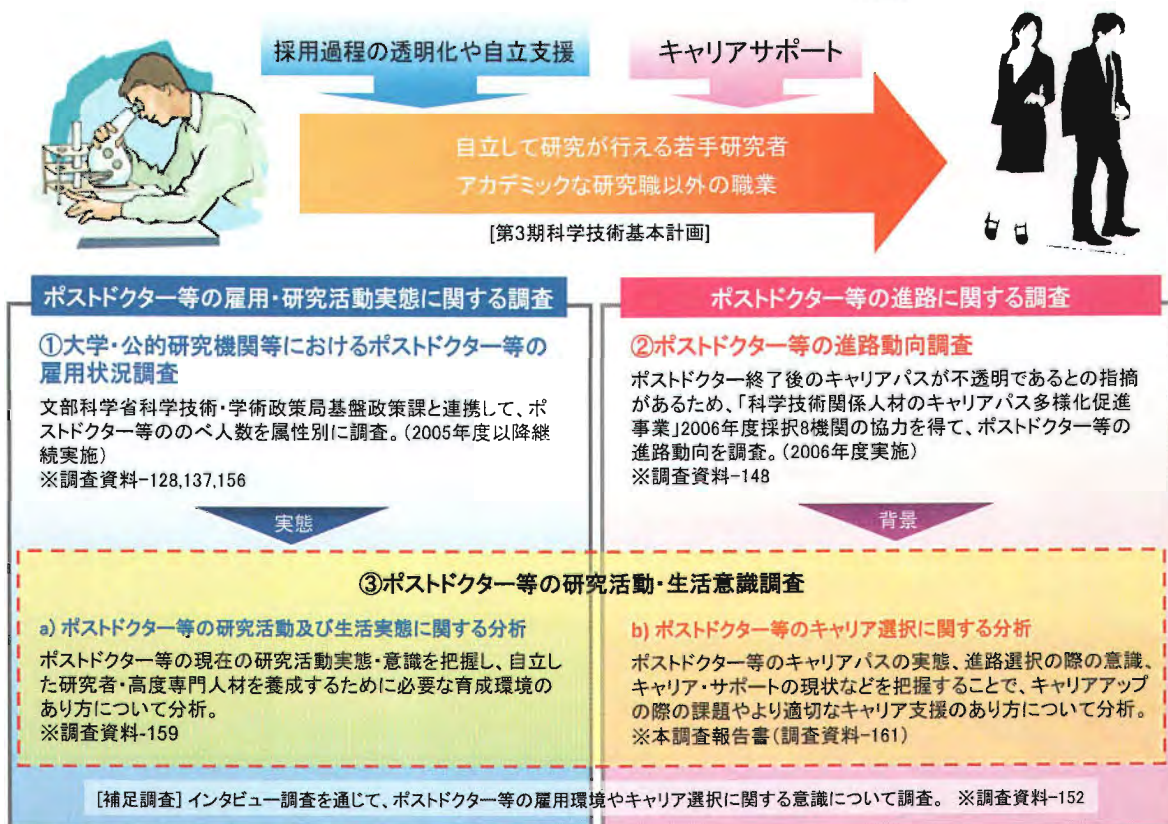
しているものの、ポストドクター等博士号取得者の民間企業における活躍の場は、修士号取得者に比べて遥かに少ない状況にある。

本調査は、以上のポストドクター等を取り巻く状況を踏まえ、第3期科学技術基本計画で示されたポストドクター等若手研究者に対する各種支援を効果的に実施するための基礎データを収集する目的で、科学技術政策研究所第1調査研究グループが2005年度以降実施してきた調査研究課題「ポストドクター等若手研究人材の育成・支援に関する調査」（下記）の一環である。

＜調査研究課題「ポストドクター等若手研究人材の育成・支援に関する調査」の構成＞

- ① 大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査（以下、「雇用状況調査」）
- ② ポストドクター等の進路動向調査（以下、「進路動向調査」）
- ③ ポストドクター等の研究活動・生活意識調査（以下、「生活意識調査」）

ポストドクター等若手研究人材の育成・支援に関する調査の全体像



上記③の「ポストドクター等の研究活動・生活意識調査」は、主として「ポストドクター等の研究活動及び生活実態」と「ポストドクター等のキャリア選択」の2つの観点から構成されており、本報告書では後者の「ポストドクター等のキャリア選択」について、ポストドクター等に至る経緯や進路選択要因などを中心に分析している。

第2章 調査の概要

2.1. 調査の目的及び方法

① 調査名

「ポストドクター等の研究活動・生活意識調査」(19科政研企第180号)

② 調査の目的

本調査は、我が国におけるポストドクター等の研究活動、生活状況、進路選択上の諸要因などを明らかにすることを目的としており、本報告書では、このうちポストドクター等の進路選択上の諸要因に関して分析する⁵。

③ 調査方法

我が国の大学、公的研究機関等に対し、所属するポストドクター等の男女比率、研究分野比率に応じて1割程度の者を調査対象者として抽出してもらい、当該機関で選ばれた調査対象者が直接、Web上の調査票に回答する方法を採用した。

④ 調査期間

2007年11月26日～2008年1月11日

(当初、記入要領では2007年12月9日を回答の締め切り日としていたが、協力機関の要請等もあり2008年1月11日まで調査期間を延長した。)

⑤ 調査対象者

上記期間中に、我が国の大学、公的研究機関等に所属していたポストドクター等(国籍不問)⁶

⑥ 調査対象者の抽出方法

調査対象者の抽出は、各機関におけるポストドクター等の男女と研究分野の比率に比例させた「割当法」を用いた。このような方法を用いたのは、ほとんどの機関が所属するポストドクター等

⁵ 本調査におけるポストドクター等の研究活動及び生活実態に関する分析結果は、科学技術政策研究所 調査資料-159『ポストドクター等の研究活動及び生活実態に関する分析』(2008年10月)を参照。

⁶ 「ポストドクター等」の定義は雇用状況調査に準じており、便宜上、所定の単位を修得後退学した者(いわゆる「満期退学者」)も含む。

全員の名簿を持っておらず、名簿を用いた無作為抽出法が取れないことが事前のインタビュー等でわかっていたためである。

まず、本調査の実施にあたっては、文部科学省 科学技術・学術政策局 基盤政策課を通じて、同時期に行われた「雇用状況調査」とともに、各機関（「雇用状況調査」の発送先と同一）に依頼状と抽出手順書を配布した（参考資料）。

次に、各機関はポストドクター等の人数（2007年度的人数がわからない場合は、「雇用状況調査」の2005年度実績値を使用）から1割程度的人数を、研究分野と性別の比率に比例させて抽出し、選ばれたポストドクター等に対して、調査票の置かれたWebページのアドレスとそこにアクセスするためのID、パスワードを配布した。調査依頼を行った人数は、各機関からメールや電話等で報告してもらい、総依頼人数を確定した。

⑦ 調査票の回収方法

調査票はWeb上で入力する形式になっており、配布されたIDとパスワードを用いて、ポストドクター等本人がアクセスし、直接回答してもらった。

⑧ 有効回答者数

本調査における総依頼者数は1,564名、そのうち有効回答者数は1,035名であり、有効回答率は66.2%に達した。なお、総依頼者数は、「雇用状況調査」におけるポストドクター等の総数16,394名（2006年度実績）に対して約1割に当たる。

2.2. 有効回答者の属性 [※分析対象(設問番号): Q9, F1, F2, F3]

本調査(「生活意識調査」)では、各機関に所属するポストドクター等の男女と研究分野の比率に応じた抽出を行っていることから、まず有効回答者の男女別と研究分野別に見る特徴を、「雇用状況調査」の結果と比較しながら明らかにする。ただし、本調査の回答者は調査期間中に当該機関に所属していたポストドクター等であるのに対し、「雇用状況調査」の結果は2006年度実績値(分野別のみ2005年度実績値)であることに注意する必要がある(詳細データは、調査資料-159を参照)。

①男女別

有効回答者の性別は、図2-1のとおりである。表2-1から、「生活意識調査」と「雇用状況調査」の男女比率には、ほとんど差異が見られない。

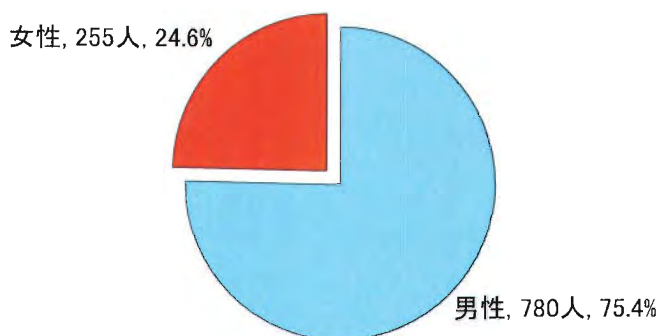


図 2-1 調査対象者の男女別内訳

性別	生活意識調査	雇用状況調査 (2006年度実績値)
男性	780人 (75.4%)	12,627人 (77.0%)
女性	255人 (24.6%)	3,767人 (23.0%)
合計	1,035人 (100%)	16,394人 (100%)

表 2-1 調査対象者の男女別内訳(雇用状況調査との比較)

②研究分野別

調査対象者の研究分野(図2-2)は、理学38%、工学22%、保健15%と続いているが、「雇用状況調査」(2005年度実績値)と比較すると、本調査は理学分野の比率が高く(7ポイント差)、工学分野が低く(8ポイント差)になっている(表2-2)。

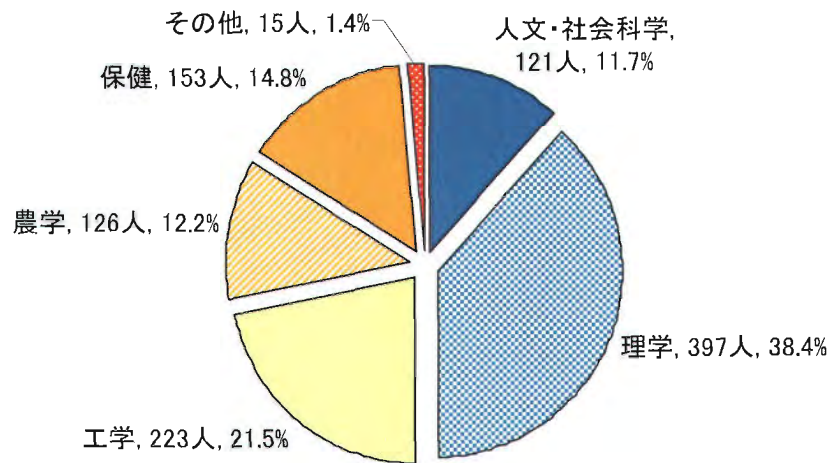


図 2-2 調査対象者の分野別内訳

分野	生活意識調査	雇用状況調査 (2005年度実績)
人文・社会科学	121人 (11.7%)	1,121人 (7.2%)
理学	397人 (38.4%)	4,853人 (31.3%)
工学	223人 (21.5%)	4,601人 (29.7%)
農学	126人 (12.2%)	1,618人 (10.4%)
保健	153人 (14.8%)	2,334人 (15.1%)
その他	15人 (1.4%)	660人 (4.3%)

表 2-2 調査対象者の分野別内訳(雇用状況調査との比較)

次に、ポストドクター等の抽出の基準となった男女別と研究分野別以外の属性についても、「雇用状況調査」と比較する。

③国籍別

図 2-3 に、日本国籍と日本以外の国籍の者の比率を示す。本調査では、日本語版と英語版の調査票を用意したが、「雇用状況調査」と比べて日本国籍以外の者の回答が少なかった(表 2-3)。本調査の標本抽出法は、性別と研究分野を用いた「割当て法」であり、有効回答者の最終的な選定は研究機関の担当部局に一任した。外国人比率が低かった理由としては、英語版の調査票の存在についての認知度が低かった、日本語でコミュニケーションしやすい人が選ばれたことなどが考えられる。

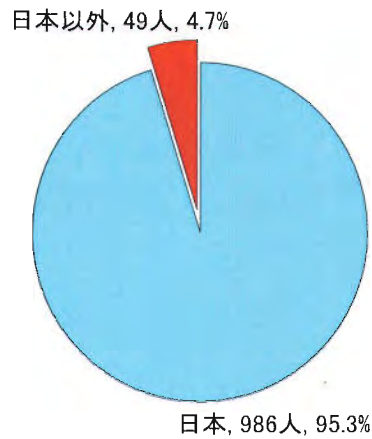


図 2-3 調査対象者の国籍

国籍	生活意識調査	雇用状況調査 (2006 年度実績)
日本	986 人 (95.3%)	12,506 人 (76.3%)
日本以外	49 人 (4.7%)	3,888 人 (23.7%)
合計	1,035 人 (100%)	16,394 人 (100%)

表 2-3 調査対象者の国籍(雇用状況調査との比較)

④年齢別

年齢階層別比率と年齢階層別女性比率を、それぞれ図 2-4 と図 2-5 に示す。また、「雇用状況調査」との比較を表 2-4 に示す。「生活意識調査」では、「雇用状況調査」と比べて 30 歳代の比率が高くなっている。また、ポストドクター等の年齢が上がるに従い女性比率も上昇することが、「雇用状況調査」によって明らかになっているが、本調査でも同様の傾向が認められる。

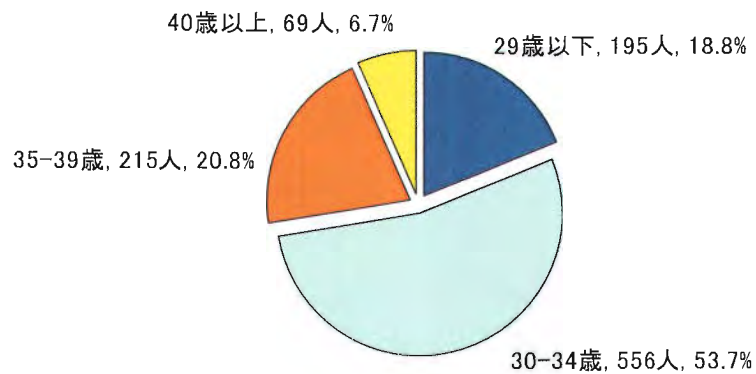


図 2-4 調査対象者の年齢階層別内訳

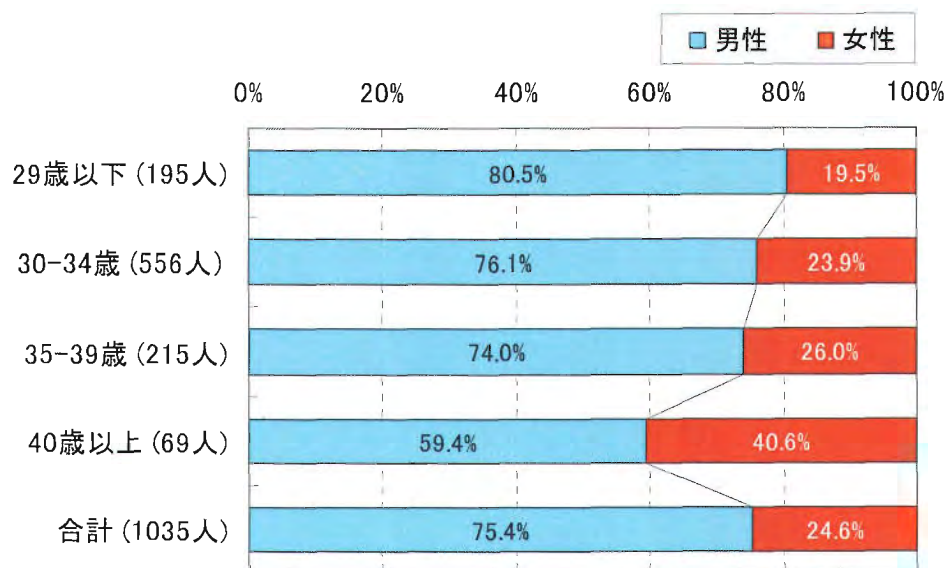


図 2-5 調査対象者の年齢階層別女性比率

年齢	生活意識調査		雇用状況調査 (2006年度実績)	
	全体	女性比率	全体	女性比率
29歳以下	195人 (18.8%)	19.5%	4,185人 (25.5%)	21.8%
30-34歳	556人 (53.7%)	23.9%	7,268人 (44.3%)	21.9%
35-39歳	215人 (20.8%)	26.0%	3,072人 (18.7%)	23.4%
40歳以上	69人 (6.7%)	40.6%	1,706人 (10.4%)	30.5%
合計	1,035人 (100%)	24.6%	15,424人 (100%)	23.0%

表 2-4 年齢階層別内訳と女性比率(雇用状況調査との比較)

⑤所属機関種別

有効回答者の所属機関（調査対象者に調査依頼を行った機関）の種別を図 2-6 に示す⁷。機関種別の割合は国立大学法人が最も多く、次いで、独立行政法人、私立大学となっている。「雇用状況調査」と比べると、独立行政法人が少なく、私立大学が多くなっている⁸（表 2-5）。

⁷ 調査票上の質問項目ではないが、調査票の置かれた Web ページにアクセスした際の ID から判別している。

⁸ 標本抽出の際に、所属するポストドクター等の 1 割としながらも、10 名未満の機関でも 1 名を抽出してもらったため、所属するポストドクター等が少ない私立大学の比率が高まったことなどが要因として考えられる。

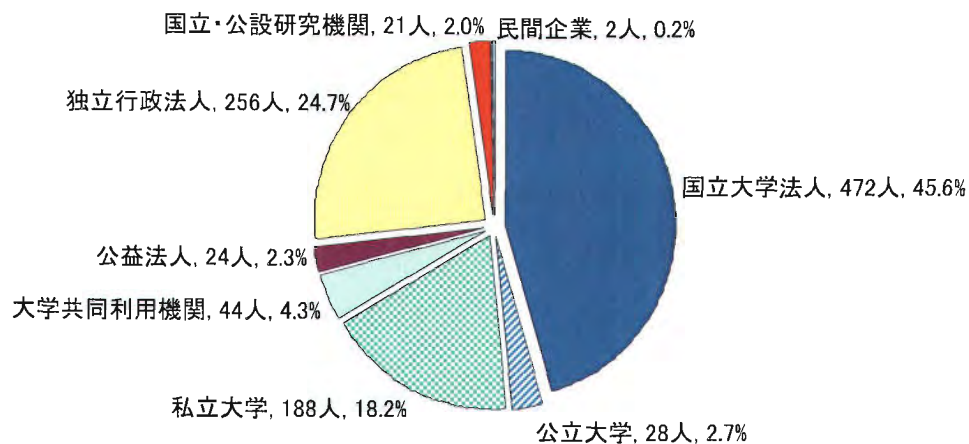


図 2-6 調査対象者の所属機関

機関種	生活意識調査	雇用状況調査 (2006年度実績)
国立大学法人	472人 (45.6%)	8,033人 (49.0%)
公立大学	28人 (2.7%)	199人 (1.2%)
私立大学	188人 (18.2%)	1,867人 (11.4%)
大学共同利用機関	44人 (4.3%)	644人 (3.9%)
独立行政法人	256人 (24.7%)	5,000人 (30.5%)
国立・公設研究機関	21人 (2.0%)	289人 (1.8%)
公益法人	24人 (2.3%)	261人 (1.6%)
民間企業	2人 (0.2%)	101人 (0.6%)
合計	1,035人 (100%)	16,394人 (100%)

表 2-5 調査対象者の所属機関(雇用状況調査との比較)

第3章 ポストドクター等のキャリアパスの特徴

雇用状況調査によれば、我が国のポストドクター等に占める35歳以上の割合は約4分の1となっており、2004年度から2006年度に亘ってやや増加する傾向が見られる。この背景には、ポストドクター等への「入口」段階において、すでに35歳以上の高い年齢層の割合が相当数に達していることも背景⁹にあると考えられる。また、進路動向調査（3,870人のポストドクター等の2005年度終了直後の進路動向を調査）を参考にすると、理学分野のポストドクター等を中心に、ポストドクター等のポストを繰り返し経験する傾向が見られている¹⁰。

本章では、有効回答者1,035人のポストドクター等としての経験回数・年数、ポストドクター等以外の常勤職の経験の有無などを分析することで、彼らのキャリアパスの特徴を明らかにする。

3.1. ポストドクター等としての経験 [※分析対象(設問番号): Q2, Q3, Q4, Q5]

有効回答者1,035人に対して、現在ポストドクター等として勤務している機関と博士号を取得した(または博士課程を満期修了した)機関が同じであるかどうかを聞いたところ、全体の66%が博士課程とは異なる機関でポストドクター等として研究活動に従事していることが明らかとなった(図3-1参照)。博士課程と同一機関でポストドクター等をしている者は34%に留まっており、ポストドクター等段階での人材流動性は比較的高いと言える。ただし、研究分野別に見れば、理学分野を中心とした理系のポストドクター等は流動性が高いものの、人文・社会科学分野については約6割が博士課程と同一機関でポストドクター等をしている状況にあるなど、分野間で差が見られる(図3-2参照)¹¹。

次に、「あなたは現在お勤めの機関以外でポストドクターを経験したことがありますか」¹²の設問に対しては、有効回答者の65%が所属機関で初めてポストドクター等を経験する者であった(図3-3参照)。研究分野別に見ると、人文・社会科学分野のポストドクター等については現在の所属機関で初めてポストドクター等を経験する者が8割以上であるのに対し、理学や農学分野では4割以上のポストドクター等が現在の所属機関以外でもポストドクター等を経験している(図3-4参照)。また、

⁹ 文部科学省『学校基本調査』の最近の博士課程進学者に占める35歳以上の比率も増加傾向にある。これは34歳以下の博士課程進学者の人数が減少していることに起因しており、ポストドクター等の年齢分布についても、博士課程修了者の年齢構成をある程度反映しているものと考えられる。

¹⁰ 進路動向調査によると、2005年度終了直後にポストドクター等以外の職に就いた者や機関を異動した者のうち、他機関のポストドクター等になる比率が高い分野は理学分野の36%、次いで農学分野が22%であった。

¹¹ 今回の調査対象者のうち、博士課程満期退学者(または学位取得時の年齢が未記入の者)は6%を占めている。特に、人文科学及び社会科学分野に占める博士課程満期退学者(または学位取得時の年齢が未記入の者)の比率はそれぞれ38%及び28%と、他分野に比べて高い。一方で、博士号取得者(または学位取得時の年齢が記入されていた者)のうち、学位取得時からの経過年数(=現在の年齢-学位取得時の年齢)が、5年以下の者は全体の74%、6年以上は20%であった。

¹² 実際の調査ではポストドクター等本人が回答するため、調査票上の設問では調査対象者を「ポストドクター」と呼んでいる。

理学と農学分野については、過去に指導教員が2回以上変更になったポストドクター等がほぼ半数を占めており、他分野に比べてポストドクター等を複数回（指導教員等が異なる場合に1回とカウント）経験する傾向が見られる（図3-5参照）。特に、有効回答者数が最も多く、ポストドクター等を複数回経験する傾向にある理学分野においては、物理学専攻でポストドクター等を複数回経験している者の割合が高くなっている（図3-6参照）。

さらに、「他の機関も含めて、あなたは合計何年ぐらいポストドクターを経験しましたか」の設問に対する回答の内訳を見ると、5年以下が全体の84%、6年以上が16%となっている（図3-7参照）。特に、ポストドクター等としての経験回数が比較的多い理学分野については、6年以上ポストドクター等を続けている者の割合が25%と、他分野に比べて高い状況が見られる（図3-8参照）。

問. あなたが現在ポストドクターとして勤務している機関（あなたに本調査への協力を依頼した所属機関）と博士号を取得した（または博士課程を満期修了した）機関は同じですか。

[ポイント]

- ▶有効回答者1,035人の66%が、博士課程とは異なる機関でポストドクター等として研究活動をしている。
- ▶人文・社会科学分野については、6割強が博士課程と同一機関でポストドクター等をしており、分野間で差が見られる。

[全体集計]

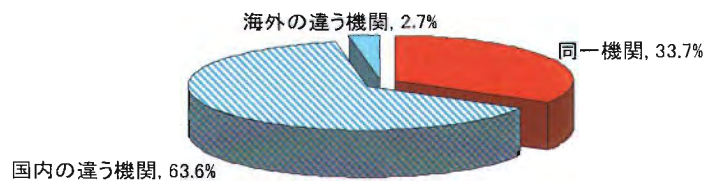


図3-1. ポストドクター等の所属機関と出身大学(全体)

[分野別集計]

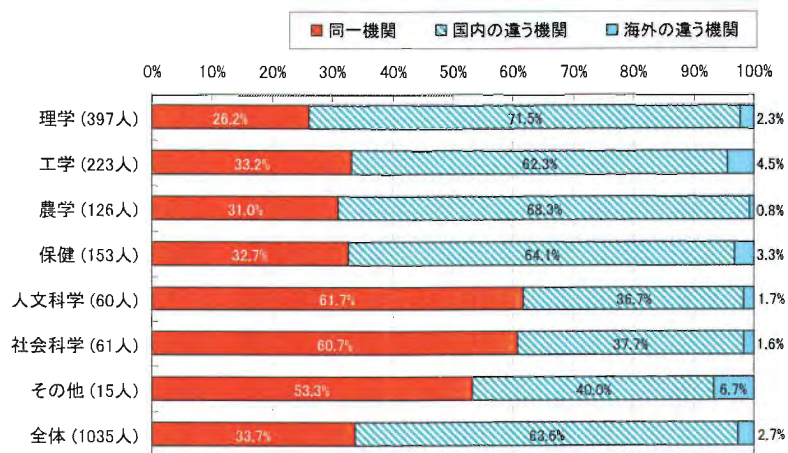


図 3-2. ポストドクター等の所属機関と出身大学(分野別)

問. あなたは現在お勤めの機関以外でポストドクターを経験したことがありますか。

[ポイント]

- ▶有効回答者の65%が、現在の所属機関で初めてポストドクター等を経験する者である。
- ▶現在の所属機関で初めてポストドクター等を経験する者は、人文科学分野で9割、社会科学分野で8割となっているが、理学や農学分野では6割弱である。

[全体集計]

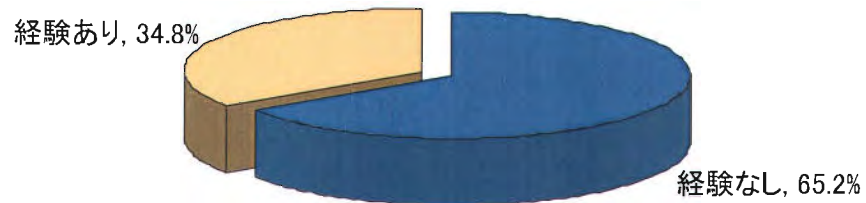


図3-3. 他機関でのポストドクター等経験(全体)

[分野別集計]

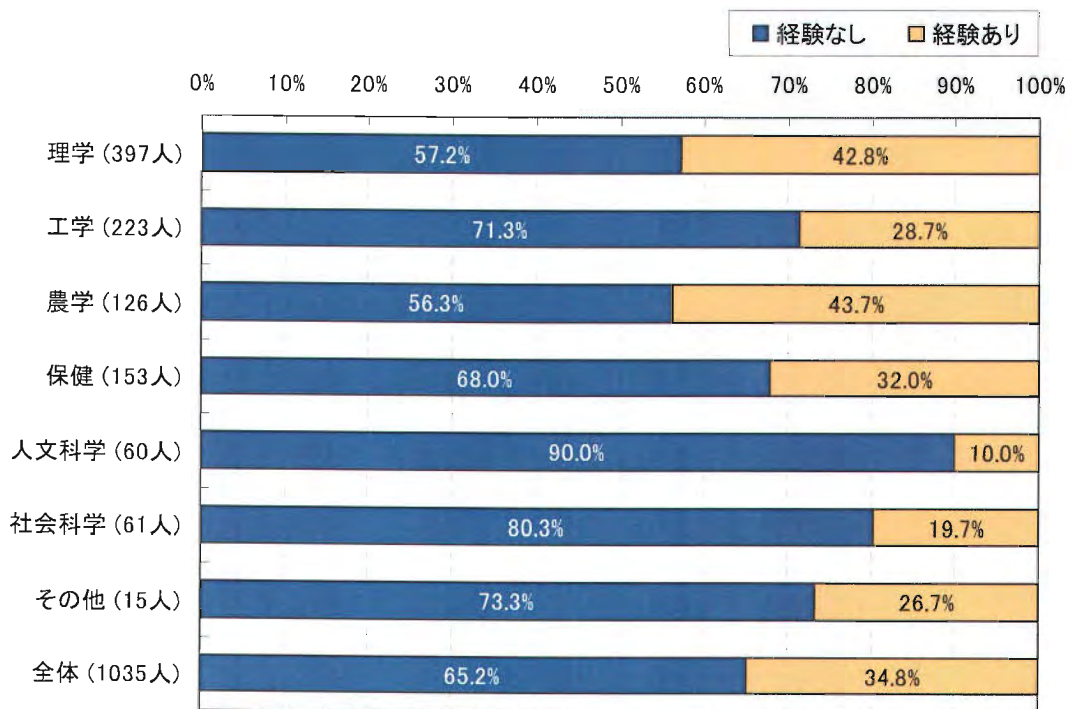


図3-4. 他機関でのポストドクター等経験(分野別)

問. 他の機関も含めて、あなたはポストドクターの職を、合計で何回経験しましたか。
 (回数については、辞令上の任期ではなく、指導教員が異なる場合に1回とカウントしてください)

[ポイント]

- ▶過去に指導教員等が複数回変更になったポストドクター等は、理学と農学分野でほぼ半数を占めており、他分野に比べて比率が高い。
- ▶ポストドクター等が最も多い理学分野については、物理学専攻でポストドクター等を複数回経験している割合が高い。

[分野別集計]

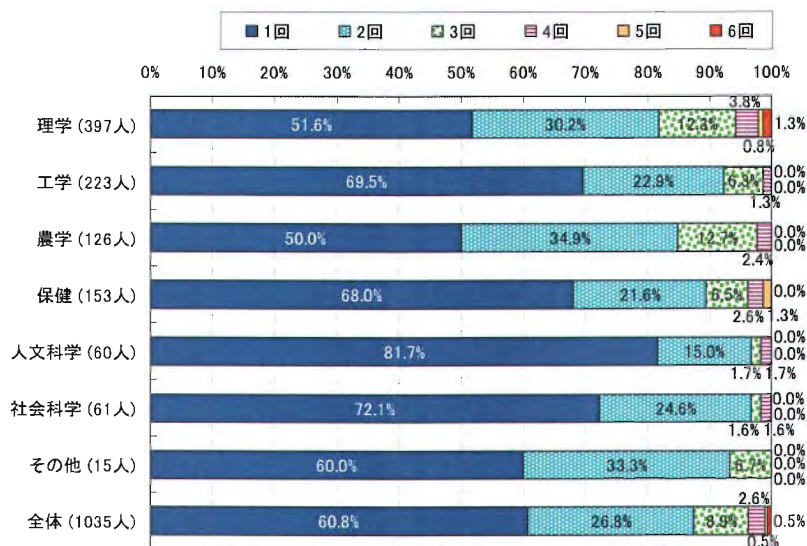


図3-5. ポストドクター等経験の回数(分野別)

「ポストドクター等経験の回数」は、指導教員等が異なる場合に1回とカウント。

[分野別集計(理学分野詳細)]

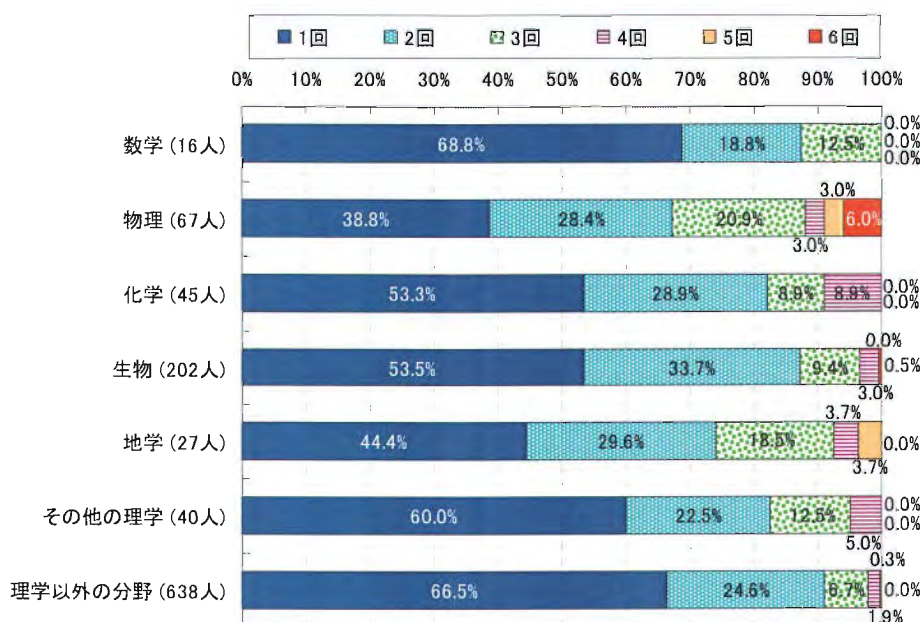


図3-6. ポストドクター等経験の回数(理学分野詳細)

問. 他の機関も含めて、あなたは合計何年ぐらいポストドクターを経験しましたか。

[ポイント]

- ▶ポストドクター等としての経験年数が5年以下の者は、全体の84%を占める。
- ▶理学分野については、6年以上の長期間に亘ってポストドクター等を続けている者の割合が他分野に比べて高い。

※ポストドクター等としての「経験回数÷経験年数」の平均値を算出すると、ポストドクター等は平均的に19ヶ月に1回程度の割合で、指導教員等が変更になっていることがわかる。

[全体集計]

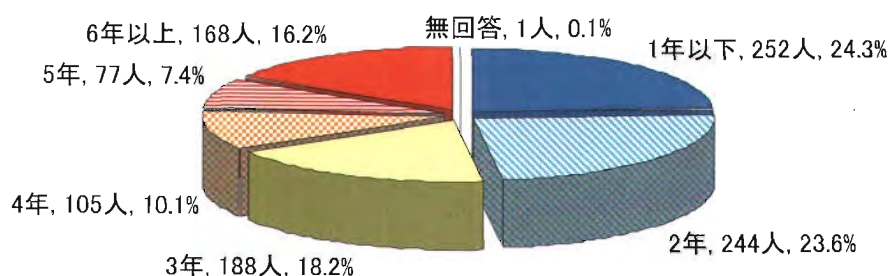


図3-7. ポストドクター等経験の総年数(全体)

[分野別集計]

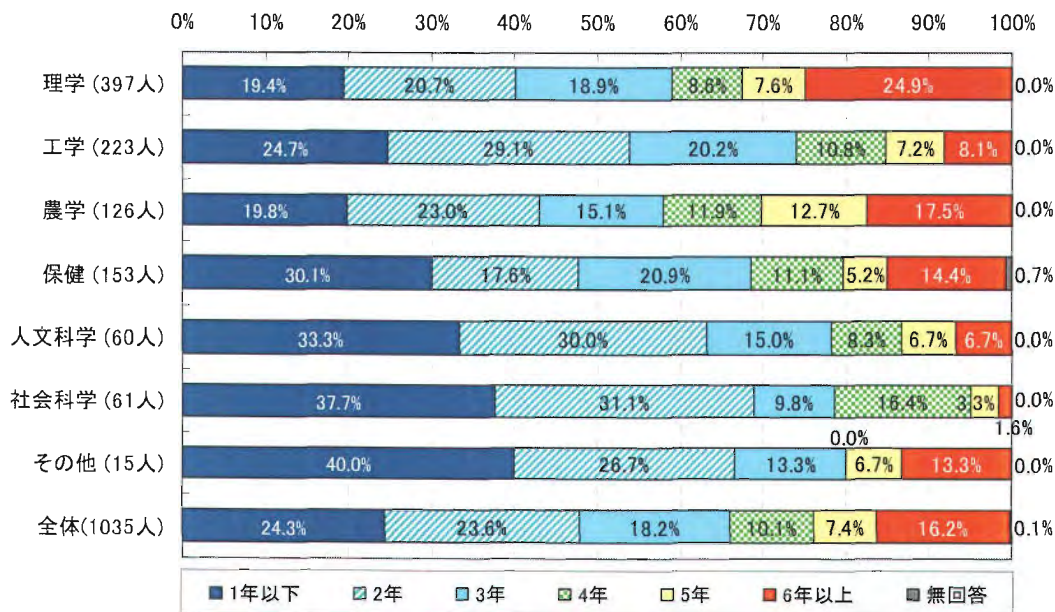


図3-8. ポストドクター等経験の総年数(分野別)

3.2. ポストドクター等以外の常勤職の経験 [※分析対象(設問番号): Q6]

我が国のポストドクター等に占める35歳以上の年齢層の割合は約4分の1となっており、その背景には社会人経験（ポストドクター等以外の職の経験）等によりポストドクター等としての研究キャリアの開始時期が遅れたケースもある程度含まれていることが、事前のインタビュー調査¹³から予想されていた。本調査においても、「大学卒業以降、ポストドクター以外に常勤の職業（アルバイトなどを除く）に就いた経験はありますか」の問を設けることで、その実態を把握することにした。その結果、年齢の上昇に伴い、ポストドクター等以外の常勤職に就いた経験のある者の割合は増え、35歳～39歳の年齢層では39%（5年以上の経験者は14%）、40歳以上の年齢層では58%（5年以上の経験者は44%）に達していることが判明した（図3-9参照）。

男女別に見ると、女性のポストドクター等についてはポストドクター等以外の常勤職を経験した者の割合が31%と、男性の20%に比べて高くなっている（図3-10参照）。雇用状況調査においても、ポストドクター等に占める女性の割合は40歳以上で高まる傾向にあることが判明しており、女性は男性よりも社会人経験（ポストドクター等以外の常勤職の経験）等によりポストドクター等としての研究活動の開始時期が遅くなっていることがうかがえる。以上のことから、35歳以上の高年齢層や女性のポストドクター等については、ポストドクター等以外の職を含めた多様なキャリア経験を有している実態が明らかとなった。

次に、分野別に比較すると、人文科学、理学、農学分野についてはポストドクター等以外の常勤職を経験した者の比率が、それぞれ15%、17%、19%と低いものの、保健分野では39%と他分野に比べて高くなっている（図3-11参照）。ポストドクター等が多い理学分野の詳細を見ると、当該分野全体の17%がポストドクター等以外の常勤職を経験しているのに対し、物理学専攻では10%と低い状況にあることがわかる（図3-12参照）。以上のことから、理学分野については、大学卒業後に大学院進学、大学院修了後にそのままポストドクター等になった者が多いことが予想される。理学分野については、ポストドクター等を複数回経験し、ポストドクター等としての活動期間が長期化している状況も見られており、その中でも特に物理学専攻のポストドクター等については、以上の傾向がもっとも顕著に表れている。

¹³ 科学技術政策研究所 調査資料-152『インタビュー調査 ポストドクター等のキャリア選択と意識に関する考察～高年齢層と女性のポストドクター等を中心に～』（2008年1月）

問. 大学卒業以降、ポストドクター以外に常勤の職業(アルバイトなどを除く)に就いた経験はありますか。経験年数のおおよその合計を記入してください。

[ポイント]

- ▶年齢の上昇に伴い、ポストドクター等以外の常勤職に就いた経験のある者の割合が増加する。
- ▶女性のポストドクター等については、ポストドクター等以外の常勤職を経験した者の割合が31%と、男性の20%に比べて高い。

[年齢別集計]

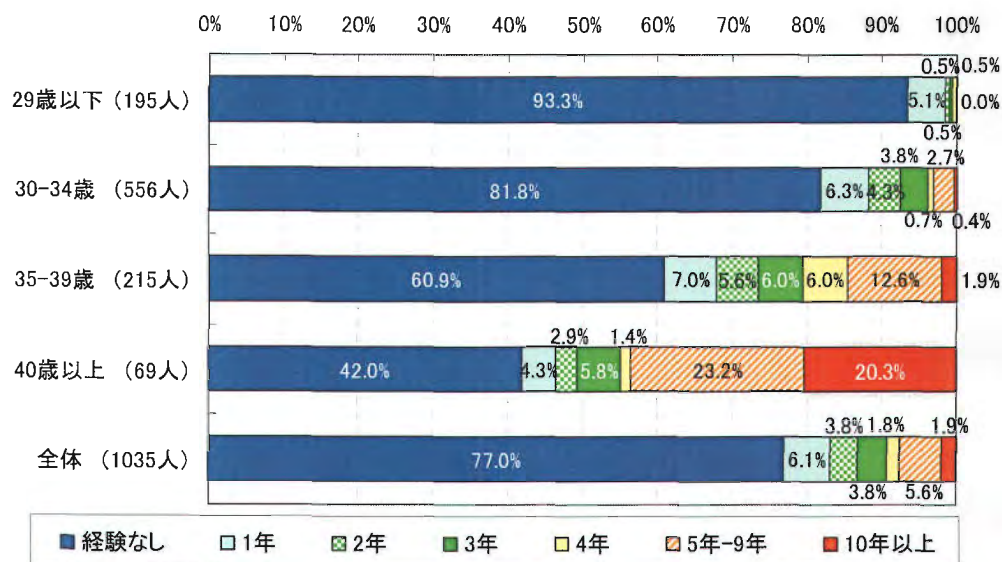


図3-9. ポストドクター等以外の常勤職の経験(年齢別)

[男女別集計]

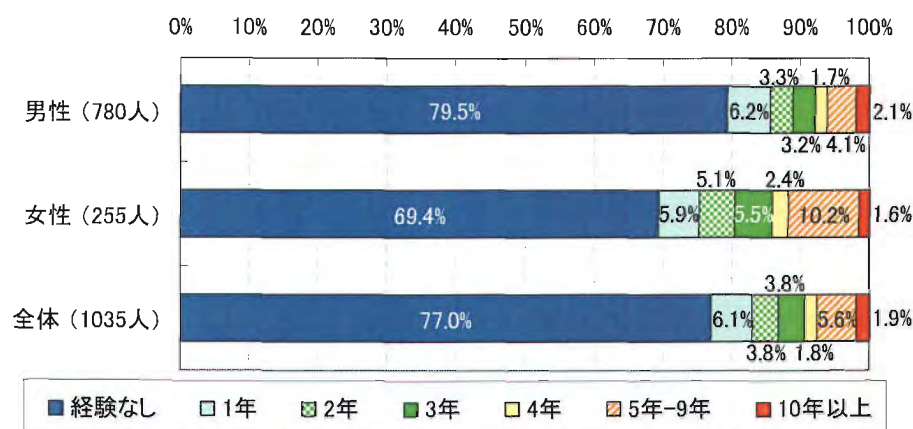


図3-10. ポストドクター等以外の常勤職の経験(男女別)

問. 大学卒業以降、ポストドクター以外に常勤の職業(アルバイトなどを除く)に就いた経験はありますか。経験年数のおおよその合計を記入してください。(続き)

[ポイント]

- ▶保健分野(ほとんどが医学専攻)はポストドクター等以外の常勤職を経験した者の比率が他分野に比べて高く、人文科学と理学分野では低い。
- ▶ポストドクター等が多い理学分野については、物理学専攻でその比率が1割ともっとも低い。

[分野別集計]

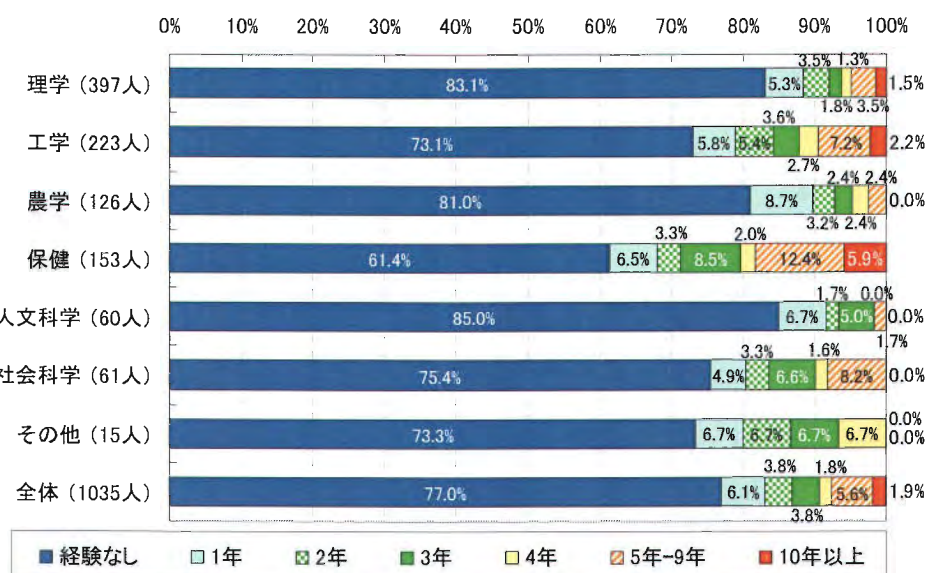


図3-11. ポストドクター等以外の常勤職の経験(分野別)

[分野別集計(理学分野詳細)]

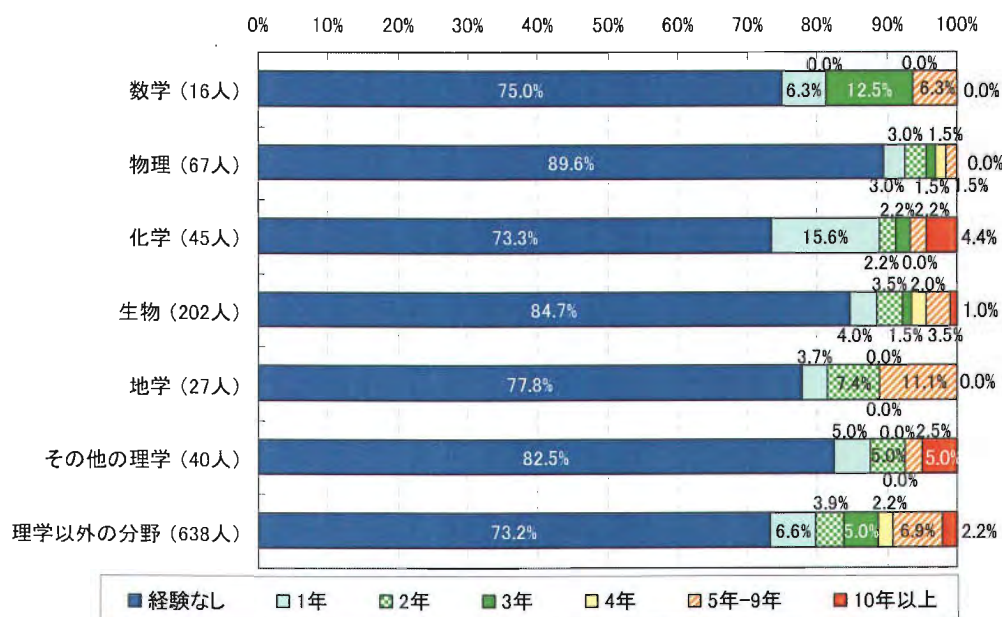


図3-12. ポストドクター等以外の常勤職の経験(理学分野詳細)

第4章 ポストドクター等の意識に見る進路選択の特徴

本章では、ポストドクター等が現在のポストに就くまでの経緯を把握することで、彼らの研究職に対するイメージ、研究者を目指したきっかけなどについて分析する。

4.1. 研究者を目指した時期 [※分析対象(設問番号): Q35]

まず、「研究者になりたいと思ったのは、いつ頃ですか」の設問に対して、「大学」「大学院以降」と回答する者が全体の58%となっており、半数以上のポストドクター等が大学進学以降の比較的遅い段階で「研究者になりたいと思った」ことがわかる。ただし、男女別に見ると、男性が「小学校」「中学校」「高等学校」といった初等・中等教育段階で研究者を目指した割合が37%であるのに対し、女性では28%となっている（図4-1参照）。このことから、女性よりも男性のポストドクター等の方が比較的早い段階で研究者を目指す傾向にあることがわかる。また、「研究者になりたいと思ったことはない」と回答した者は少ないものの、女性のポストドクター等では6%とやや高い比率になっている。

次に、研究者を目指した時期を分野別に比較すると、いずれの分野においても、大学進学以降に「研究者になりたいと思った」者が半数以上と最も多く、特に人文・社会科学分野では「大学」時代に45%程度の者が、工学分野では「大学院以降」に42%の者が研究者を目指していたことがわかる（図4-2参照）。反対に、人文・社会科学分野よりも、理学、農学、保健分野のポストドクター等のほうが、初等・中等教育段階の早い時期に研究者を目指していた者の比率が高く、特に理学分野では44%に達している。「研究者になりたいと思ったことはない」と回答した者に着目すると、人文科学分野で7%と、理学分野の2%に比べてやや高い傾向が見られる。

問. 研究者になりたいと思ったのは、いつ頃ですか。

[ポイント]

- ▶「大学」「大学院以降」に「研究者になりたいと思った」者が全体の58%を占める。
- ▶男性では「小学校」「中学校」「高等学校」で「研究者になりたいと思った」者が37%であるのに対し、女性は28%である。
- ▶全ての分野で、「大学」「大学院以降」に「研究者になりたいと思った」者が半数以上ともっとも多い。
- ▶人文・社会科学分野よりも、理学、保健、農学分野のポストドクター等のほうが、「小学校」「中学校」「高等学校」で研究者を目指していた者の比率が高い。

[男女別集計]

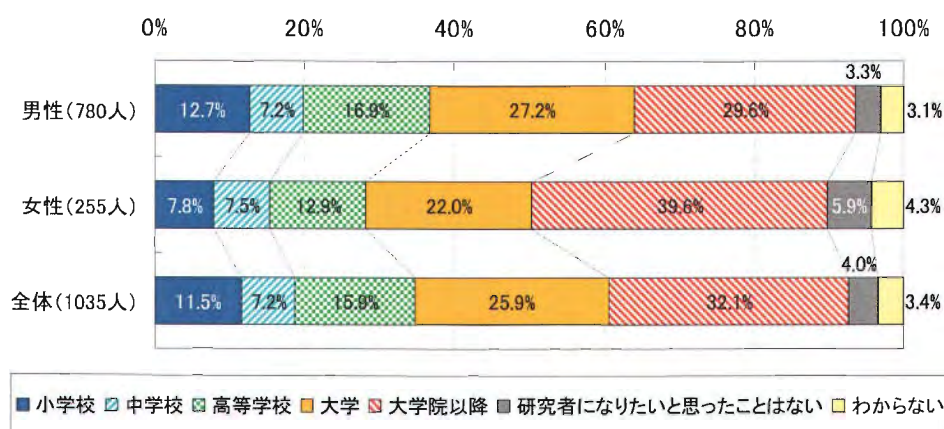


図4-1. 研究者になりたいと思った時期(男女別)

[分野別集計]

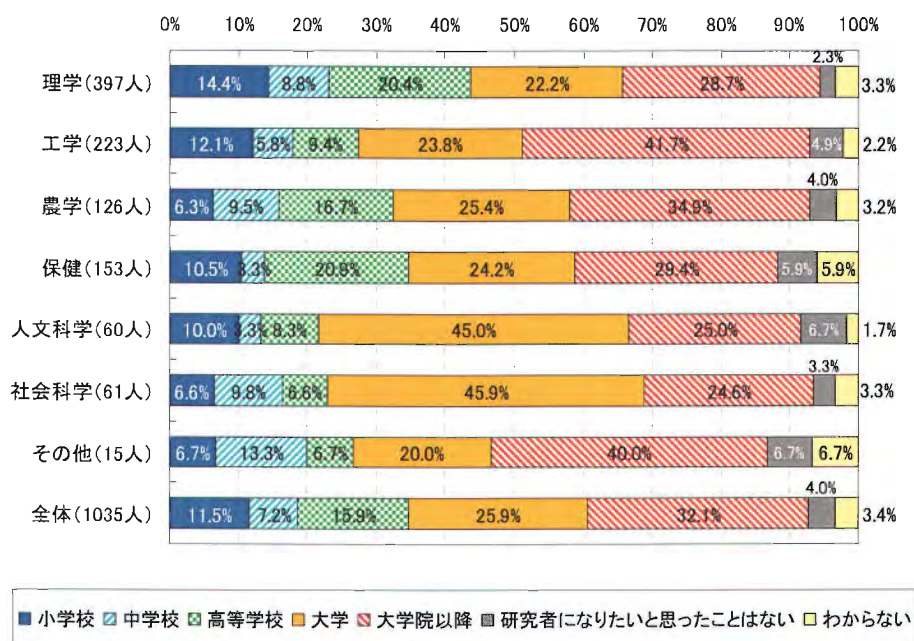


図4-2. 研究者になりたいと思った時期(分野別)

4.2. 研究者を目指したきっかけ [※分析対象(設問番号): Q35]

本節では、ポストドクター等が「研究者になりたいと思ったきっかけ」(自由記述)を、研究者になりたいと思った時期別に整理する。ポストドクター等の少年・少女時代に研究者を目指したきっかけを把握することは、今後の我が国の科学技術関係人材を量的に確保する上でも参考となる¹⁴。

本調査において「研究者になりたいと思ったきっかけ」について回答した者は全体の73% (有効回答者 1,035 人のうち 752 人が回答) であり、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院以降の時期別に見ると、主として以下のような要因が挙げられる。

▶小学校時代に「研究者になりたいと思った」きっかけ

①科学館での体験学習や博物館見学などの課外活動、②理科の実験が楽しかったこと、③科学雑誌・図鑑などの書籍やTV番組(科学関連の特集番組、アニメなど)の影響、④「白衣を着た」博士像への憧れ、⑤身近に研究者がいたこと、⑥その他身近な出来事の影響など。

▶中学校時代に「研究者になりたいと思った」きっかけ

①熱心な教師や授業の影響、②理科への興味・面白さ、③科学関連の書籍(科学者の伝記を含む)やTV番組(特集番組、ニュースなど)の影響、④身近に研究者がいたことなど。

▶高等学校時代に「研究者になりたいと思った」きっかけ

①授業・教師・部活などの影響、②理科への興味・面白さ、③研究への興味や探求心の芽生え、④使命感、⑤書籍・TV番組などの影響、⑥身近に研究者がいたことなど。

▶大学時代に「研究者になりたいと思った」きっかけ

①教師・授業などの影響、②研究室配属や卒論などの経験、③研究への興味や探求心の芽生え、④使命感など。

▶大学院以降に「研究者になりたいと思った」きっかけ

①研究の面白さや探求心の芽生え、②大学院での研究活動経験、③論文などの執筆経験、④民間企業等での就職経験、④指導教員の影響など。

¹⁴ 【海外情報(米国)】2004年に米国の科学技術諮問委員会(PCAST: President's Committee of Advisors on Science and Technology)が大統領に諮問した報告書”Maintaining the Strength of Our Science and Engineering Capabilities”では、科学技術関連の職業への国民の関心が低下している点を危惧している。その要因として、特定分野で学位を取得するまでの期間が長期化していること、ポストドクターとしての研修期間がさらに必要であること、テニユアを獲得するまでのポストドクター期間はストレスが多いことなどを挙げている。

初等・中等教育段階で特徴的なことは、教師や授業（科学館・博物館等での体験学習や課外授業などを含む）の影響の他、書籍（科学雑誌、図鑑、科学者の伝記など）、TV番組（科学関連の特集番組、アニメなど）、身近な研究者の存在（親など）などから得る肯定的な研究者像が影響を与えている様子うかがえる。

問. 研究者になりたいと思ったきっかけを教えてください。(自由記述) 【小学校時代に思った者】

[小学校時代に「研究者になりたいと思った」者の回答例](回答者数: 99人)

※回答者の記述をそのまま掲載

○課外活動などの影響、実験の楽しさ

- ・「理科の授業や夏休みの宿題、科学館での体験授業等で研究に触れるのが好きだったから」(28歳 女性、保健分野)
- ・「学校の社会科見学で遺跡や博物館を見学した際に、研究者の講演を聴き、仕事を実際に目にして興味を持った。また、研究成果の著書を読んで更に研究者になりたいと思った」(38歳 女性、人文科学分野)
- ・「小学校のときに友人と発明部を作って、チョークの再生に関して研究したこと」(34歳 男性、理学分野)
- ・「理科の実験が好きだったこと、及び様々な現象や物事を科学的に解明できたら面白いと思ったこと」(31歳 男性、工学分野)
- ・「科学実験がすきだったから」(37歳 男性、理学分野)
- ・「理科の実験が楽しかったのが原点。今はその延長戦にいる」(36歳 女性、保健分野)
- ・「理科の化学実験が楽しかったから」(31歳 男性、工学分野)

○書籍・TV番組などの影響

- ・「本、テレビ番組、などのメディアを通じて研究の面白さを知った事」(33歳 女性、理学分野)
- ・「図鑑や過去の研究者の伝記などを読んだこと」(27歳 男性、理学分野)
- ・「科学雑誌 NEWTON を定期購読しているうちに、『科学者』という職業に憧れを持った」(28歳 男性、社会科学分野)
- ・「子供のころから科学が好きで、小学校高学年のころから大人用の一般向け科学の本(ブルーバックスなど)を読んでいて、将来、研究者になりたいと漠然と思っていました。本気で研究者を目指したのは大学に入ってからですが」(42歳 男性、理学分野)
- ・「科学読み物などの書籍を通じ、科学に興味を持った」(36歳 男性、保健分野)
- ・「もともと自然観察が好きであって、科学者の伝記等を読んでいたので」(31歳 女性、農学分野)
- ・「土星などの天体の写真を見て、天文学者になりたいと考えました」(28歳 男性、理学分野)
- ・「テレビや本で宇宙の研究のことを知ったこと」(31歳 男性、理学分野)
- ・「キュリー夫人の映画を見たことで興味が湧いた」(29歳 女性、理学分野)
- ・「NHK 放送の『人体』をみて科学者の役割を知り、そのような仕事をしたいと思った」(28歳 女性、理学分野)
- ・「テレビでバイオテクノロジーの特集番組を見て」(35歳 男性、理学分野)
- ・「サイエンス系の TV 番組(おそらくNHK 特集)を見て、自分もまだ知られていない現象を解明するヒト(研究者)になりたいと思ったから」(30歳 女性、理学分野)
- ・「小さな頃、マンガ『鉄腕アトム』を読んで、お茶の水博士になりたいと思ったこと」(48歳 男性、理学分野)
- ・「ドラえもん、学研科学、ファール昆虫記など科学に関する読み物、科学を題材にした読み物に

多く触れたことがきっかけ。また、父親が研究者(文系)であることも影響している(29歳 男性、工学分野)

- ・「SFアニメ」(35歳 男性、理学分野)
- ・「宮崎駿の映画を見た」(29歳 男性、理学分野)

○博士・研究者への憧れ

- ・「白衣を着て仕事をしたかったから」(30歳 男性、保健分野)
- ・「白衣にあこがれたから。理科の実験が好きだったから」(31歳 女性、工学分野)
- ・「知られていないことを調べたり発見したりする仕事楽しそうだと感じたから」(29歳 女性、理学分野)
- ・「誰も知らないことが誰よりも早くわかるから(実際は、わからないことの方が多いけど)」(36歳 男性、理学分野)
- ・「科学の発展に貢献した先人たちの業績に感銘を受け、次は自分が研究者となって次世代のために研究すべきと使命感を感じたため」(31歳 男性、工学分野)
- ・「博士になりたいと思った」(31歳 女性、保健分野)
- ・「博士になって社会貢献がしたいと思った」(36歳 男性、理学分野)
- ・「ノーベル賞を狙えるから」(31歳 男性、理学分野)
- ・「すごそうだったから」(37歳 男性、理学分野)
- ・「楽しそうだったから」(29歳 男性、工学分野)

○身近に研究者がいたこと

- ・「両親が研究者だったから」(30歳 男性、社会科学分野)
- ・「祖父と父が大学教授だったから」(38歳 男性、理学分野)
- ・「身近に研究者がおり、研究に興味があったから」(32歳 男性、人文科学分野)
- ・「身近な人が研究者だったこと」(30歳 男性、農学分野)
- ・「親の研究者としての姿をみて」(29歳 男性、工学分野)
- ・「親が研究職であるため」(32歳 男性、農学分野)
- ・「親が研究者で、魅力的に感じた」(34歳 男性、理学分野)
- ・「研究者である祖父、父の姿を見て」(27歳 男性、工学分野)

○その他

- ・「父親との死別がきっかけで他人の役に立てる仕事をしたかったのと、多くの人のためになる仕事に就きたかったことと、小学校の先生の理科の話がきっかけです」(28歳 男性、理学分野)
- ・「日常的に地震を体験していたため、地震が起きるメカニズムが知りたいと思ったから」(31歳 男性、理学分野)
- ・「自然科学の教材等を両親からプレゼントされ、研究活動に夢や憧れを持ったため」(31歳 男性、工学分野)
- ・「動物好きが高じ、生物学に関心を持った」(28歳 男性、理学分野)
- ・「知らないことを突き詰めて考えるのが好きだったから」(35歳 女性、理学分野)
- ・「生物に興味があったため」(28歳 女性、理学分野)
- ・「科学者の方の話を伺ったこと」(38歳 男性、工学分野)
- ・「パソコンが家にやってきて」(32歳 男性、工学分野)

他

問. 研究者になりたいと思ったきっかけを教えてください。(自由記述)【中学校時代に思った者】

[中学校時代に「研究者になりたいと思った」者の回答例](回答者数: 64人)

※回答者の記述をそのまま掲載

○教師や授業などの影響、理科への興味・面白さ

- ・「理科の授業でいろいろな岩石を実際触る機会があり、地質の好きな教育実習生が熱心に説明してくれた」(35歳 女性、理学分野)
- ・「部活の担当教員の影響」(41歳 男性、農学分野)
- ・「中学校の理科教員が研究活動にも熱心な先生で、感銘を受けたから」(33歳 女性、保健分野)
- ・「中学の時の数学教師が数学に情熱的で、大学院で学びながら教育活動をしている方でした。その先生に習い、楽しそうに語る姿を見るうちに、いつしか大学では数学を専門に選び、研究者の道へと進んできました」(30歳 男性、理学分野)
- ・「科学部に所属していて、顧問の先生の友人の研究所を見学に行ったこと」(34歳 女性、理学分野)
- ・「家庭教師の先生が工学部の大学院生であったことと、理科の実験が特に好きだったため」(31歳 女性、農学分野)
- ・「夏休みの自由研究」(30歳 男性、理学分野)
- ・「理科の授業で見たこと聞いたことについて興味をもち、さらにそれらの現象を深く理解したい、もっと解明したいと思ったから」(29歳 女性、保健分野)
- ・「理科の科目が得意で好きだったから」(43歳 女性、理学分野)
- ・「理科が面白いと感じていたから。」(35歳 女性、理学分野)

○書籍・TV番組・ニュースなどの影響

- ・「理科教育とファラデーらの著作」(29歳 男性、理学分野)
- ・「本や映画にでてきた研究者に憧れた」(29歳 男性、理学分野)
- ・「日本人初のスペースシャトル、ペイロードスペシャリストの誕生」(29歳 男性、理学分野)
- ・「雑誌のNewtonを読んで面白そうだったこと」(33歳 男性、理学分野)
- ・「ブルーボックスを読んで」(32歳 男性、理学分野)
- ・「テレビの研究者関連企画番組を見たこと」(31歳 男性、工学分野)
- ・「テレビで『環境問題』に関わる研究者のインタビューを見たのが最初のきっかけ」(33歳 女性、農学分野)
- ・「アインシュタインの伝記を読んだこと」(31歳 男性、理学分野)
- ・「NHKの『アインシュタインロマン』を観て興味を持ったから」(32歳 男性、理学分野)
- ・「教育テレビ等の生物学系の番組を見て、生命現象の解明に興味を持ったこと」(33歳 女性、農学分野)
- ・「過去の偉人の伝記を読んで」(34歳 男性、工学分野)

○身近に研究者がいたこと

- ・「慕っていた祖父が(現在の自分の専門とは異なるが)大学の研究者だったので」(30歳 男性、社会科学分野)
- ・「父・祖父が研究開発に従事していたこと」(31歳 男性、理学分野)
- ・「親が研究者でその影響」(30歳 男性、農学分野)
- ・「研究者の叔父に憧れて」(30歳 男性、工学分野)

他

[高等学校時代に「研究者になりたいと思った」者の回答例](回答者数: 143人)

※回答者の記述をそのまま掲載

○授業・教師・部活などの影響、理科への興味・面白さ

- ・「理科系の科目に強い興味があった」(39歳 女性、理学分野)
- ・「科学をおもしろく感じた」(36歳 男性、農学分野)
- ・「高校での授業から科学に興味を抱いたため」(34歳 男性、保健分野)
- ・「高校の生物の授業を受けて、生命科学研究が面白いと感じた。教師が情熱を持って教えてくれた」(30歳 男性、理学分野)
- ・「高校の頃の物理の授業が大変面白く、物理の研究する職業に就きたいと思い、理学部へ進学し研究者になることを決意した」(28歳 男性、理学分野)
- ・「高校の物理学の講義が面白かったから」(30歳 男性、工学分野)
- ・「理科、化学実験が好きだったから」(48歳 男性、保健分野)
- ・「高等学校時代の部活動を通じて研究の面白さを知った」(33歳 男性、理学分野)
- ・「生物の実験を通じてそう思うようになった」(30歳 男性、理学分野)
- ・「化学や生物の実験が好きだったから」(30歳 女性、農学分野)
- ・「自由研究課題」(37歳 男性、理学分野)
- ・「生物部で研究したことがきっかけです」(36歳 男性、工学分野)
- ・「高校在学時に理科教諭の課外研究活動を友人に誘われて手伝い始め、実験や観察から自分の手で新たな発見をする楽しさを感じたことがきっかけとなった」(35歳 女性、農学分野)
- ・「高校の部活(物理部)がとても楽しい体験だったので」(37歳 男性、理学分野)
- ・「高校の生物の授業を受けて」(29歳 男性、保健分野)
- ・「担任教師のアドバイス」(36歳 男性、人文科学分野)
- ・「高校時代の教師の影響で、農学分野の仕事に就きたいと思い、その中でも研究者はやりがいがあることと、自分の性格に向いていると感じたから」(34歳 女性、農学分野)
- ・「高校で恩師の薫陶を受けて」(30歳 男性、人文科学分野)
- ・「先生の勧め」(30歳 男性、工学分野)

○研究への興味、探求心の芽生えなど

- ・「物理学がとても魅力的に思え、その発展に貢献できたら素晴らしいだろうと 考えたため」(36歳 男性、理学分野)
- ・「脳の仕組みに興味をもち、未知の機能を知りたいと思ったことより」(29歳 女性、理学分野)
- ・「不思議と思うことを追求せずにはいられない性格なため」(34歳 男性、工学分野)
- ・「地球温暖化や砂漠化について、いろいろ調べ始めたこと」(33歳 男性、理学分野)
- ・「新しいことを発見することを楽しいと感じたから」(31歳 男性、工学分野)
- ・「新しいことを発見したいと思った」(37歳 男性、農学分野)
- ・「自分の体のことを理解したいと思ったから」(45歳 女性、理学分野)
- ・「自分の才能を生かした職業に就きたかったから」(29歳 男性、理学分野)
- ・「自分の興味関心分野が研究を必要とするものだったから」(29歳 男性、保健分野)
- ・「研究で飯が食えたらいいなと思ったから」(29歳 男性、農学分野)
- ・「経済活動等とは異なり、理は普遍であると思い、それを探求したいと思った」(30歳 男性、保健分野)
- ・「元来、生物全般に興味があり、利益追求よりも知的好奇心を満たす方が強い満足を得られると考え、研究者が適していると思った」(35歳 女性、保健分野)

- ・「元々技術者になりたいと思っていましたが、高校の時に気象衛星からの直接画像受信をクラブで企画し行いました。この時、物理で勉強した内容(電波のドップラー効果、衛星の速度、地球が丸い事など)が本当である事を実感した。これらは多くの研究者が研究活動を通じて明らかにした事物であり、自分もこのような意義ある活動に参加したいと考えた」(42歳 男性、工学分野)
- ・「生物が好きであり、研究が面白そうだった。人のために役立つ、病気を治す研究がしたかった」(30歳 女性、保健分野)
- ・「生き物はどうやって生きていけるのか、理科の授業で習うよりもっと細かい所が気になったから」(36歳 女性、農学分野)
- ・「数学、物理などが面白く得意でした。これを生かして仕事が出来ればと思ったことや、未知の分野を切り開く仕事が面白そうだと感じたため」(33歳 男性、理学分野)
- ・「生命科学の何か新しいことを発見したかった」(37歳 男性、理学分野)
- ・「ヒトが生きている仕組みに興味があった病気の解明に役立つような研究をしてみたいと思った」(30歳 女性、理学分野)
- ・「自然界の謎を解き明かしたいため」(37歳 男性、保健分野)
- ・「医薬品の研究開発に興味を持ち、このようなことに関わっていきたいと思い、その手段の一つとして生物系の研究者を志した」(28歳 男性、理学分野)
- ・「医者になろうかと思ったが、研究職の方がより基礎科学に近く魅力的だったから」(30歳 女性、保健分野)
- ・「高校時代の家庭教師から研究の話題を聞き、興味を持った」(34歳 男性、理学分野)
- ・「I've always liked sciences. Making new discoveries is something both challenging and rewarding.」(38歳 男性、理学分野)
- ・「環境問題に興味があった」(31歳 男性、農学分野)

○使命感など

- ・「他人を貶めたり不幸にさせるような仕事をさせられる事が絶対に無いと思ったから」(28歳 男性、理学分野)
- ・「小さい頃から動物が好きで、野生生物の保護をするためには基礎生態の研究が必要だと考えた」(29歳 女性、農学分野)
- ・「砂漠化対処に革新的な発見や発明が必要だと感じたため」(36歳 男性、農学分野)
- ・「手を動かして実験をすることが好きで、環境問題について何か改善策を見つけたいと思ったから」(30歳 女性、理学分野)
- ・「科学の発展を通じた人類社会への貢献にあこがれた」(30歳 男性、理学分野)
- ・「社会について自分の意見を主張したいと思った時に、他人を説得する根拠が必要だと思ったこと」(31歳 男性、社会科学分野)
- ・「企業や国家という枠にとらわれずに、自分の力によって地球や人類に貢献できる職であると考えたから」(33歳 男性、工学分野)
- ・「医療への貢献」(30歳 男性、理学分野)

○書籍・TV番組・ニュースなどの影響

- ・「利根川進著『精神と物質』を読んで」(34歳 男性、理学分野)
- ・「湯川秀樹の随筆を読んで、面白そうだったから」(30歳 男性、理学分野)
- ・「勝海舟の『氷川清話』を読んでから日本の近代化に興味を持ったから」(37歳 男性、人文科学分野)
- ・「S.W.Hawkingの『ホーキング宇宙を語る』を読んだこと」(33歳 男性、保健分野)
- ・「NHKスペシャル『銀河宇宙オデッセイ』を観て、未知の事象・現象を解明していくという行為に憧れたから」(34歳 男性、工学分野)
- ・「書籍や雑誌等で現在の研究分野である宇宙のことに興味を持ったこと」(30歳 男性、理学分野)

- ・「新書や科学雑誌などを見て」(29歳 男性、工学分野)
- ・「漫画を見て」(29歳 男性、理学分野)
- ・「科学者の本に感銘を受けたから」(34歳 女性、保健分野)
- ・「科学雑誌等を読んで」(32歳 男性、理学分野)
- ・「影響を受けた本の著者が大学の先生だったため」(34歳 男性、理学分野)
- ・「いくつかの本を読むことにより、科学上の大発見を夢見るようになりました」(28歳 男性、保健分野)
- ・「テレビ番組(アインシュタイン(フジテレビ))と生物の授業(DNAの魅力)」(34歳 男性、理学分野)
- ・「テレビでバイオテクノロジー関連の番組を見たこと」(37歳 男性、理学分野)
- ・「サイエンス関係のニュースを聞くうちに」(27歳 男性、保健分野)
- ・「啓蒙書を読み、そこに書かれているようなこと(研究)を自分も行ってみたいと考えたこと」(29歳 男性、理学分野)
- ・「興味深い歴史書を読み、感銘を受けたこと」(37歳 男性、社会科学分野)
- ・「教育テレビの番組を見て」(31歳 男性、人文科学分野)
- ・「高校時代に中国の環境破壊を特集したTV番組を見、環境問題に取り組む研究者が紹介され、自分もそうなりたと思った」(33歳 男性、工学分野)
- ・「高校の生物の資料集にのっていたNASAの研究紹介をみて感動したこと」(30歳 女性、農学分野)
- ・「ノーベル賞受賞者の対談を読んでから」(31歳 男性、理学分野)

○身近に研究者がいたこと

- ・「両親の影響」(33歳 女性、理学分野)
- ・「両親とも研究職だったのでなるのが当然だと思っていた」(33歳 男性、農学分野)
- ・「両親が研究者だったので」(36歳 女性、保健分野)
- ・「父が病理医のため研究職は時間、休暇など自主的にコントロールできる職業だ、と感じたため(でも実際は仕事が多くてそういうわけにはいかない)」(39歳 女性、保健分野)
- ・「身近に研究者がいたから」(32歳 女性、保健分野)
- ・「自分が物心つく前にこの世を去った、研究者の父を知るため」(32歳 男性、理学分野)
- ・「尊敬できる研究者が周りにいたため」(35歳 男性、その他の分野)

○その他

- ・「夢があったから。今考えると国に煽られたかも」(30歳 男性、理学分野)
- ・「大学のオープンキャンパスにおける面談」(28歳 男性、工学分野)
- ・「研究者になるといったことよりも、博士号を取得することが重要であることを海外での生活を通して感じたから。」(32歳 男性、工学分野)
- ・「当時は研究職ならあまり人付き合いしなくても済むと思っていたから」(30歳 男性、理学分野)
- ・「楽そうだったから」(34歳 男性、社会科学分野)
- ・「小学校低学年時から読書、実験に没頭する方で、文系・理系どちらでも物事を突き詰める仕事に就きたかったが、ロールモデルが身近になかった。予備校の夏期講習で講師(アルバイト)に博士課程やOD、PDの研究者が多く、彼らに話を聞くことで研究者というものがようやくイメージできた。」(44歳 女性、農学分野)
- ・「特に理由は思い出せないが、漠然と自分は博士課程を修了して、研究者になりたいと思っていた」(35歳 男性、保健分野)
- ・「なんとなく」(37歳 男性、理学分野)
- ・「きっかけのようなものは明確にはありませんが、面白そうだと思います。」(36歳 男性、(工学分野)

他

問. 研究者になりたいと思ったきっかけを教えてください。(自由記述)【大学時代に思った者】

[大学時代に「研究者になりたいと思った」者の回答例](自由記述回答者数: 205人)

※回答者の記述をそのまま掲載

○教師・授業などの影響

- ・「指導教官や受講した講義の教授との話から」(32歳 男性、社会科学分野)
- ・「大学時代に出会った先生の影響があって、将来教育関係の仕事に就きたいと思った」(29歳 女性、社会科学分野)
- ・「大学の講義を受けて自分でも真理の探究を試みたいと思った」(30歳 男性、理学分野)
- ・「大学の講義で、担当だった教員の方の研究内容がとても魅力的で興味を持ったため」(28歳 男性、理学分野)
- ・「生物学を習ったときに、その巧妙な仕組みに感銘を受けたから」(38歳 男性、保健分野)
- ・「大学1年のときに受けた指導教官による講義。当時、社会的にも学術的にも意義深く、かつ将来性のある研究テーマであると思った」(29歳 男性、農学分野)
- ・「尊敬する教授に出会ったから」(30歳 男性、農学分野)
- ・「大学の物理実験(考察すること)が楽しかったことがきっかけとなりました」(31歳 女性、工学分野)
- ・「兵庫県南部地震の発生と地学実験の授業が興味深かったこと」(32歳 男性、理学分野)
- ・「実験が好きだった為」(33歳 女性、保健分野)

○研究室配属、卒論などを通して

- ・「大学四年生時に研究室に配属されて、研究が面白いと感じたこと」(32歳 男性、理学分野)
- ・「学部時代に所属していた研究室で、教官の指導のもとで卒業研究を通して、研究活動を行ったことがきっかけとなりました」(31歳 女性、工学分野)
- ・「研究室に所属し、実際に研究に携わったこと」(34歳 男性、農学分野)
- ・「卒論作成のための実験活動が面白く、同じテーマの研究をもっと続けたいと思ったので」(30歳 女性、人文科学分野)
- ・「卒業研究を面白いと感じたから」(32歳 男性、農学分野)
- ・「卒業研究における独創的な研究が成功したこと。それにより大学の薦めもあり就職内定も辞退した。後にその分野の研究が学会より個人表彰を受けるまでに発展している」(31歳 男性、工学分野)
- ・「学生実習や卒業研究を通して、実験の楽しさを知った」(31歳 男性、理学分野)
- ・「大学の卒業研究の際、研究目的のために、様々な知識をつけたり、データを分析することが楽しかったため」(29歳 男性、人文科学分野)
- ・「大学の卒業研究にて直に研究に触れ、世界と繋がる研究の魅力に魅了されたこと、また、先輩や教員の経験を聞き研究者としての生き方に憧れたこと」(27歳 男性、保健分野)

○研究への興味、探求心の芽生えなど

- ・「未知のものに取り組めるため、知的好奇心が満足されること。またその成果を世に還元できること」(31歳 男性、農学分野)
- ・「研究の面白さが理解できるようになったこと」(32歳 男性、工学分野)
- ・「自分で研究の目的、対象をほぼ自由に計画でき、それらを遂行するために知恵を絞る事が楽しいと思ったから」(33歳 男性、農学分野)
- ・「自分で仮説を組み立て、目標に向かって自分をコントロールしながら研究をすること、論証するおもしろさに目覚めたから」(36歳 女性、人文科学分野)

- ・「高等学校までの常識的な知識が根底から覆り、新鮮な世界が眼前に開けたとき、新しい知見を創造する営みに生き甲斐を感じたとき」(37歳 男性、人文科学分野)
- ・「社会の経済的活動に魅力を感じず、科学的研究での真理追求に魅力を感じるから」(32歳 男性、理学分野)
- ・「生命現象についてなにか1つでも明らかにしたいと、分子生物学の授業を受けて思ったから」(36歳 女性、理学分野)
- ・「高度な理論の美しさに魅かれた」(40歳 男性、工学分野)

○使命感など

- ・「農業の維持・発展に貢献する一つの方法と考えたから」(38歳 男性、農学分野)
- ・「臨床医療の現場では未知の、不治の疾患が多いとっていて、研究者になりましたら臨床医師以上の貢献が出来るんじゃないかと思っていたのがきっかけです」(47歳 男性、保健分野)
- ・「環境問題に興味があり、自分も何かの役に立ちたいと思ったから」(29歳 女性、理学分野)
- ・「社会問題を改善したかったから」(33歳 男性、社会科学分野)
- ・「「知の創造」と「国を担う人材の育成」という、国政上、最も重要な職業の一つであると考えたから」(31歳 男性、工学分野)

○その他

- ・「大学4年の頃の民間企業へのインターンシップを経験したこと」(29歳 男性、理学分野)
- ・「家庭教師や塾のアルバイトで、教える喜びを知ったことと、恩師に「向いている」と言われたことがきっかけになっています」(33歳 男性、社会科学分野)
- ・「お世話になった博士課程の先輩が、楽しそうに研究活動を行っていて、自分もやってみたくなった」(29歳 男性、工学分野)
- ・「分かりやすく、かつ、すぐれた学術書を読んだこと。自分もそのような本を書けるようになりたいと思った」(30歳 女性、社会科学分野)
- ・「大学入学後、勉強系サークルで数学や物理学の輪講をやった為」(34歳 男性、理学分野)
- ・「出版物の影響」(34歳 女性、保健分野)
- ・「両親が研究者なので自然に」(34歳 女性、人文科学分野)
- ・「勤務時間や業務内容を自分がコントロールできるところに魅力を感じたため」(30歳 男性、工学分野)
- ・「大学教授になりたかった」(33歳 女性、保健分野)
- ・「大学教員のライフスタイルに憧れた」(32歳 男性、社会科学分野)
- ・「博士号への憧れ。研究が肌に合っていると感じたから」(31歳 男性、農学分野)
- ・「当時の研究者に対する社会的な高評価」(30歳 男性、保健分野)
- ・「インパクトのある本との出会い」(30歳 男性、社会科学分野)
- ・「奨学金の返済義務が免除されるから」(33歳 男性、理学分野)
- ・「他分野の職種に自分の才能が適していないと感じたから」(37歳 男性、保健分野)
- ・「他の仕事が向かないと思った」(29歳 男性、社会科学分野)
- ・「研究者以外になりたいものがなかった」(32歳 男性、農学分野)
- ・「なんとなく」(29歳 男性、工学分野)

他

問. 研究者になりたいと思ったきっかけを教えてください。(自由記述)【大学院以降に思った者】

[大学院以降に「研究者になりたいと思った」者の回答例](回答者数: 222人)

※回答者の記述をそのまま掲載

○研究・論文執筆の面白さ、探求心の芽生えなど

- ・「研究プロジェクトをくみ上げる過程の楽しさ、及び研究業務の楽しさと、達成時の満足感を実感したため」(27歳 男性、保健分野)
- ・「研究の面白さを知ったから」(35歳 女性、その他の分野)
- ・「研究の面白さを感じた」(36歳 男性、農学分野)
- ・「研究の楽しさを覚えたから」(35歳 男性、工学分野)
- ・「研究にやりがいを感じたから」(29歳 女性、理学分野)
- ・「研究テーマをより深く明らかにしたいと考えたから」(40歳 男性、農学分野)
- ・「研究することがおもしろく、研究成果を地域のために活かしたいと考えたから」(33歳 男性、社会科学分野)
- ・「研究していたテーマについて大きな進展があった時にとてもうれしかったから」(30歳 男性、工学分野)
- ・「研究して、生活できるなら楽しそうだから」(35歳 男性、農学分野)
- ・「研究が面白かったから」(28歳 女性、理学分野)
- ・「研究がおもしろかったから。研究者がかっこいいと思ったから。研究者は外国を歩きまわることが多いと思ったから。研究者は自分の裁量で仕事ができると思ったから」(28歳 男性、理学分野)
- ・「実際に実験を任されるようになってからその魅力に惹かれました」(28歳 男性、理学分野)
- ・「実験や調査を行うことが楽しくなったため」(30歳 男性、農学分野)
- ・「実験が好きということと、探究心を持って取り組む姿勢が自分の性格に合うと思ったため。また、当時の人間環境、研究環境にも恵まれていたから」(29歳 男性、保健分野)
- ・「大学院以降の研究分野に対する知的好奇心」(31歳 男性、工学分野)
- ・「大学院の中で勉強しているうちに、自分の知らない事が多く解っていないことを「明らかにする」楽しさを知ったから」(35歳 女性、保健分野)
- ・「自分が新しい事を発見することの楽しさを知ってから研究者になりたいと思った。また、社会に対しての使命感もあって」(31歳 女性、工学分野)
- ・「大学院の頃、純粋に研究が面白く、好奇心を掻き立てられた経験から研究に従事する職に就きたいと考えました。また、研究に携わることにより直接的に人類、社会に貢献できる可能性と機会を得ることができることも研究者を選択した要因の一つです」(39歳 男性、工学分野)
- ・「物事を知り、その知の生産に自分がかかわることに喜びを覚えたから」(34歳 男性、人文科学分野)
- ・「物事の成り立ちが知りたかった」(30歳 女性、理学分野)
- ・「大学院生(修士)の時の自分の研究テーマがグループ内で最も規模の小さなテーマだったために、殆ど研究費が貰えず備品、消耗品の購入にも苦労した経験があった。その時に十分な機材が整った環境で研究したら自分の能力はどれ程のものなのかを知りたくなり、博士課程へ進学し研究者になろうと思った」(33歳 男性、工学分野)
- ・「修士、博士課程において研究活動を行い、自身に向いていると感じたから」(28歳 男性、工学分野)
- ・「大学院で実際に研究を行なって、研究生活が楽しかったことと、指導教官に自分の研究を実行する能力は低くないと言っていたため」(32歳 男性、理学分野)
- ・「大学院で研究しているうちに、意外と自分に向いていることに気づいた」(30歳 男性、理学分野)
- ・「大学院で興味あるデータと出会えたから」(33歳 女性、人文科学分野)
- ・「大学院での研究活動を通じて、研究者が(自分の中では)最も向いている職業だと思ったから」

(36歳 男性、理学分野)

- ・「大学院での研究が面白くなってきた頃になりたいと思った」(37歳 男性、理学分野)
- ・「大学院での研究が楽しく、その研究を続けたいと思ったから」(33歳 女性、農学分野)
- ・「修士課程の研究において、自分自身の手で物事を明らかにできることが面白いと感じた。常に科学の先端に触れることができるのがよい」(31歳 女性、保健分野)
- ・「論文投稿に楽しみが感じられたため」(31歳 男性、社会科学分野)
- ・「初めて書いた論文に対し、国内外から反響があり、うれしかったから」(30歳 女性、社会科学分野)
- ・「初めて国際誌に論文が掲載されたときかな」(33歳 男性、理学分野)
- ・「初めて行った実験がうまくいき、修士の間に論文を出せたので」(33歳 女性、保健分野)
- ・「修士論文を評価していただいたことで、修士課程修了後も研究活動を継続していく自信を持つことができたから」(29歳 男性、人文科学分野)
- ・「卒論、修論の研究を通じて「博士」という学位に関心を持ったため」(31歳 男性、農学分野)
- ・「卒業研究を行っている時に知らないことを知れるおもしろさ、自分で考えて、何がしの答えに行き着く過程にワクワクした」(32歳 女性、保健分野)
- ・「卒業研究に興味があり、研究を継続したいと考えた」(35歳 男性、理学分野)
- ・「卒業研究で行っていた研究が、従来に無い興味深い結果だったので、自分でより深く研究してみたくなったため」(33歳 男性、工学分野)

○民間企業等への就職を通して

- ・「民間企業に就職し、業務を行う中で、「広く浅く」ではなく、一つの分野を専門的に研究したいと思ったこと」(33歳 男性、工学分野)
- ・「民間会社で、部分的に研究業務を遂行していた時期に、研究活動へ興味を強く受けたため、研究活動を主とした研究者を目指すこととなった」(35歳 男性、農学分野)
- ・「企業で製品開発をしていて科学への興味が大きくなり、なりたいたと思った」(40歳 女性、工学分野)
- ・「企業での研究開発職としての実務」(33歳 男性、理学分野)
- ・「企業での開発業務が退屈だったこと」(27歳 男性、理学分野)
- ・「博士取得前の就職時、テクニシャンとしての仕事に不満を感じたから」(40歳 女性、保健分野)
- ・「就職してから、研究活動が必要だと思ったから」(36歳 女性、保健分野)
- ・「社会経験後に大学院に進学したため、広い視野で研究に取り組む事ができるため」(36歳 男性、工学分野)
- ・「大学卒業後社会に出て感じたテーマを追究したいと思ったため」(39歳 女性、その他の分野)
- ・「大学卒業後に一度社会に出て(出版社に就職して)勤務しながら将来について熟考した」(39歳 男性、社会科学分野)
- ・「NPO有給スタッフ時に、現場の状況の限界を経験し、アカデミックな視点から問題点を考え直したいと思ったから」(34歳 男性、社会科学分野)
- ・「現在の職場に技術員として就職し、研究の仕事に触れて、研究を面白いと感じたことがきっかけ」(35歳 女性、理学分野)

○指導教員の影響など

- ・「指導教授からの薦めと、自分で研究テーマを選択・実行できることが魅力で大学院に進学して研究職につきたいと考えるようになった」(36歳 男性、社会科学分野)
- ・「指導教官の姿をみて、教育・研究の面白さに目覚めました」(34歳 男性、工学分野)
- ・「指導教官の影響」(34歳 男性、理学分野)
- ・「指導教官に促された」(29歳 男性、保健分野)
- ・「my supervisor suggested me to become a researcher.」(32歳 女性、工学分野)

・「当時の上司の薦め」(33歳 男性、工学分野)

○その他

- ・「世の中を変えたいと思った。高校時代の友人に向いていると言われた」(30歳 男性、工学分野)
- ・「世のため、人のためになることをしたかったので」(33歳 男性、理学分野)
- ・「これまでの研究生生活を通し、研究を通して社会貢献できる道を考えたいと思うようになった」(27歳 女性、農学分野)
- ・「大学院の身に付けたことを、異分野においても、より発展させたいと考えたため」(33歳 男性、理学分野)
- ・「大学院ではあまり真剣に研究に取り組みなかった。就職活動で様々な研究者の話を聞きもって研究したいと思い研究機関に就職した。そこでNIHに短期留学する機会を得、帰国して博士号を取得しようと決意した」(34歳 女性、農学分野)
- ・「アルバイト先の研究室で大学院への入学を勧められた」(50歳 女性、工学分野)
- ・「企業への就職に失敗したため。また研究が面白かったから」(30歳 女性、農学分野)
- ・「奨学金の返済免除」(31歳 男性、(工学分野)
- ・「日本学術振興会のDC1をいただいて、研究しながら生活できることを実感したから」(27歳 女性、人文科学分野)
- ・「他の職種を選ぶ際には既に年齢制限の対象外であったことと、ライフサイエンスへの探求心から」(34歳 男性、農学分野)
- ・「他に選択肢がなかったため」(40歳 女性、理学分野)
- ・「他に行くところがなかったから」(33歳 男性、工学分野)
- ・「就職活動中に、企業の求めているものと自分のやりたいことのギャップに気付いたため」(38歳 男性、理学分野)
- ・「就職活動時に研究者という職業が適しているのではと確認できたから」(30歳 男性、理学分野)
- ・「両親が博士号取得者だから」(33歳 男性、保健分野)
- ・「家庭環境にもよる。父が大学の教官だった」(66歳 男性、工学分野)
- ・「技術をベースに起業したいと思ったから」(30歳 男性、工学分野)
- ・「すでに博士を取ったから、今後は唯一の道と思います」(32歳 女性、理学分野)
- ・「今でも不明」(33歳 男性、工学分野)
- ・「アメリカ留学」(31歳 女性、保健分野)
- ・「仕方がない」(44歳 男性、工学分野)
- ・「いろいろと制限の少ない職業であると感じたこと」(34歳 男性、理学分野)
- ・「自分の発想を試すことができる」(35歳 男性、理学分野)
- ・「自分のやりたいことができるから」(29歳 男性、工学分野)
- ・「自分に適しているから」(44歳 女性、保健分野)
- ・「自分が興味を持った学問の研鑽を通じて、自己の人格を陶冶しつつ、社会に対して広い意味での文化的な貢献を行いたいという希望があったため」(30歳 男性、人文科学分野)

他

4.3. ポストドクター等になった理由 [※分析対象(設問番号): Q29, Q37, Q38]

ポストドクター等になった主な理由を聞いたところ、「研究を続けたかったから」を挙げる者が全体の46%ともっとも多く、次いで「研究者になりたかったから」の27%となっている(図4-3参照)。有効回答者の73%が、「研究者になりたかったから」、「研究を続けたかったから」を理由に挙げており、全体的に研究に対する強い関心が見られる。その一方で、「他に就職先が見つからなかったから」の11%を筆頭に、必ずしも積極的ではない理由(「他に就職先が見つからなかったから」、「奨学金の返済義務が免除されるから」、「先生、家族、知人、先輩などから勧められたから」、「企業などへの就職にあまり興味がなかったから」、「特にこれといった理由はない、または考えたことがない」)で現在のポストを選択した者も19%いることがわかる¹⁵。

男女別に比較すると、女性では「研究を続けたかったから」(53%)が「研究者になりたかったから」(17%)を大きく上回っており、女性のポストドクター等については研究そのものの継続を希望する傾向が見られる(図4-4参照)¹⁶。

次に、「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度を見てみると、有効回答者の半数弱が「ポストドクターを選択したこと」を「満足」または「やや満足」と回答しており、「不満」または「やや不満」と回答した割合よりも高くなっている(図4-5参照)。また、男女差も殆ど見られない。しかし分野別に見ると、人文・社会科学分野において「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度は高く、農学分野で満足度が低くなっている(図4-6参照)。

¹⁵ 【海外情報(米国)】調査方法や回答の選択肢が異なるために単純な比較はできないものの、米国においても「他に就職先が見つからなかった」ことを理由に、ポストドクターを選択したと回答する者が11%(2006年)存在している(National Science Foundation, “Survey of Doctorate Recipients: 2006”)。

¹⁶ 事前のインタビュー調査では、女性のポストドクター等の一部から「子供の育児もあるため、パーマネントな職(大学教員などは雑務が多い)よりも、ポstdok・ポストのほうが良い」、「将来結婚し、夫の給与もあれば、ずっとポstdokのままでもよい」といった意見が聞かれた。(科学技術政策研究所 調査資料-152『インタビュー調査 ポストドクター等のキャリア選択と意識に関する考察 ～高年齢層と女性のポストドクター等を中心に～』(2008年1月)を参照)

問. ポストドクターになった主な理由を、以下から1つだけ選んでください。

[ポイント]

- ▶ポストドクター等になった主な理由として、「研究を続けたかったから」、「研究者になりたかったから」をあげる者が全体の73%を占めている。
- ▶女性のポストドクター等では、「研究を続けたかったから」が「研究者になりたかったから」を大きく上回っており、「研究」そのものの継続を希望している傾向が見られる。

[全体集計]

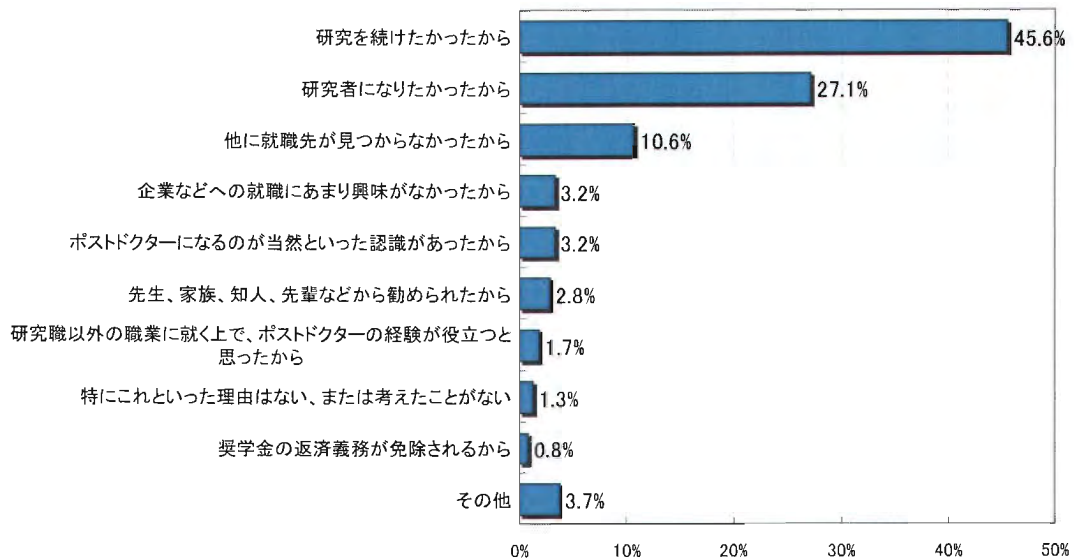


図4-3. ポストドクター等になった主な理由(全体)

[男女別集計]

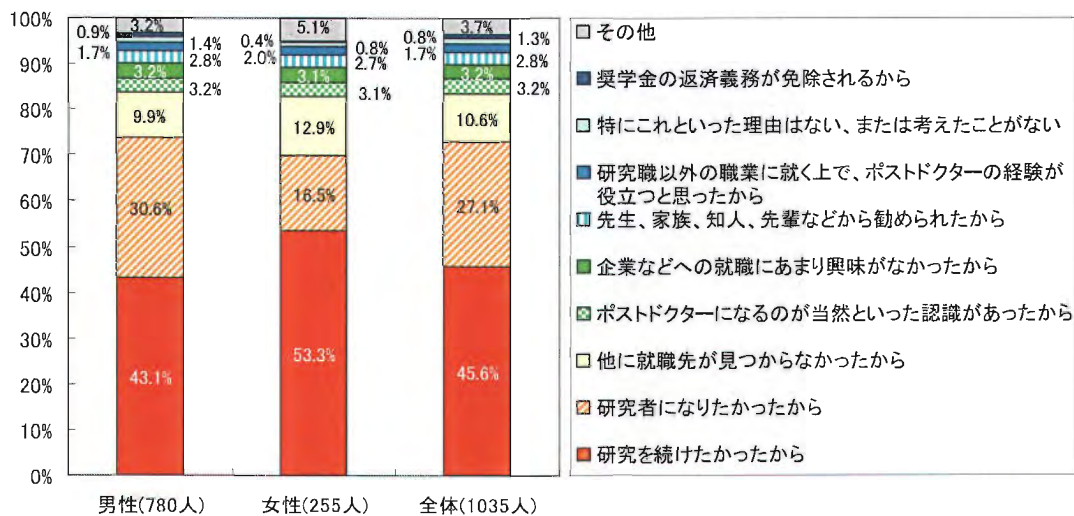


図4-4. ポストドクター等になった主な理由(男女別)

問. あなたは、「ポストドクターを選択したこと」に満足していますか。該当するものを選んでください。

[ポイント]

- ▶「ポストドクターを選択したこと」に「満足」または「やや満足」と回答したポストドクター等の割合は全体の46%を占めている。
- ▶「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度に大きな性差は見られない。
- ▶分野別では、人文・社会科学分野において「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度が比較的高く、農学分野では満足度が低い。

[男女別集計]

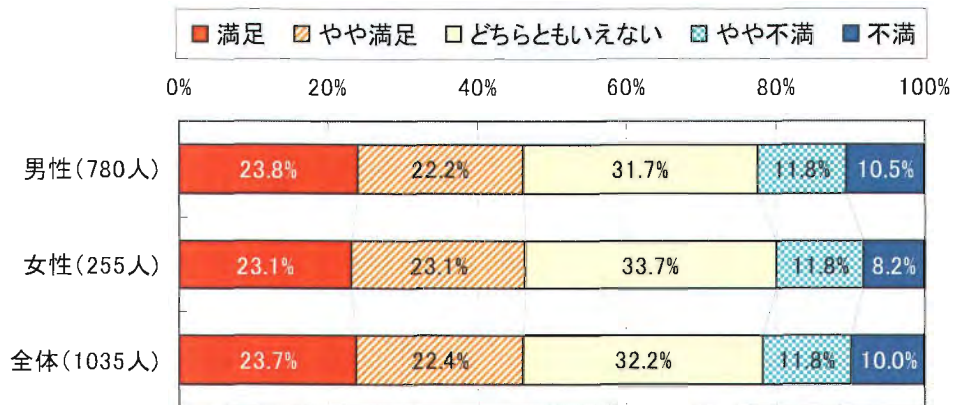


図4-5. 「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度(男女別)

[分野別集計]

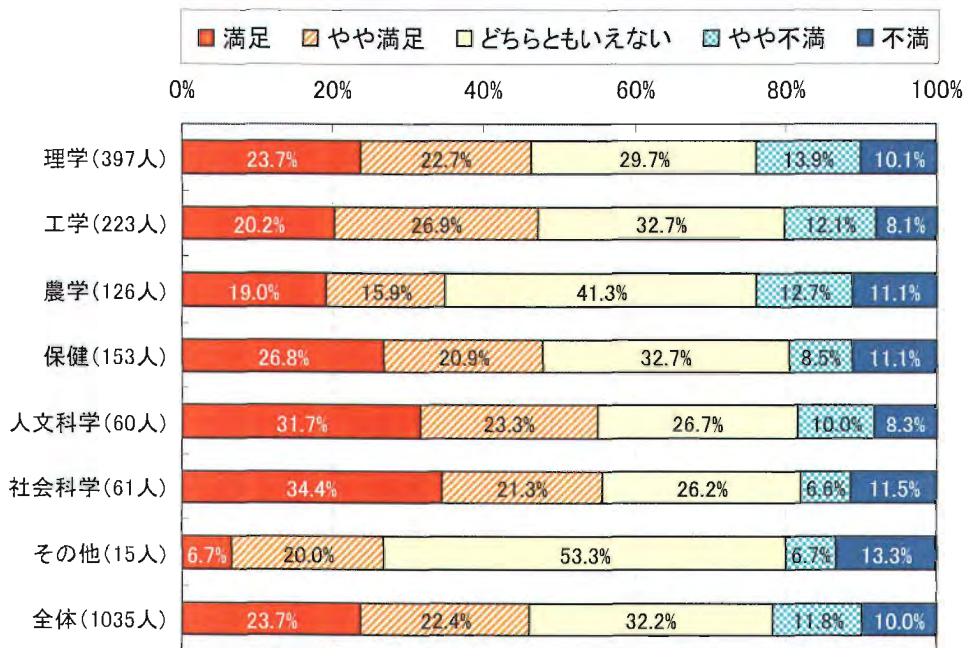


図4-6. 「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度(分野別)

第5章 ポストドクター等の進路志向とキャリア支援

ポストドクター等に対するキャリア支援を効果的に実施するためには、彼らの進路希望や研究者以外の職業選択に対する意識を把握することが重要である。本章では、ポストドクター等が目指す職業や進路の選択肢、さらにはキャリアアップを図る上で有益と考えるトレーニング等について考察する。

5.1. ポストドクター等が目指す職業 [※分析対象(設問番号): Q38]

まず、「あなたは、将来どのようなポストに就きたいと思って、現在ポストドクターとして研究していますか」の設問（自由記述）に対しては、有効回答者1,035人のうちの945人（全体の91%）が回答している。自由記述であるため、ポストドクター等が希望する職業を明確に区分することは困難であるが、可能な範囲で分類し、整理した結果を表5-1に示す。当然のことながら、「研究・技術職」を希望するポストドクター等（他の職業を併記する者も含む）が圧倒的に多かった。また、研究・技術職以外の職業を明示した者は少ないものの、コミュニケーター職や教育関連職などの記述が見られている。

問. あなたは、将来どのようなポストに就きたいと思って、現在ポストドクターとして研究していますか。
(自由記述)

表 5-1. ポストドクター等が目指す職業の回答例 (回答者数:945 人/1,035 人)

(注) 回答はそのまま掲載。

	職業分類	記述例
研究・技術職	大学・公的研究機関等研究者	「大学の教員」、「大学または公的研究機関の研究者」、「国立大学教授」、「公的研究機関の常勤研究員(大学は除く)」、「Researcher in an academic institute」、「教育義務がない、研究に専念できる大学付属機関の研究者、もしくは公的機関の研究者。それが無理なら大学教員」、「研究と教育の両方に携わることのできる大学の教員」、「大学、短大、高等専門学校における教育研究職」
	民間企業研究者	「民間企業の研究職」、「製薬会社での新薬開発に向けた研究職」、「企業のエンジニア」、「企業で研究をしたい。(あまりにも身分が不安定なので、企業の方が少しはいいという考え。)」
	研究者全般	「任期のない研究職」、「常勤の研究職」、「(自分の研究テーマを自分で選ぶことができる)研究職」、「独立して研究テーマを遂行できる研究者のポスト」、「特にアカデミック、民間は問わず研究者」、「大学、公務員、私企業、何でも問わないので研究職につきたい。もし不可能だったとしても研究に携わる仕事に就きたい」、「上司による権力の支配下に置かれない研究者でいられるポスト」、「PIなどの独立ポスト」
	ポストドクター等	「大学教員の器ではないので、ポストドクのまま研究を続けていきたい」、「上司にさえ恵まれれば、ずっとこのままポストドクターとして研究を続けたいと思っている」、「なんとかポストドクターで定年を迎えられないかと考えている」
	その他 (研究職以外の職業の併記を含む)	「公的研究機関で自分の研究室を持つ」、「いくつかの研究テーマを統括し推進する研究グループリーダー」、「大学教員、もしくは博物館等の学芸員」、「大学・民間系の基礎科学研究员、学校の教員以外の教育職(塾講師など)」、「外資系企業の社員、国連の社員、大学の教授」、「論文のための研究を一切しなくてよい、実戦重視の研究開発者」、「任期を気にせずに研究を続けられる環境であれば良い」、「任期の有無は問わない。自分の研究テーマを遂行できること。競争的資金の申請ができること。所属機関の運営(予算・人事など)にある程度かかわれること。一般企業なみの社会保障があること」、「任期なしのポストに就きたいとは思いますが、夫も子供もいる身で地方在住なため、あまりポストも無く、おそらく専業主婦になるような気がします。若いうちはせめてポストドクターでもして研究に関わろうと思っております」、「非常に難しい質問だと思います。当初はアカデミックポジションに着きたいと思っていましたが結婚した今はいかに両立できるポストかを重視します。もし、現在のポジションで研究が続けられるならそれがいちばんいいと思います」、「基本は大学教員を希望するが、自分の研究のキャリアが活用できるならば、拘らない」、「研究を仕事としたパーマネントな職。教育職以外にもその道があるなら就きたい。(産休・育休を考えると、学生を持たないで研究できるポストが存在すればそちらに就きたい)」
	技術員等	「民間企業の技術職」、「テクニカルスタッフ」、「子供が手を離れたあと、常勤でテクニシャン的な形で研究を続けたいと思っています」

研究職(業務)以外の職業	コミュニケーター職	「博物館の学芸員」、「科学コーディネータ等、科学の普及に関わる職」、「自然科学系の博物館でのポスト」
	知財関連職	「知財部門等のアシスタント業務」、「企業等に所属し、知財や共同研究などのコーディネーターを行う職業」
	教育関係職	「研究職の経験を生かせるような教育関係の職」、「教育」
	国際公務員	「国際公務員。特に WHO、UNICEF の職員」
	医師・薬剤師等	「薬剤師」、「研究と臨床ができる医師としてのポスト」
	その他	「文部科学大臣、大学長」、「学長」、「病院部長」、「専門的知識を活かした起業」
正職員・正社員等全般	「任期無し常勤職」、「任期のない職業に就きたいと考えている」、「正社員または正式な職員として勤務したい」、「教育・研究機関の常勤職」、「現在は一般企業への就職を検討中。そのために研究内容、業績よりはマネジメントや技術的な知識を増やしている」、「基本的には、海外を拠点とした研究活動を希望していたが、年齢や配偶者の存在もあり、難しくなってきたと考えている。そういう意味で、とにかくパーマナントな仕事に就きたい、今はそれだけである」	
※「常勤職」などが「常勤研究職」を意味する可能性はあるものの、業務内容が不明な場合は、本区分に含めた。		
その他	「ポストに関係なく、世のため人のためになることを続けていきたいです」、「自分の知識を活かせる職 現場で活動できるポスト」、「ノンリサーチの職を見つける為の繋ぎとして働いている」、「家業の技術革新のため」、「研究以外の職に転職する」、「およめさん」、「…研究職は離れようと思っています」、「家族と自分の生活が安定するだけの収入が保証され、また、わずかな時間でも現在行っている研究テーマに集中できるような時間と環境に恵まれるのであれば、体力的に厳しい業務内容の仕事であっても就きたいと願っています」、「食っていければなんでもいい」、「将来もずっと実験できればなんでもいい」、「自分の腕を生かせるのであれば、ポストにはあまりこだわらない」、「これまでに身につけた技術、知識を生かせる職種に就職を希望しています。また、自らの仕事の成果が社会に十分に還元でき、社会生活や人材育成に役立つことを望みます」	
未定・検討中	「ポストドクターを始めた当初は、研究者になりたいと思っていたが、現在のところは、迷いはじめています。自分は研究者としてむいていないかも知れないと思う反面、他の仕事をするにしても、やりたいことが見つからない、という状態」、「ドクターの学位を生かして、研究を続けていくか、それとも専門的な知識をつけて、弁理士として活動していくか迷っている」、「特になし」、「特に考えていない。ご縁でしょう」、「I have never thought about this question.」、「将来のことは考えていない。今研究していることをたのしんでいるだけ。出世しても雑用が増えるばかりで良いことはない。」、「今回の任期が終了すれば、出産準備に入る予定なので、育児が落ち着けば将来どのようにしていくか改めて考えたいと思っています」、「目前の成果達成のため、キャリアパスを含めプライベートなことを考える時間的、精神的余裕はありません」	

5.2. ポストドクター等が考える就職の選択肢 [※分析対象(設問番号): Q32]

一般的に、ポストドクター等は学術研究機関の研究者以外の職業にあまり興味を示さないと言われている。NISTEP Report No. 86によると、「民間企業に就職したいと思うか」の設問に対して、25%のポストドクターが「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答しており、博士課程学生の44%よりも低く、35歳以上では14%に留まる傾向が見られていた¹⁷。それでは、今回の回答者についてはどうであろうか。「あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません」との設問に対して、複数の職業を例示した上で、それぞれの職業について「是非就きたい」、「就いても良い」、「どちらともいえない」、「あまり就きたくない」、「就きたくない」の5つの選択肢を用意して、ポストドクター等の職業選択の許容範囲を調べた。その結果、有効回答者全体の約4分の3は、「大学・公的研究機関の研究者（短大・高専教員を含む）」に「是非就きたい」と回答しており、ポストドクター等の大学・公的研究機関の研究者への強い志向が改めて示された（図5-1参照）。ただし、ベンチャーを含む企業の研究者・技術者についても半数以上の者が前向きな回答を示しており、必ずしも学術研究機関の研究者以外の選択肢を考慮していないわけではない。また、ポストドクター等が就職に前向きな職業は、全体的に民間企業を含む研究者・技術者ではあるものの、次いで「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者（技官など）」、「国家公務員、地方公務員」、「学術関連のコミュニケーター職（科学記者など）」に就くことにも前向きな者が4割程度存在している。ただし、教育関係職である「小学校・中学校・高等学校の教員」や「塾・予備校の講師」になることには否定的である者の割合が高い。

次に、男女別に見ると、男女ともに類似した傾向を示しているものの、女性のポストドクター等については「大学・公的研究機関等の研究支援者・補助者（技官など）」、「国家公務員、地方公務員」、「学術関連コミュニケーター職」の職業に就くことを前向きに考えている者の比率が、男性よりも高くなっている（図5-2参照）。

年齢別では、特に企業の研究者・技術者になることに肯定的なポストドクター等の割合が、年齢の上昇とともに低下しており、全般的に高い年齢層ほど、就職の選択肢・許容範囲が狭まる傾向が見られる（表5-2参照）。

分野別に見ると、全ての分野のポストドクター等が「大学・公的研究機関の研究者（短大・高専教員を含む）」に就くことを強く希望しており、次いで、農学、工学、理学、保健分野のポストドクター等については「企業の研究者・技術者」、人文科学分野では「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者（技官など）」になることを比較的前向きに捉えている（表5-3参照）。また、農学分野のポストドクター等については、「国家公務員、地方公務員」になることを比較的前向きに考え

¹⁷ 科学技術政策研究所 NISTEP Report No. 86, p. 139 (2005).

ている傾向が見られる。文系のポストドクター等のみならず、理系のポストドクター等についても「起業家」になることにはやや否定的である。

問. あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません。

[ポイント]

- ▶ポストドクター等の約3/4は、大学・公的研究機関の研究者（短大・高専教員を含む）になることを強く希望している。
- ▶半数以上のポストドクター等が、民間企業を含む研究者・技術者に就くことに前向き（「是非就きたい」と「就いても良い」の合計）であるが、大学・公的研究機関の研究支援者・補助者、公務員、学術関連のコミュニケーター職についても、4割程度の者が肯定的である。

[全体集計]

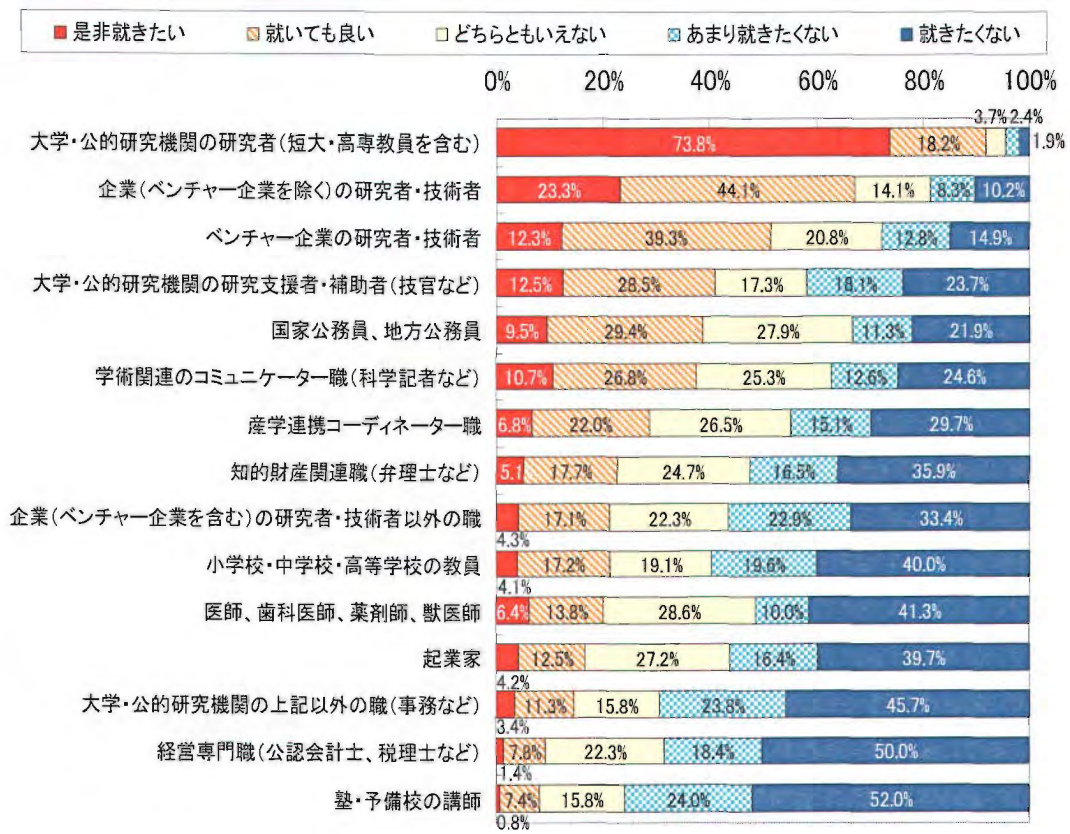


図 5-1. ポストドクター等の職業別就職意欲

問. あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません。(続き)

[ポイント]

▶男女とも、実際に就職しても良いと考えている職業に差異はあまり見られない。ただし、「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者」、「国家公務員、地方公務員」、「学術関連のコミュニケーター職」については、女性の方が就職にやや前向きである。

[男女別集計(点数化)]

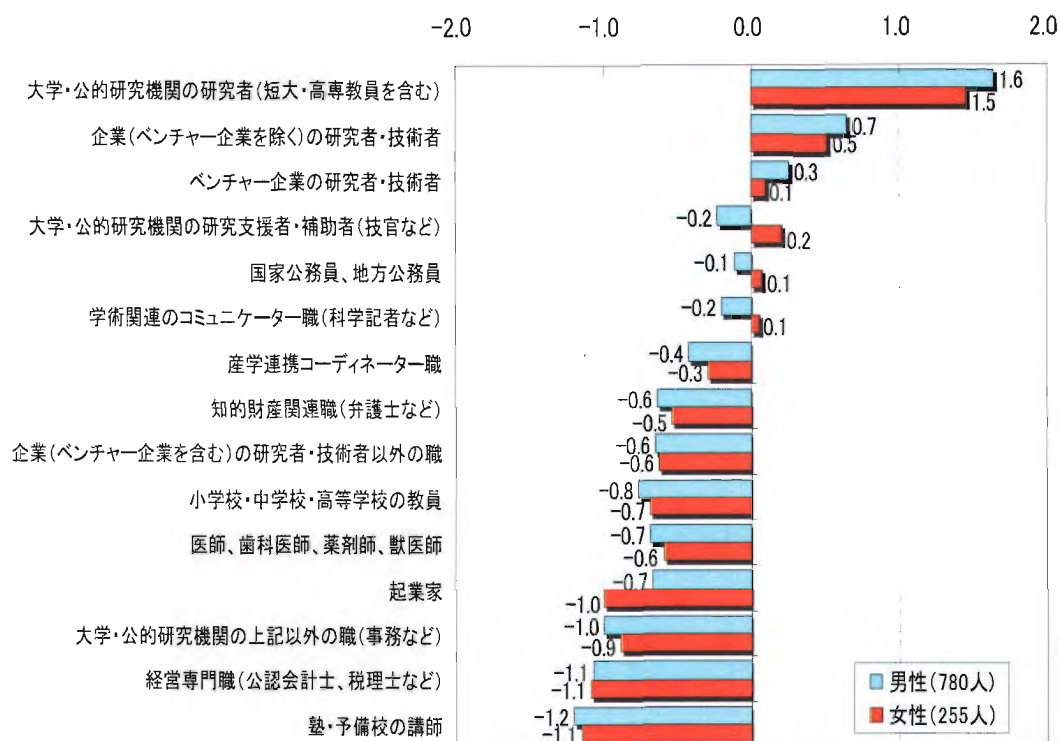


図 5-2. ポストドクター等が就職に前向きな職業(男女別)

「是非就きたい」、「就いても良い」、「どちらともいえない」、「あまり就きたくない」、「就きたくない」を、+2、+1、0、-1、-2でそれぞれ点数化し、その平均値を算出した。

問. あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません。(続き)

[ポイント]

- ▶ 企業の研究者・技術者になることに肯定的な者の割合は、年齢とともに低下する。
- ▶ 全ての分野のポストドクター等が「大学・公的研究機関の研究者」を強く希望しており、次いで、理学、工学、農学、保健分野では「企業の研究者・技術者」、人文科学分野では「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者」になることを比較的前向きに考えている。また、農学分野のポストドクター等については、「国家公務員、地方公務員」になることに対しても比較的肯定的である。

[年齢別集計(点数化)]

表 5-2. ポストドクター等が就職に前向きな職業(年齢別)

職業	29歳以下(195人)	30-34歳(556人)	35-39歳(215人)	40歳以上(69人)
大学・公的研究機関の研究者(短大・高専教員を含む)	1.67	1.60	1.53	1.55
企業(ベンチャー企業を除く)の研究者・技術者	0.74	0.68	0.46	0.26
ベンチャー企業の研究者・技術者	0.26	0.29	0.03	0.06
大学・公的研究機関の研究支援者・補助者(技官など)	-0.08	-0.13	-0.04	-0.38
国家公務員、地方公務員	-0.16	0.02	-0.21	-0.07
学術関連のコミュニケーター職(科学記者など)	-0.15	-0.13	-0.13	-0.14
産学連携コーディネーター職	-0.43	-0.38	-0.44	-0.22
知的財産関連職(弁護士など)	-0.55	-0.58	-0.71	-0.59
企業(ベンチャー企業を含む)の研究者・技術者以外の職	-0.55	-0.60	-0.82	-0.70
小学校・中学校・高等学校の教員	-0.69	-0.72	-0.84	-0.81
医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	-0.67	-0.65	-0.72	-0.55
起業家	-0.76	-0.70	-0.82	-0.93
大学・公的研究機関の上記以外の職(事務など)	-0.89	-0.98	-0.98	-1.10
経営専門職(公認会計士、税理士など)	-0.99	-1.06	-1.20	-1.12
塾・予備校の講師	-1.16	-1.18	-1.22	-1.26

「是非就きたい」、「就いても良い」、「どちらともいえない」、「あまり就きたくない」、「就きたくない」を、+2、+1、0、-1、-2でそれぞれ点数化し、その平均値を算出した。

[分野別集計(点数化)]

表 5-3. ポストドクター等が就職に前向きな職業(分野別)

職業	理学 (397人)	工学 (223人)	農学 (126人)	保健 (153人)	人文科学 (60人)	社会科学 (61人)	その他 (15人)
大学・公的研究機関の研究者(短大・高専教員を含む)	1.62	1.48	1.64	1.43	1.92	1.79	1.73
企業(ベンチャー企業を除く)の研究者・技術者	0.68	0.78	0.98	0.45	0.00	0.02	0.27
ベンチャー企業の研究者・技術者	0.24	0.31	0.41	0.14	-0.08	-0.18	-0.27
大学・公的研究機関の研究支援者・補助者(技官など)	-0.07	-0.12	-0.12	-0.62	0.55	0.03	0.40
国家公務員、地方公務員	-0.08	-0.12	0.33	-0.16	-0.38	-0.25	0.40
学術関連のコミュニケーター職(科学記者など)	0.05	-0.24	-0.12	-0.50	0.02	-0.18	-0.27
産学連携コーディネーター職	-0.32	-0.31	-0.37	-0.66	-0.53	-0.31	-0.40
知的財産関連職(弁護士など)	-0.48	-0.66	-0.63	-0.63	-0.73	-0.97	-0.53
企業(ベンチャー企業を含む)の研究者・技術者以外の職	-0.59	-0.58	-0.70	-0.84	-0.58	-0.66	-0.60
小学校・中学校・高等学校の教員	-0.60	-0.70	-0.90	-1.14	-0.65	-0.66	-0.47
医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	-0.65	-1.00	-0.68	0.10	-0.98	-1.03	-0.47
起業家	-0.74	-0.64	-0.79	-0.95	-0.55	-0.80	-1.00
大学・公的研究機関の上記以外の職(事務など)	-0.93	-1.00	-1.00	-1.21	-0.60	-0.87	-0.87
経営専門職(公認会計士、税理士など)	-1.05	-1.19	-1.06	-1.08	-0.95	-1.10	-0.73
塾・予備校の講師	-1.08	-1.21	-1.35	-1.43	-0.98	-1.20	-0.80

「是非就きたい」、「就いても良い」、「どちらともいえない」、「あまり就きたくない」、「就きたくない」を、+2、+1、0、-1、-2でそれぞれ点数化し、その平均値を算出した。

5.3. ポストドクター等の公的資格の有無 [※分析対象(設問番号): F7]

本節では、ポストドクター等がどのような公的資格を有しているかを把握することで、ポストドクター終了後の進路の選択肢について考察する。

「あなたは、何らかの公的資格を持っていますか」の設問に対しては、全体の67%のポストドクター等が「公的資格は持っていない」と回答している(図5-3参照)。このことから、約7割近くのポストドクター等については、研究職以外にすぐに自立できる職業の選択肢があるとは言えないようである。その一方で、教育分野(小学校、中学校、高等学校教諭など)の公的資格を有するポストドクター等が全体の17%を占めており、小学校・中学校・高等学校などの教員になる選択肢が現実的であることから、これらのポストドクター等については当該職業に就くことに前向きである割合も高い(図5-4参照)。

問. あなたは、何らかの公的資格を持っていますか。以下の中から該当する分野の資格をすべて選んでください。複数選択可

[ポイント]

- ▶全体の67%のポストドクター等が「公的資格は持っていない」と回答している。
- ▶教育分野(小学校、中学校、高等学校教諭など)の公的資格を有する者は、全体の17%に当たる。

[全体集計]

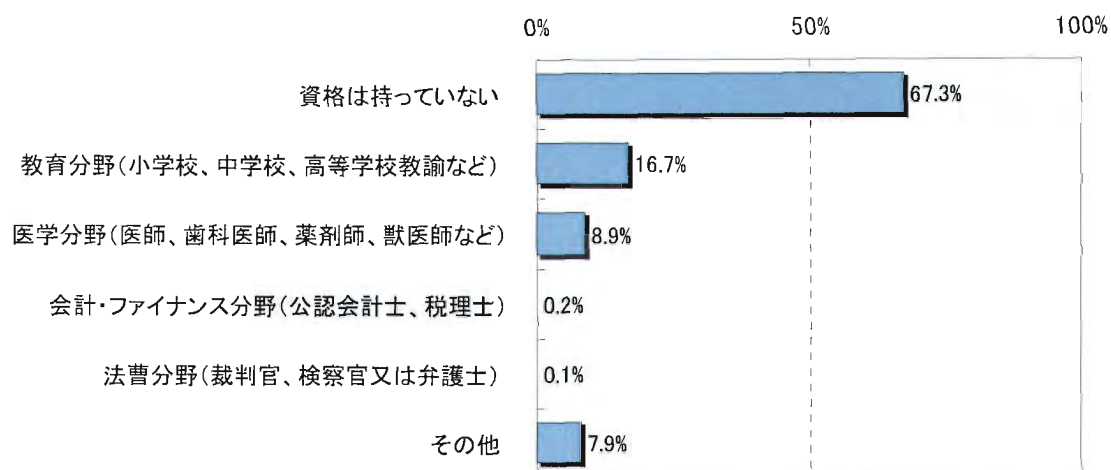


図 5-3. 公的資格の有無

全体の合計値は、複数の資格を持つポストドクター等が存在するため、有効回答者数と一致しない。「その他」には、学芸員、測量士補、図書館司書、技術士、技術士補、建築士、火薬類取扱、文書情報管理士、衛生監視員、管理栄養士、食品衛生管理者、栄養士、社会福祉士、保育士、初級システムアドミニストレータ、危険物取扱者、鍼灸師、潜水士、測量士、施工管理、第一種衛生管理者、家畜人工授精師、公害防止管理者、気象予報士、検査技師資格、情報処理技術者、診療放射線技師、臨床検査技師、衛生検査技師、一般毒物劇物取扱者、農業改良普及員、電気主任技術者などの記載が見られる。

問. あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません。【「小学校・中学校・高等学校の教員」のみ】

[ポイント]

▶小学校・中学校・高等学校の教員になることに肯定的である割合は、教育分野（小学校、中学校、高等学校教諭など）の公的資格を有するポストドクター等を中心に高くなっている。

【「小学校・中学校・高等学校の教員」への就職意欲の公的資格の有無別集計】

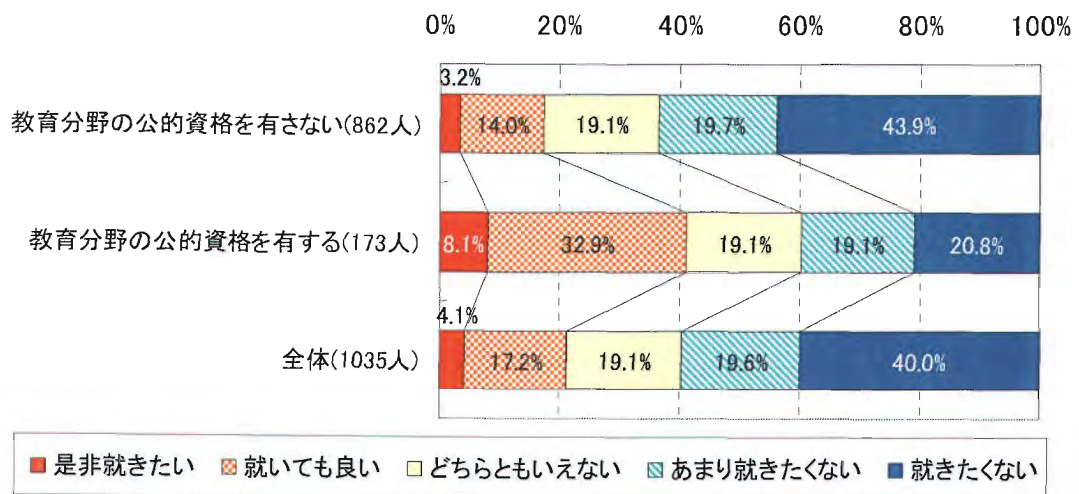


図 5-4. 「小学校・中学校・高等学校の教員」への就職意欲(公的資格の有無別)

5.4. ポストドクター等に対するキャリア支援の現状 [※分析対象(設問番号): Q31, Q36, Q40, Q41]

文部科学省では、2006 年度以降「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」を実施しており、採択機関での各種支援の取組みも充実してきている。しかしながら、「あなたは、現在のポストドクターとしての任期中に、国または所属機関が実施するポストドクターに対する支援プログラムを活用したことがありますか」の設問に対しては、支援プログラムを活用していると回答したポストドクター等は全体の4%に留まっている(図5-5参照)。ポストドクター等への支援プログラムが不足しているのか、プログラムへの認知度が低いのかなど、その背景は明らかでない。また、支援プログラムを活用した場合には、その内容を記入(自由記述)してもらった設問を用意したが、全て未記入であった。そのため、支援の詳細も不明である。ただし、設問「ポストドクター支援策として、あなたが必要だと考える施策を記入してください」と「大学等、所属している機関への要望事項について記入してください」の自由記述形式での回答においては、以下に示す通り、進路に関する情報提供を含めたキャリア支援を求める意見が多く見られている。具体的には、大学・公的研究機関の研究職を含む多様な職業への就職支援やキャリアパス事例等の情報提供を求めている。さらに、論文執筆能力、語学力、コミュニケーション能力、マネージメント・スキルといった各種能力を身につけるための教育機会の提供を望む声も多い。

問. あなたは、現在のポストドクターとしての任期中に、国または所属機関が実施するポストドクター等に対する支援プログラムを活用したことがありますか。

[ポイント]

- ▶全体の4%のポストドクター等が国または所属機関の実施する支援プログラムを活用している。

[全体集計]

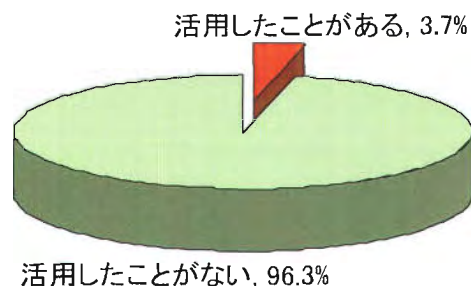


図 5-5. ポストドクター等に対する支援プログラムの活用状況

問. ポストドクター支援策として、あなたが必要だと考える施策を記入してください。

【ポストドクター等へのキャリア支援・情報提供などに関する回答例】

※ 回答者の記述をそのまま掲載(長文のものについては、該当する箇所のみ掲載)

○就職支援など

- ・ 「就職先の斡旋」(31歳 男性、工学分野)
- ・ 「研究職以外を含めた民間企業への就職斡旋」(31歳 男性、農学分野)
- ・ 「就職活動の支援。情報提供」(36歳 女性、農学分野)
- ・ 「研究機関、および一般企業への就職支援」(34歳 女性、工学分野)
- ・ 「大学等での研究職以外の職に対する就職支援、教育」(29歳 男性、理学分野)
- ・ 「企業の紹介、就職支援セミナーを公的な特定機関だけで行なうのではなく、地方大学を含めて広く開催する。地方大学に所属していると、そのようなセミナーに参加する機会に乏しい」(36歳 男性、農学分野)
- ・ 「研究職以外の職業(たとえばコーディネーターなど)の紹介。民間の企業との交流。(無理だと思いますが)国が(たとえば文部科学省特別研究員のような形でポストドクを雇って)各研究所へ派遣するような形の職。グラントへの応募などの権限がある程度あるもの」(30歳 女性、農学分野)
- ・ 「長期的には、博士号を持つ人材が、民間企業、あるいは専門の研究分野以外においても有用な人材であるという認識が社会に浸透することが必要だと思う。分野によっては、大学院生、ポストドクの人が自分の研究内容を元に起業しやすくするような支援も有効かと思う」(30歳 男性、理学分野)

○情報・交流機会の提供など

- ・ 「就職情報提供(教育・研究機関、企業含む)」(33歳 男性、理学分野)
- ・ 「大学・教育機関以外の進路選択に関する情報提供」(27歳 男性、理学分野)
- ・ 「ポストドク経験者が、次の就職先を見つけるための就職セミナーの開催や企業の求人情報の提供を充実してほしい」(31歳 女性、工学分野)
- ・ 「民間企業がもっとポストドクに門戸を広げる様に行政がバックアップする。ポストドク専用のリクナビの様なものがあれば良いのでは(民間企業対象)」(31歳 男性、農学分野)
- ・ 「アカデミックポスト以外の場所、特に民間企業で働くということの具体的なイメージがわからないので、それを知る機会が欲しい。民間企業に就職するとしたらいったいどんな可能性があるのかわからないのでそれを知りたい」(32歳 女性、理学分野)
- ・ 「『社会(企業や官公庁など)が、博士の価値を知ること』と『博士が社会のニーズを知り、それに適応すること』が必要だと思います」(30歳 男性、工学分野)
- ・ 「国内のポストドクターの公募情報は数が少ないので、海外のポストドクターの公募情報を含めて学会のホームページなどで公開してほしいです」(31歳 女性、工学分野)
- ・ 「施策ではないが、ポストドク余剰といわれるが、それがどの程度分野毎に起こっており、任期付きポストやテニユアであれば何倍ぐらいの競争率かなどデータを出してほしい」(30歳 女性、社会科学分野)
- ・ 「ドクターを必要としている企業等の研究機関とポストドクターとの交流の場を増やす(最近そのような場も増えてきましたが)」(33歳 女性、農学分野)
- ・ 「企業との交流の機会を増やす」(32歳 男性、工学分野)
- ・ 「他分野でも同一大学におけるポストドクター意見交流会の設置」(33歳 女性、人文科学分野)
- ・ 「まず社会とポストドク両方の意識改革のため、大胆かつ執拗な広報が必要。次にポストドクの一人として是非望みたいのは『いざとなったら別の道を選択できる』と言う安心感。そのために、人材バンクなり、マッチングなりの制度を充実させるべき」(36歳 男性、理学分野)

○能力開発・カウンセリングなど

- ・「教歴がないと就職ができないので、もっとポストクに非常勤の機会を広げる必要がある」(33歳 女性、人文科学分野)
- ・「雇用のプロジェクト+αの研究が出来る体制づくり」(32歳 女性、保健分野)
- ・「ポストドクターを他の職と兼任できるようにする」(30歳 男性、工学分野)
- ・「英会話能力、論文の執筆能力の訓練」(27歳 男性、農学分野)
- ・「コミュニケーション能力開発、マネジメントスキル取得」(36歳 男性、理学分野)
- ・「自己の研究を行政や企業と連携し、社会へ還元するためのマネジメント教育」(26歳 男性、工学分野)
- ・「研究職以外の技術職・専門職に換わるために必要な知識・スキルの教育とそれを受けられる環境の整備 (ポストク本人と機関に対する周知・勧告)。受け入れ側の企業等に対する宣伝・情報提供」(40歳 男性、理学分野)
- ・「語学学習プログラムを設ける。研究スキルをあげるための実践的なセミナー、および教育の機会を広げる」(35歳 女性、保健分野)
- ・「インターネットなどで自由な時間に関覧できるキャリアアップやスキルアップの為のオンライン講義の構築。研究費申請時にPDのみの応募枠を増枠」(31歳 男性、理学分野)
- ・「民間企業のインターンシップ (アルバイトの方が良い) に強制的に参加する仕組みをつくる」(30歳 女性、農学分野)
- ・「任期付きでもよいので、教育に関われるキャリアを身につけられるような環境づくり (教育能力習得のサポート)」(34歳 男性、工学分野)
- ・「研究成果、論文等の研究業績をあげるための技術指導」(34歳 女性、農学分野)
- ・「カウンセリング (生活相談)、語学研修」(31歳 男性、工学分野)
- ・「workshops on specific scientific subjects - could be from different research filed. For example - programming and mathematics for biologists.」(33歳 男性、理学分野)

○ポストドクター終了後の進路について

- ・「テニュア審査など常勤ポストへの道があればよい」(36歳 女性、農学分野)
- ・「JICA 専門家 (研究者) の派遣事業の拡大、もしくは途上国を含めた海外への研究者派遣の斡旋」(30歳 男性、工学分野)
- ・「様々な公的行政機関の専門職への特別採用枠」(31歳 男性、理学分野)
- ・「博士号を取ってしまうと、就職先が限られてしまう。専門知識を活かせるような就職先 (理科の先生や技術職員など) を増やす必要があると思います」(29歳 男性、理学分野)
- ・「大学のみならず、小中高の教育スタッフ (補助員) などへの道を可能にしてもらえると、学問的な経験も活かすことができ、さらに実質的な教育経験を積むこともできるので、良いかと思います。特にポストクが社会的に貢献できる可能性が広がるように思います」(33歳 男性、理学分野)
- ・「異分野の研究者でも採用されるようなシステム。博士号取得後も、キャリアアップを図れるシステム」(33歳 男性、農学分野)

他

問. 大学等、所属している機関への要望事項について記入してください。

[キャリア支援・情報提供などに関する回答例]

※ 回答者の記述をそのまま掲載(長文のものについては、該当する箇所のみ掲載)

○キャリア支援・能力開発など

- ・ 「ポストクの任期後の進路選択に関するサポート」(31歳 男性、理学分野)
- ・ 「独自の就職紹介などをもっとしてほしい」(29歳 女性、理学分野)
- ・ 「大学内での授業担当などキャリア作りへの支援」(37歳 男性、人文科学分野)
- ・ 「資格に関してですが、私は、MDでなく医学部でポストクをしています。医者としての資格習得に関して、もっと拡充できないでしょうか?一つ脱ポストクとして貢献できるのではないのでしょうか?」(31歳 男性、保健分野)
- ・ 「ポストクをしている人にはリーダーとしての素質を持っている人が多いと思うが、リーダーになるための教育、指導が十分でないと感じる(指導者に当たる上司もそのような教育を受けていないのでは)」(30歳 女性、理学分野)
- ・ 「自分は人のことを言える立場では無いが、研究者は研究ができれば後は何をやってもよい訳ではないので、本来は大学等の高等教育機関で行うことではないが、なるべく学生、研究員個々の人格面の成長も促せるよう、コミュニケーションスキルを習得できるような環境を準備するよう努力すべきである」(29歳 男性、理学分野)
- ・ 「大学教員養成のためのワークショップや講座の開講」(28歳 男性、理学分野)
- ・ 「事務員対象のワークショップやクラスは見かけますが、ポストク向けのもの(リーダーシップ、コミュニケーションスキル、語学等)もあると良いです」(31歳 女性、理学分野)
- ・ 「キャリア形成・スキルアップのための支援やセミナーの開講」(32歳 男性、農学分野)
- ・ 「語学力の習得などのスキルアップに対する支援」(31歳 男性、工学分野)
- ・ 「教育プログラムの充実を強く希望する。論文やグラント申請書の書き方、英語教育など」(30歳 男性、理学分野)
- ・ 「能力開発セミナーを開催してほしい」(32歳 男性、理学分野)
- ・ 「1- We need more cooperation and workshop for forginer in the same field by English at same Univeristy 2- Some rearch activities and postgraduate lecture by English」(38歳 男性、工学分野)

○意見交換の機会・情報提供など

- ・ 「ポストドクターが少ないので、大きい大学に比べると情報が少ない。キャリアサポート(他大学のものでもいいので)を受けられるようにしてほしい」(31歳 男性、理学分野)
- ・ 「就職等の情報の収集と開示」(34歳 男性、理学分野)
- ・ 「研究以外も含めてコミュニケーションの場がほしい」(35歳 男性、工学分野)
- ・ 「非正規職員の意見交換や進路相談の機会を設けてほしい」(33歳 男性、農学分野)
- ・ 「研究室間での交流の機会がほしい。某大学では各研究室が博士学生向けに実験のトレーニングコースを用意しています」(31歳 女性、保健分野)
- ・ 「大学院入学時に、卒業後のキャリアパスを具体的に明示する必要がある。楽観的・悲観的・中間的なシナリオを提示すればよい」(34歳 男性、工学分野)
- ・ 「所属大学としては、よくして下さっていると思います。ただ、就職の件数があまりにも少なく、活発に出願できない状態が続いています。また公募とはいいつつ、既に内定が出ているなど、労働市場が極めて不透明・不完全である点も、問題だと思います」(35歳 男性、社会科学分野)
- ・ 「一応ポストクも大学職員なので大学の福利厚生などの説明をちゃんとやって欲しい。有給が何日あって、倫理規定がなにか、使える施設や制度についてなどの情報などを着任時にオリエンテーリングしてほしい」(32歳 男性、農学分野)

- ・ 「ポストドク宛のメールなどはありがたいなと思いました」(33歳 女性、保健分野)
- ・ 「ポストドクター等の研究活動・生活意識調査の現状について、大学等、所属している機関の把握状況と機関側の施策調査結果があればその閲覧方法を要望事項としてあげたい」(31歳 男性、工学分野)

○ポストドクター終了後の進路について

- ・ 「ポストドクや博士過程の学生の常勤職への就職率などを受け入れ教官の給与評価に入れると良いと思う」(30歳 男性、理学分野)
- ・ 「テニユア審査の合否判断基準を詳細に公開してほしい。研究評価の結果をきちんとフィードバックしてほしい」(30歳 女性、社会科学分野)
- ・ 「Generate enough assistant/associate professor positions with tenure-track to ensure a job perspective for former postdoctoral fellows」(35歳 男性、理学分野)

他

次に、ポストドクター等は直属の上司（指導教員等）とどの程度進路について意見交換を行っているのだろうか。本調査の結果からは、全体の82%の者が、直属の上司と少なくとも1年に1回以上、進路について意見交換をしていることがわかる（図5-6参照）。特に、意見交換をする者とならない者を比べると、現在の所属機関が博士課程（国内）と異なる場合（図5-7参照）や直属の上司も任期付きである場合（図5-8参照）に意見交換をしない傾向が見られる¹⁸。異なる機関に移動するポストドクター等や上司自身も研究成果を上げ次のポジションを考えなくてはならない環境にある場合には、直属の上司と進路について相談する関係を築くまでには至っていない状況も考えられる。

一方で、現在のポストドクター等は大学院在学当時、どの程度博士課程修了後の進路や就職の見通しについて情報を持っていたのだろうか。本調査では、「あなたは、大学院在学当時、博士課程修了後の進路や就職の見通しについて、十分な情報を持っていましたか」の設問に対して、「はい」、「いいえ」、「わからない」の回答の選択肢を設けて、大学院在学当時の状況を聞いた。その結果、大学院在学時代に十分な情報を持っていたと回答した者は全体の18%に留まっており、進路や就職の見通しなどに関する情報が不足したまま、ポストドクター等になった者が多いことがわかる（図5-9参照）。特に、「あなたは、【ポストドクターを選択したこと】に満足していますか」の設問において「やや不満」「不満」と回答する者ほど、大学院在学時代に十分な情報を持っていなかったと回答する割合が高まる傾向にあり（図5-10参照）、博士課程修了後の進路や就職の見通しについて十分な情報を事前に提供しておくことが、大学院生のキャリア設計の判断材料としてのみならず、その後のポストドクター等としての研究活動の満足感を高める上でも必要と考えられる。また、ポストドクター等としての経験年数が6年以上の者では、大学院在学時代に十分な情報を持っていなかったと回答する者の比率が、1年以下の者よりも18ポイント高くなっている（図5-11参照）。さらに、十分な情報を持っていたと回答した者（「1. はい」を選択した者）がどこからその情報を得たのかについても自由記述で回答してもらったところ、情報源としては「研究室の先輩（研究室OBを含む）」や「指導教員」からの情報が圧倒的に多く、次いでインターネットとなっている。

¹⁸ 事前のインタビュー調査で、「今までとは面識の無い職場なので、上からポストなどの紹介はない」といった意見が、一部のポストドクター等から聞かれている。（科学技術政策研究所 調査資料-152『インタビュー調査 ポストドクター等のキャリア選択と意識に関する考察 ～高齢層と女性のポストドクター等を中心に～』（2008年1月）を参照）

問. あなたは、直属の上司(指導教官)と、【進路】についてどの程度の頻度で意見交換をしますか。

[ポイント]

- 全体の82%の者は、直属の上司と進路に関して1年に1回以上意見交換をしている。
- 直属の上司と進路について意見交換をしない者は、意見交換をする者よりも、博士課程と異なる機関(国内)に所属する者や直属の上司が任期付きである者の割合が高い。

[全体集計]

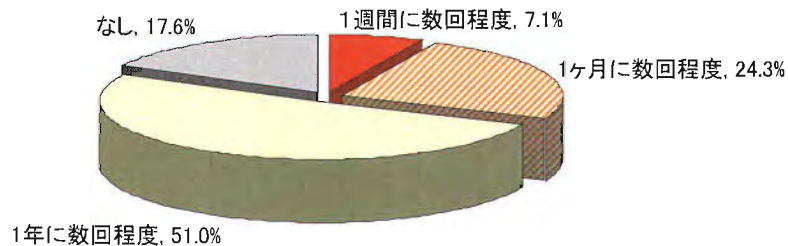


図 5-6. 直属の上司との進路に関する意見交換の頻度

[現在の所属機関が博士課程と同一機関か否かによる集計]

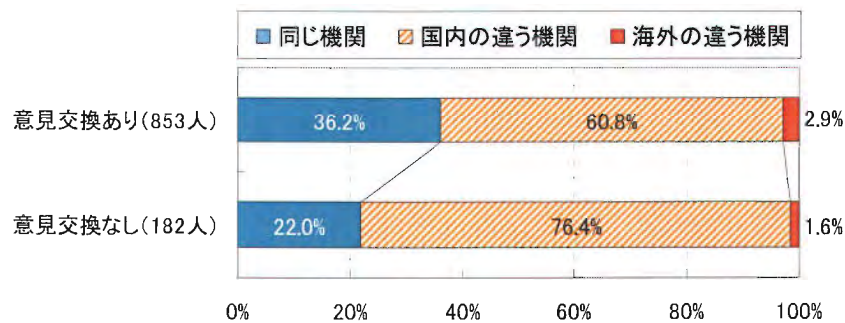


図 5-7. 現在の所属機関と直属の上司との進路に関する意見交換の頻度との関係

凡例は、現在の所属機関が博士課程と同一機関か否かを示す。進路に関する意見交換の頻度の選択肢(「なし」「1週間に数回程度」「1ヶ月に数回程度」「1年に数回程度」)のうち、「なし」以外を「意見交換あり」とした。

[直属の上司の任期の有無別集計]

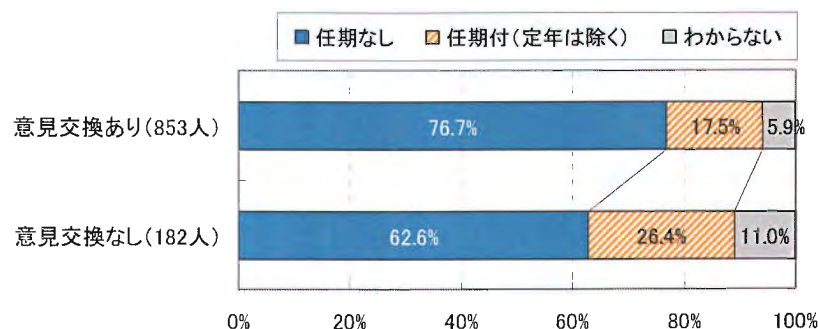


図 5-8. 直属の上司の任期の有無と直属の上司との進路に関する意見交換の頻度との関係

凡例は直属の上司の任期の有無を示す。進路に関する意見交換の頻度の選択肢(「なし」「1週間に数回程度」「1ヶ月に数回程度」「1年に数回程度」)のうち、「なし」以外を「意見交換あり」とした。

問. あなたは、大学院在学当時、博士課程修了後の進路や就職の見通しについて、十分な情報を持っていましたか。

[ポイント]

- ▶ 大学院在学当時、博士課程修了後の進路や就職の見通しについて十分な情報を持っていたと回答した者は、全体の18%に留まる。
- ▶ 「ポストドクターを選択したこと」に対して「不満」「やや不満」と回答する者ほど、大学院在学当時、十分な情報を持っていなかったと回答している。
- ▶ ポストドクター等としての経験年数が多い者ほど、大学院在学当時、十分な情報を持っていなかったと回答している。

[全体集計]

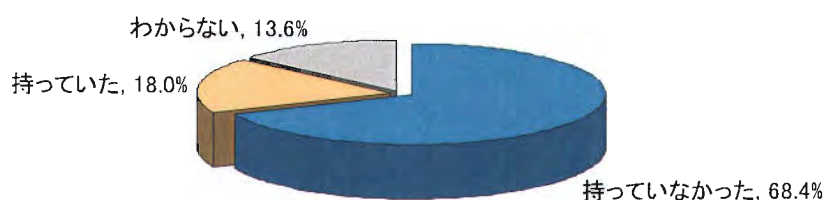


図 5-9. 博士課程修了後の進路や就職の見通しに関する情報の把握状況

「ポストドクターを選択したこと」の満足度別集計

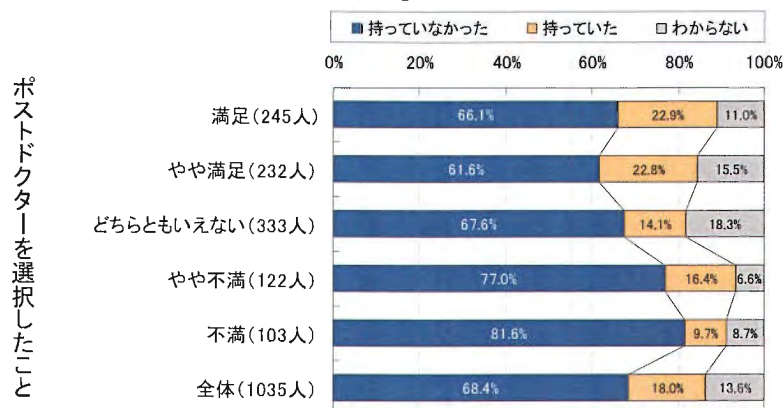


図 5-10. 博士課程修了後の進路等の情報の有無と「ポストドクターを選択したこと」に対する満足度の関係

「ポストドクター等」の経験年数別集計

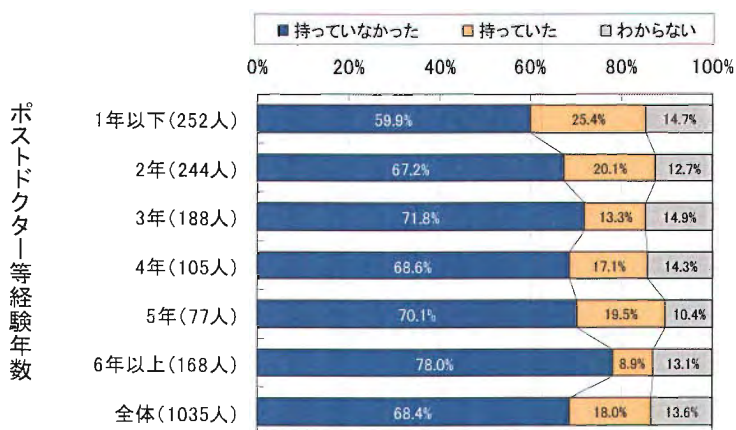


図 5-11. 博士課程修了後の進路等に関する情報の有無とポストドクター等としての経験年数の関係

5.5. ポストドクター等の円滑なキャリア・トランジションの実現に向けて [※分析対象(設問番号): Q33]

海外では、ポストドクターが従来の研究活動とは別に、博物館での科学技術コミュニケーターとしての業務や中小企業の研究職を兼任する事例などが、Science誌のオンラインサイト¹⁹等で紹介されている。研究業務以外のスキルが要求される職業へのキャリア・トランジションを円滑に進めるためには、希望に応じて、ポストドクター等の期間中に、キャリア開発に繋がる業務をある一定の割合で許容する仕組みも一つの選択肢として考えられる。ポストドクター等の進路希望に応じて、本務以外の業務におけるOJT(On the Job Training)などを経験できるように配慮することは、ポストドクター等自身の視野や能力の幅を広げるのみならず、かかる業務に対する彼らの適性を見極め、段階的なキャリア・トランジションを可能にする上でも重要である²⁰。そこで、本調査においても、以上のようなキャリア開発に繋がる取組みへのニーズを把握する目的で、現在のポストドクター等としての研究業務以外に、兼任を希望する業務を聞いた。

その結果、「大学、大学院、短大、高専での教育業務(授業担当)」を希望する者が27%と最も多くなっており、これはポストドクター等が大学等の教員になる上で、教育上の実績や経験が必要と認識していることに起因しているものと考えられる(図5-12参照)。次いで、「民間企業での研究・開発業務」(21%)、「現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動」(20%)となっており、「現在のポストドクターとしての研究業務以外の活動を特に希望しない」(13%)よりも多くなっている。このことから、他の兼務との兼任を可能とする仕組みに対するニーズの高さがうかがえる。女性のポストドクター等については、研究開発業務(「現在のポストドクターとしての研究業務以外の活動を特に希望しない」、「現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動」、「民間企業での研究・開発業務」)以外のニーズが54%と男性に比べて高く、特に「研究・開発業務以外の専門的業務(科学館等でのコミュニケーター業務、知的財産関連業務など)」に対するニーズが高くなっている(図5-13参照)。また、年齢の上昇とともに、「民間企業での研究・開発業務」の兼任を希望する者の割合が低下し、「大学等での教育業務」の兼任を希望する者や「ポストドクターとしての研究業務以外の活動を希望しない」者の割合が増加している(図5-14参照)。いずれの分野も同様の傾向を示しているが、特に社会科学分野のポストドクター等については「民間企業での研究・開発業務」と「研究・開発業務以外の専門的業務」の兼任を希望する者の割合が、他分野に比べて高くなっている(図5-15参照)。

¹⁹ http://sciencecareers.sciencemag.org/career_development/more_topics/alternative_careers

²⁰ 【海外情報(米国)】米国のバンダービルト大学では、ポストドクターの進路希望をもとに、ポストドクターが将来的に教育専任ポストを希望している場合には、主たる研究を行いながらも、一定の割合で教育指導を担当できる仕組みを設けるなど、キャリア開発に繋がるサポート環境を用意している。

問. 現在のポストドクターとしての研究業務以外に、以下の活動や業務を兼任できるとしたら、あなたの将来のキャリアを考える上でどのような活動が有益だと考えますか。1つだけ選んでください。

[ポイント]

- ▶現在のポストドクター等としての研究業務以外に、大学等での教育業務を希望する者が最も多く、次いで、民間企業での研究開発業務や現在の研究テーマとは異なる研究活動を希望している者が多い。
- ▶現在のポストドクター等としての研究業務以外の活動を「特に希望しない」と回答した者は、13%である。
- ▶男性では研究業務の兼任（または専任）を希望している者が57%であるのに対し、女性では46%である。
- ▶女性では、研究・開発業務以外の専門的業務（科学館等でのコミュニケーター業務、知的財産関連業務など）の兼任を希望する者の割合が、男性に比べて高い。

[全体集計]

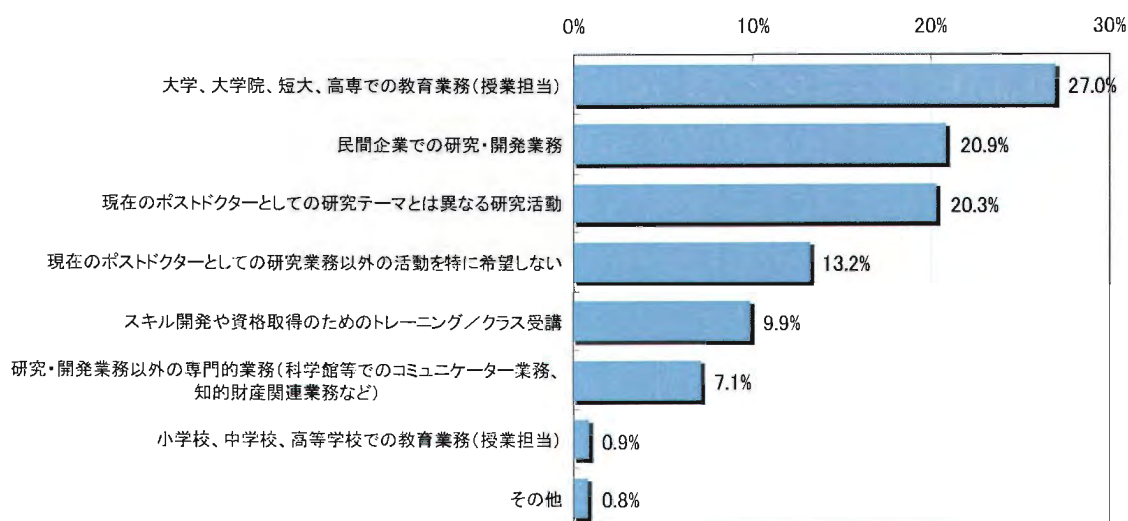


図 5-12. ポストドクター等が兼任を希望する業務

[男女別集計]

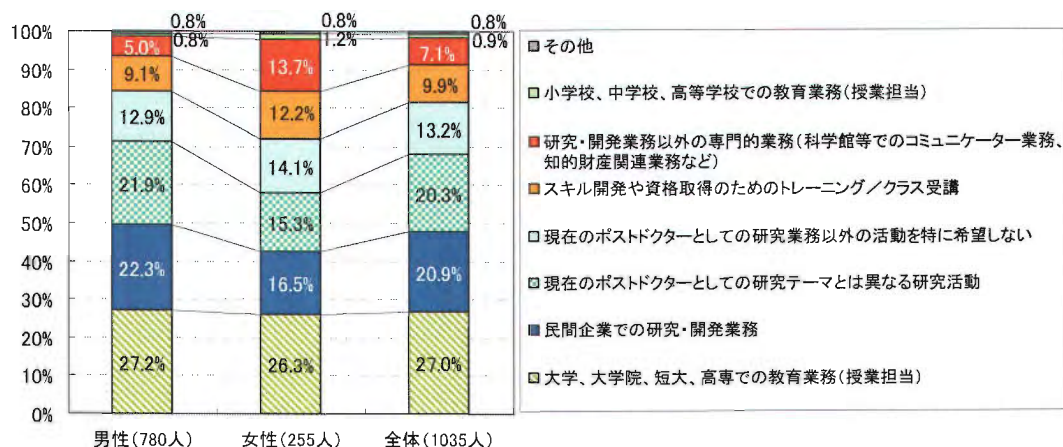


図 5-13. ポストドクター等が兼任を希望する業務(男女別)

問. 現在のポストドクターとしての研究業務以外に、以下の活動や業務を兼任できるとしたら、あなたの将来のキャリアを考える上でどのような活動が有益だと考えますか。1つだけ選んでください。(続き)

[ポイント]

- 年齢の上昇とともに、「民間企業での研究・開発業務」の兼任を希望する者の割合が低下し、「大学、大学院、短大、高専での教育業務」の兼任を希望する者や「ポストドクターとしての研究業務以外の活動を希望しない」者の割合が増加する。
- いずれの分野も同様の傾向を示しているが、特に社会科学分野のポストドクター等については「民間企業での研究・開発業務」と「研究・開発業務以外の専門的業務」の兼任を希望する者の割合が、他分野に比べて高くなっている。

[年齢別集計]

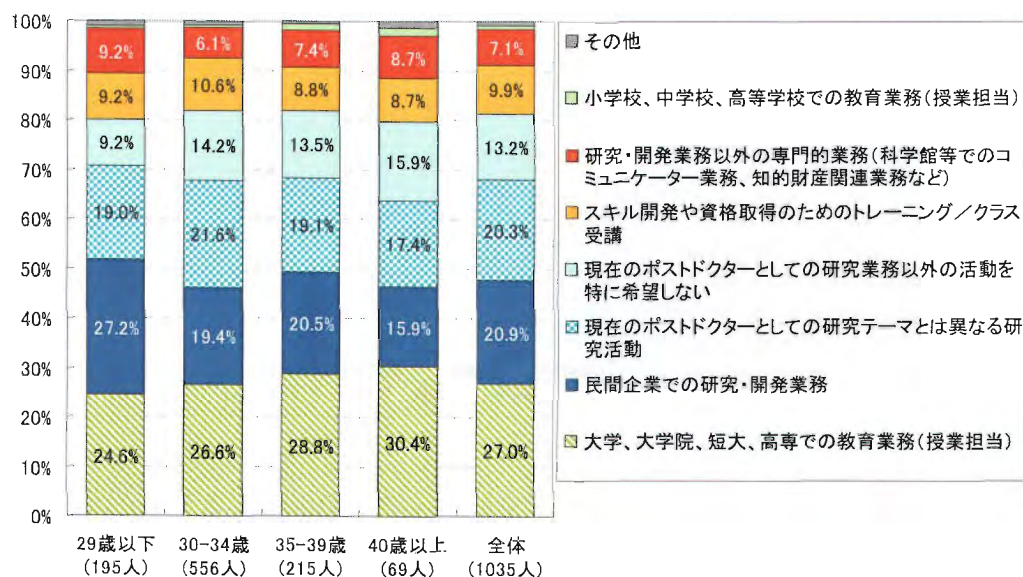


図 5-14. ポストドクター等が兼任を希望する業務(年齢別)

[分野別集計]

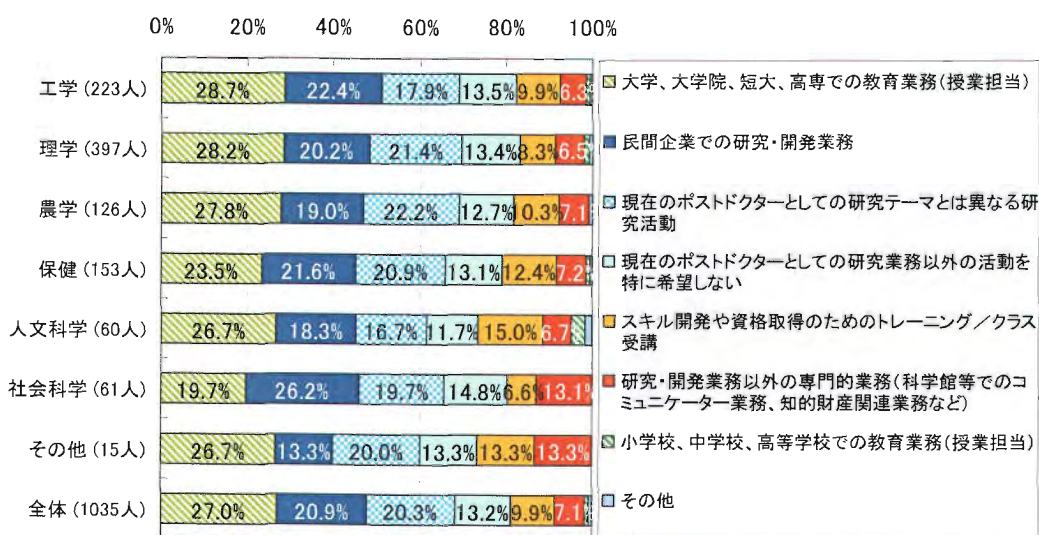


図 5-15. ポストドクター等が兼任を希望する業務(分野別)

次に、就職を希望する（ポストドクター等が「是非就きたい」と回答した）職業別に、兼任希望の内訳を見てみると、全般的に「大学、大学院、短大、高専での教育業務」や「民間企業での研究・開発業務」の兼任を希望する者が多い（図 5-16 参照）。ただし、「大学・公的研究機関の研究者」に「是非就きたい」と回答した者では、「大学、大学院、短大、高専での教育業務」の兼任を希望する者の割合が、企業（ベンチャー含む）の研究者・技術者に「是非就きたい」と回答した者では、「民間企業での研究・開発業務」の兼任を希望する者の割合が、さらには「学術関連のコミュニケーター職」、「産学連携コーディネーター職」、「知的財産関連職」に「是非就きたい」と回答した者では、「研究・開発業務以外の専門的業務」の兼任を希望する者の割合が高くなっている。このことから、就職を希望する職業と兼任を希望する業務には強い関連性が見られる。

問. 現在のポストドクターとしての研究業務以外に、以下の活動や業務を兼任できるとしたら、あなたの将来のキャリアを考える上でどのような活動が有益だと考えますか。1つだけ選んでください。(続き)

[ポイント]

- ▶ 「大学・公的研究機関の研究者」に「是非就きたい」と回答した者では、「大学、大学院、短大、高専での教育業務」の兼任を希望する者が多く、次いで「現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動」の兼任を希望している。
- ▶ 企業（ベンチャー含む）の研究者・技術者に「是非就きたい」と回答した者では、「民間企業での研究・開発業務」の兼任を希望する者の割合が特に高い。
- ▶ 「学術関連のコミュニケーター職」、「産学連携コーディネーター職」、「知的財産関連職」に「是非就きたい」と回答した者では、「研究・開発業務以外の専門的業務」の兼任を希望する者の割合が高い。
- ▶ 「小学校・中学校・高等学校の教員」に「是非就きたい」と回答した者は、「小学校・中学校・高等学校での教育業務」の兼任を希望する者の割合が、他に比べて高い。

[希望職業別集計]

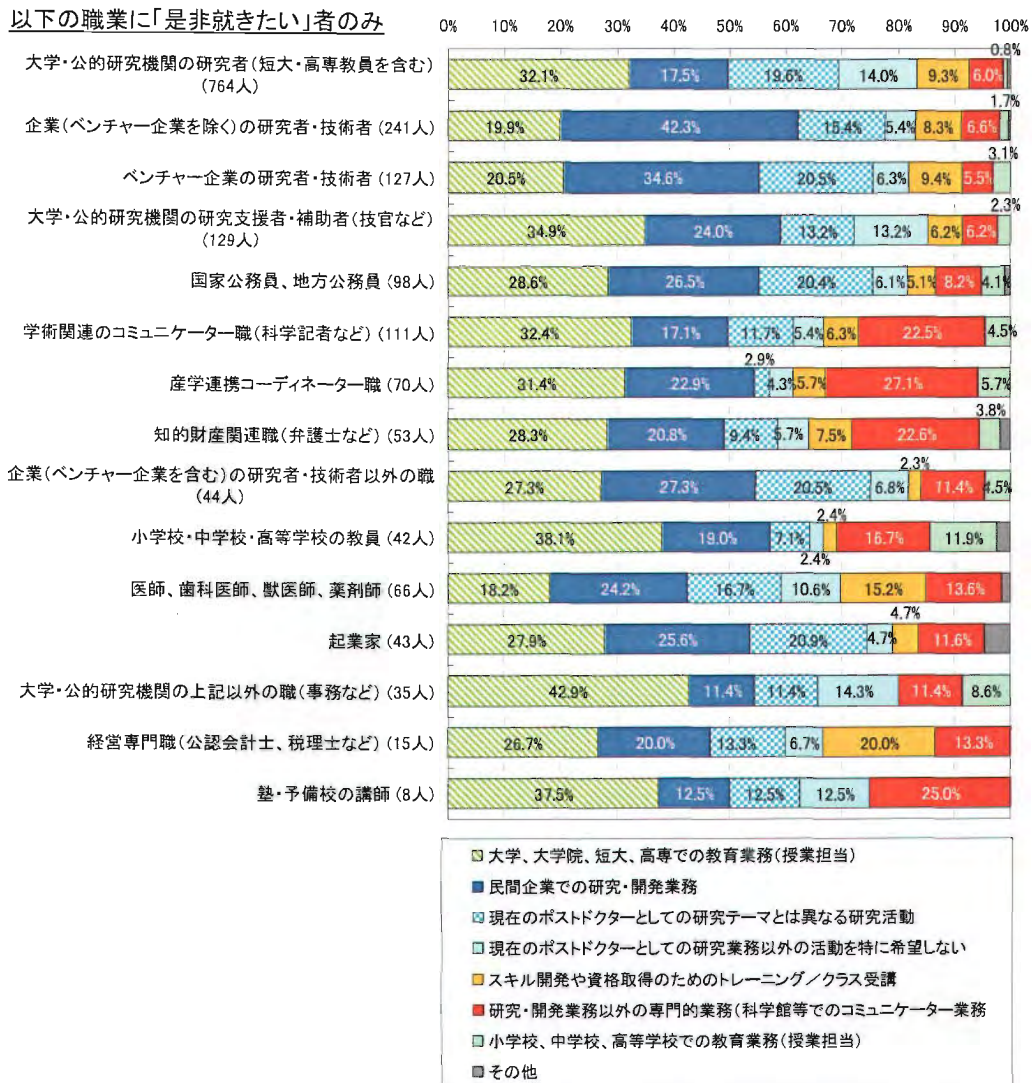


図 5-16. ポストドクター等が兼任を希望する業務(希望職業別)

該当する職業に「是非就きたい」と回答した者が、兼任を希望する業務の比率を示す。

5.6. ポストドクター等のデュアル・キャリアの実態と進路選択 [※分析対象(設問番号): Q26, F6]

本節では、配偶者／パートナーの職業がポストドクター等の進路選択に与える影響を考察することにする。女性のポストドクター等については、家族の生活拠点などを考慮した理由から、応募できる範囲（地域や雇用条件など）が限定される、自らのキャリアパスの選択肢を限定せざるを得ないといった状況も予想されている²¹。同様の事情は、米国のポストドクター等にも見受けられ、特に、配偶者／パートナーもポストドクター等の研究者である場合（このようなカップルを” Dual Career Coupls” と呼ぶ）には、同一地域内で研究ポストを探すことが難しく、別居生活を余儀なくされる、または研究キャリアを断念するといったことが懸念されている²²。

本調査においては、女性のポストドクター等の約 6 割、男性の約 5 割に配偶者／パートナーがいることが判明している（図 5-17 参照）。配偶者／パートナーの職業が研究職である割合は女性のポストドクター等で 32%（配偶者／パートナーのいる女性のポストドクター等の 52%）となっており、男性の 6%（配偶者／パートナーのいる男性のポストドクター等の 12%）に比べて、特に高くなっている。また、女性のポストドクター等では、配偶者／パートナーの職業が無職である割合も男性に比べて低いことなどから、就職活動の際に様々な制約を受けることが予想される。

実際に、今後の就職活動と配偶者／パートナーの仕事との関係に関する設問では、男性のポストドクター等で「配偶者／パートナーが、あなたの今後のキャリア選択に合わせて職業、就業形態、勤務地などを調整する」と回答した者の割合が高いのに対して、女性では「配偶者／パートナーの仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」ケースが圧倒的に多くなっている（図 5-18 参照）。また、配偶者／パートナーの職業が研究職である場合には、「配偶者／パートナーの仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」と回答する者が多く、研究職以外の職業である場合には「配偶者／パートナーが、あなたの今後のキャリア選択に合わせて職業、就業形態、勤務地などを調整する」と回答した者の割合が高くなっている（図 5-19 参照）。なお、配偶者／パートナーの職業がポストドクター相当の職である場合には、「配偶者／パートナーとの別居も止むを得ない」と回答する者の割合が 36%と最も高くなっており、お互いのポジションが保障されていないためか、別居の選択肢も考慮しながら就職活動を行っている様子が見受けられる。

²¹ 事前のインタビュー調査によれば、一部の女性のポストドクター等から、「以前は別居していたが、現在は夫の都合に合わせている」といった意見が聞かれており、子供の養育や家族の生活拠点を考慮した理由などから、自らのキャリアパスの選択肢を限定せざるを得ないといったケースが見受けられた。（科学技術政策研究所 調査資料-152『インタビュー調査 ポストドクター等のキャリア選択と意識に関する考察 ～高年齢層と女性のポストドクター等を中心に～』（2008年1月）を参照）

²² 【海外情報（米国）】デュアル・キャリアの事例は、<http://www.serve.com/awis/fmag01neil.html> を参照。

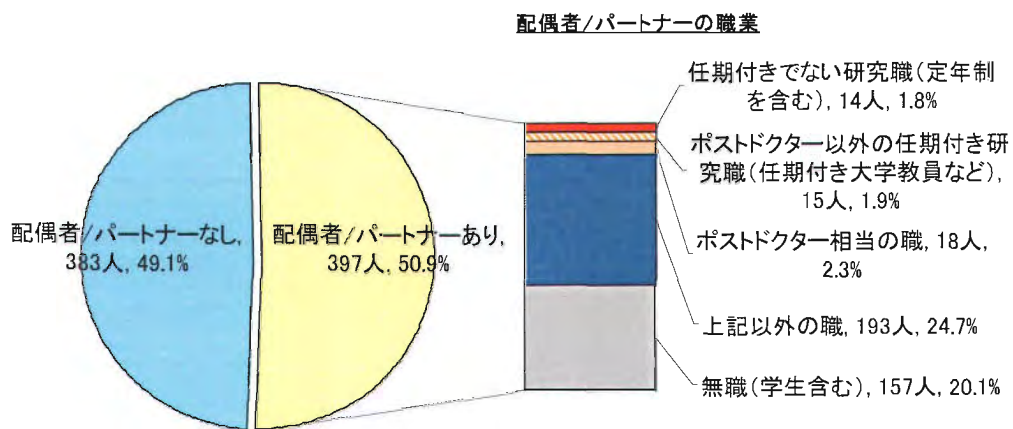
問. あなたの配偶者／パートナーの職業は研究職ですか。配偶者／パートナーについて該当する職業をお答えください。

[ポイント]

- ▶ 男性のポストドクター等の51%、女性のポストドクター等の61%に、配偶者／パートナーがいる。
- ▶ 配偶者／パートナーの職業が研究職である割合は、女性のポストドクター等で32%となっており、男性の6%に対して、特に高くなっている。

[男女別集計]

(a) 男性のポストドクター等



(b) 女性のポストドクター等

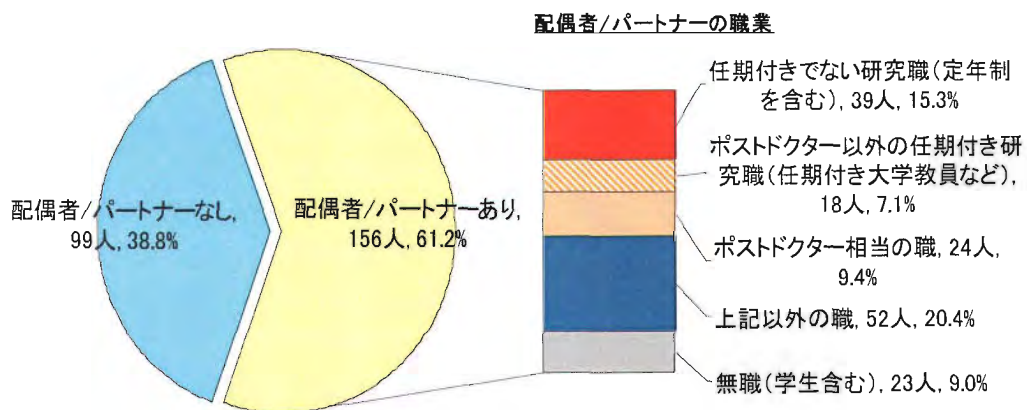


図 5-17. ポストドクター等の配偶者／パートナーの職業(男女別)

問. 就職活動と配偶者／パートナーとの関係についてお聞きします。あなたの今後の就職活動でもっとも該当すると思われるものを1つ選んでください。なお現在、配偶者／パートナーがいない方も、今後いることになった場合を想定してお答えください。

[ポイント]

- ▶ 配偶者／パートナーがいる者では、「配偶者／パートナーと話し合い、どちらの都合に合わせるのかを決める」、「配偶者／パートナーが、あなたの今後のキャリア選択に合わせて職業、就業形態、勤務地などを調整する」と回答する者が、いずれも31%と最も多い。
- ▶ 配偶者／パートナーがいる女性のポストドクター等では、「配偶者／パートナーの仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」と回答した者が最も多く、次いで「配偶者／パートナーとの別居も止むを得ない」となっている。
- ▶ 配偶者／パートナーの職業が研究職である場合には、「配偶者／パートナーの仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」と回答する者が多い。
- ▶ 配偶者／パートナーの職業がポストドクター相当の職である場合には、「配偶者／パートナーとの別居も止むを得ない」と回答する者の割合が36%と最も高くなっている。

[男女別集計(配偶者／パートナーのいる者のみ)]

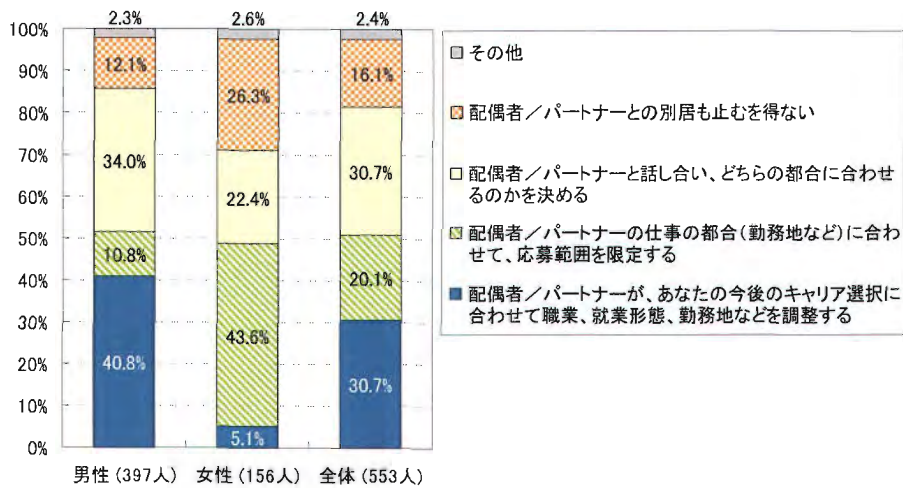


図 5-18. ポストドクター等の配偶者／パートナーの職業と就職活動との関係(男女別)

[配偶者／パートナーの職業別集計]

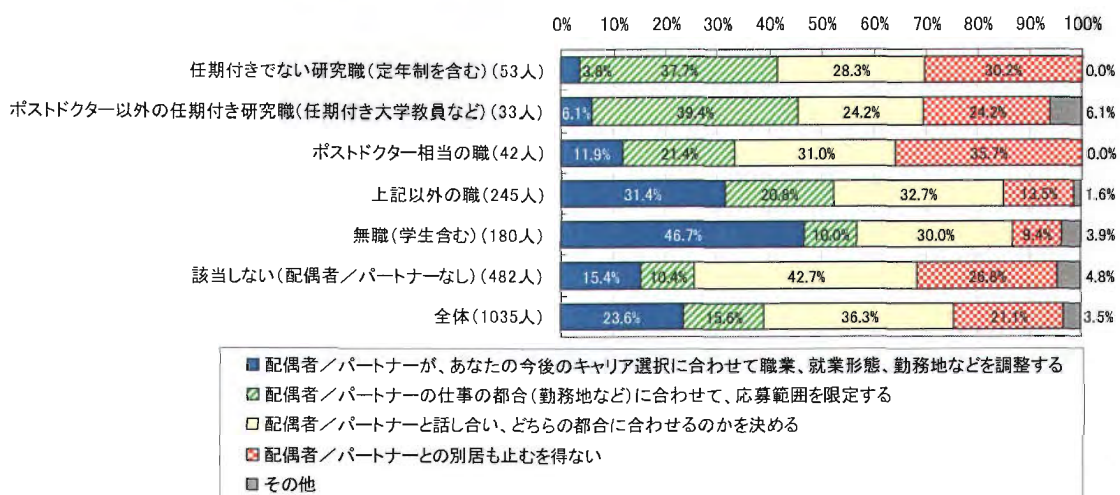


図 5-19. ポストドクター等の配偶者／パートナーの職業と就職活動との関係(配偶者／パートナーの職業別)

第6章 まとめ

『ポストドクター等の研究活動・生活意識調査』は、我が国のポストドクター等の研究活動、生活状況、進路選択上の諸要因を明らかにすることを目的として、大学、公的研究機関等に所属するポストドクター等の1割程度を抽出し、インターネット調査を実施したものである。本調査における総依頼者数²³は1,564名、有効回答者数は1,035名であった（有効回答率は66.2%）。本調査は、主として「ポストドクター等の研究活動及び生活実態」と「ポストドクター等のキャリア選択」の2つの観点から構成されており、本報告書では後者の「ポストドクター等のキャリア選択」（ポストドクター等のキャリアパスの実態や進路志向の特徴など）について分析した。

6.1. ポストドクター等のキャリアパスの特徴

有効回答者全体の66%は博士課程と異なる機関でポストドクター等をしていることから、ポストドクター等の博士課程修了以降の人材流動性は比較的高いと言える。また、高年齢層や女性のポストドクター等を中心に、過去にポストドクター等以外の常勤職に就いた経験のある者も比較的多く、これらのポストドクター等については多様なキャリア経験を有している実態が明らかとなった。

分野別に見ると、理学や農学分野については、4割以上のポストドクター等が現在の所属機関以外でもポストドクター等を経験しており、他分野に比べてポストドクター等を複数回（指導教員などが異なる場合に1回とカウント）経験する傾向が見られている。特に、理学分野については6年以上ポストドクター等を続けている者の割合が25%と、他分野に比べても高く、さらにポストドクター等以外の常勤職を経験した者の比率も17%に留まっている。このことから、理学分野については、大学卒業後に大学院進学、大学院修了後にそのままポストドクター等になった者が多いことが予想され、ポストドクター等になってからもポストドクター等を複数回経験し活動期間が長期化している状況が見受けられる。同様の傾向は、3,870人のポストドクター等（我が国のポストドクター等の総数約1万5千人のうちのおよそ4分の1に相当）の進路動向を調査した『ポストドクター進路動向8機関調査』²⁴にも現れており、ポストドクター終了直後に再び他機関のポストドクター等になる比率が高い分野は理学分野であった。

²³ 総依頼者数は、我が国のポストドクター等の総数16,394名（2006年度実績）に対して約1割に当たる。

²⁴ 科学技術政策研究所 調査資料-148『ポストドクター進路動向8機関調査』（2007年11月）

6.2. ポストドクター等の意識に見る進路選択の特徴

「研究者になりたいと思ったのは、いつ頃ですか」の設問に対しては、ポストドクター等の約6割が、大学進学以降の比較的遅い段階で「研究者になりたいと思った」と回答している。ただし、男性のポストドクター等については、女性よりも初等・中等教育段階の比較的早い時期に研究者を目指す傾向が見られている。また、分野別では、人文・社会科学分野よりも、理学、工学、農学、保健分野のポストドクター等のほうが、初等・中等教育段階の早い時期に研究者を目指していた者の比率が高くなっている。初等・中等教育段階で研究者を目指した者については、教師や授業（科学館・博物館等での体験学習や課外授業などを含む）の影響の他、書籍（科学雑誌、図鑑、科学者の伝記など）、TV番組（科学関連の特集番組、アニメなど）、身近な研究者の存在（親など）などから得る肯定的な研究者像がきっかけを与えている様子が見受けられる。

次に、ポストドクター等になった理由としては、全体の73%が「研究者になりたかったから」「研究を続けたかったから」を挙げる一方、「他に就職先が見つからなかったから」など、必ずしも積極的ではない理由で現在のポストを選択した者も2割程度いた。

6.3. ポストドクター等へのキャリア支援の現状

現状では、国または所属機関が実施するポストドクター等に対する支援プログラムを活用したことがあると回答したポストドクター等は、全体の4%に留まっているが、自由記述を見る限り、「任期満了後の就職先の斡旋」や「大学・教育機関以外の進路選択に関する情報提供」など、進路に関する情報提供を含むキャリア支援を求める意見が見られている。実際の研究室レベルにおいては、全体の82%の者が直属の上司と少なくとも1年に1回以上、進路について意見交換をしている実態が明らかになった。

その一方、現在のポストドクター等のうち、大学院在学当時、博士課程修了後の進路や就職の見通しについて十分な情報を持っていたと回答した者は、全体の18%に留まっており、進路などに関する情報が不足したまま、ポストドクター等になった者が多いことがわかる。

6.4. ポストドクター等の進路志向とキャリア開発

本調査においても、有効回答者の約4分の3は、「大学・公的研究機関の研究者（短大・高専教員を含む）」に「是非就きたい」と回答しており、ポストドクター等の学術研究機関の研究職への強い志向が確認された。ただし、ベンチャーを含む民間企業の研究者・技術者についても、半数以上の者が就職に前向きな回答をしており、必ずしも学術研究機関の研究職以外の選択肢を考慮していないという状況ではない。また、「大学・公的研究機関の研究支援者・補助者（技官など）」、「国家公務員、地方公務員」、「学術関連のコミュニケーター職（科学記者など）」などの職業に就くことに対しても、女性のポストドクター等を中心に比較的前向きに捉えている。

研究業務以外のスキルが要求される職業へのキャリア・トランジションを円滑に進めるためには、希望に応じて、ポストドクター等の期間中に、キャリア開発に繋がる業務をある一定の割合で許容することも一つの選択肢として考えられる。そこで、現在のポストドクター等としての研究業務の他に、兼任を希望する業務についても聞いたところ、「大学、大学院、短大、高専での教育業務（授業担当）」を希望する者が全体の27%と最も多く、次いで、「民間企業での研究・開発業務」（21%）、「現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動」（20%）であった。「現在のポストドクターとしての研究業務以外の活動を特に希望しない」は13%に留まっていることから、キャリア開発に繋がる業務をある一定の割合で兼任することに対するニーズの高さがうかがえる。

一方で、今回の調査においては、配偶者／パートナーのいるポストドクター等のうち、配偶者／パートナーの職業が研究職である割合が女性で52%と、男性の6%と比べても圧倒的に高くなっている。そのため、女性のポストドクター等については、配偶者／パートナーの職業との兼ね合いから、男性に比べて就職活動の際に様々な制約を受けることが予想された。実際に、配偶者／パートナーのいる女性のポストドクター等については、就職活動の際に「配偶者／パートナーの仕事の都合に合わせて、応募範囲を限定する」と回答した者が、男性に比べて圧倒的に多くなっている。また、配偶者／パートナーの職業がポストドクター等以外の研究職である場合にも、その傾向が顕著である。ただし、配偶者／パートナーの職業がポストドクター相当の職である場合には、「配偶者／パートナーとの別居も止むを得ない」と回答する者の割合が高く、お互いのポジションが保障されていないためか、別居の選択肢を考慮しながら就職活動を行っている様子が見受けられた。

6.5. 今後に向けて

米国では、ポストドクターを Postdoctoral Trainee や Postdoctoral student と表現することがある。これは、ポストドクターが上級の研究者の監督下で研究または学問の訓練を受ける立場にあることを意味している。全米アカデミーの科学・工学・公共政策委員会では、ポストドクター、アドバイザー、ポストドクターを雇用する機関、ファンディング機関、さらには学界に向けて提言（2000年）を行っており²⁵、その中で、各機関においては一貫したポリシーの適用を図るポストドクトラル・オフィス PDO(以下、ポストドク・オフィス)を設立し、ポストドクターに対するオリエンテーションや能力開発プログラムの提供、指導教員に対して最良の指導を行なうことの奨励、ポストドクターとアドバイザー等の仲介、ポストドクトラル・アソシエーション PDA²⁶に対する支援などを行うべきであるとしている。以上のような提言などもあり、徐々にではあるが、米国の各機関においてポストドクターを支援するための体制（ポストドク・オフィス）が整備されつつある²⁷。機関によってポストドク・オフィスの支援内容や制度が異なっているものの、全体的に、ポストドクターのトレーニング期間の明確化（最大5年間などに制限）や最低給与を設定する傾向が見られる。また、ポストドクターに対しては Individual Development Plan (IDP) と呼ばれる計画書（ポストドクターの研究目標や論文・研究発表計画の他、進路希望などの記入欄が設けられている）の記入を義務付ける（奨励する）ケースもあり²⁸、上級の研究者がポストドクターの進路希望などを踏まえた上で、適切な指導・支援を行うことが求められている。

今回の調査対象となったポストドクター等の半数以上の者については、大学・公的研究機関の研究者のみならず、ベンチャーを含む民間企業の研究者・技術者になることに対しても前向きであった他、研究支援者・補助者（技官など）、公務員、学術関連のコミュニケーターなどの職業に就くことに対しても肯定的に考えている者が比較的多かった。さらに、将来のキャリアを考える上で、現在のポストドクター等としての研究業務の他に、「大学、大学院、短大、高専での教育業務（授業担当）」、「民間企業での研究・開発業務」、「現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動」といった業務の兼任を希望する者も多い。ポストドクター等を雇用する各機関、指導

²⁵ National Academy of Sciences, National Academy of Engineering, Institute of Medicine, “Enhancing the Postdoctoral Experience for Scientists and Engineers: A Guide for Postdoctoral Scholars, Advisers, Institutions, Funding Organizations, and Disciplinary Societies” (2000).

²⁶ ポストドクトラル・アソシエーションとは、各機関に所属するポストドクターが中心となってポストドクターの連帯感を強めるための自主的な活動を行なう組織を指しており、1992年にジョーンズ・ホプキンス大学医学部で設立された協会が、全米で最初とされている。

²⁷ http://database.nationalpostdoc.org/pddb/all_institutions

²⁸ 【海外情報（米国）】米国のバンダービルト大学では、ポストドクターへのキャリア支援などを行なうために、ポストドクトラル・オフィス(PDO)を設置するとともに、ポストドクターに対しては Individual Development plan (IDP) と呼ばれる計画書を毎年記入するように義務付けている。IDPのサンプルは、<https://medschool.mc.vanderbilt.edu/mentor/idp.php> を参照。

教員・PIは、自立支援が必要と考えられる養成段階²⁹のポストドクター等の進路希望や要望などを把握し、必要に応じて、研究業務とキャリア開発のための実務的な訓練を両立できる仕組みを導入するなどの支援環境を整備することが望まれる。ポストドクター等の受け入れ基準を明確にし³⁰、ポストドクター等の研究業務以外のキャリア開発に繋がる活動がある程度許容する（または支援する）ことが、ポストドクター等自身の自立を促すことにもなるのではなかろうか。

次に、ポストドクター等の円滑なキャリア・トランジションを実現する上で、米国のポストドクターへのファンディング・プログラムも参考になる。特徴的なプログラムとしては、国立衛生研究所(NIH)のK-Awards Grant³¹のうち、“Mentored Quantitative Research Development Award”(K-25)と“Pathway to Independence Awards”(K-99) Grantが挙げられる。K-25 Grantは異分野への円滑なキャリア・トランジションをサポートするためのファンディング・プログラムであり、非バイオ・メディカル分野（数学、物理学など）の研究経験を有する博士号取得者がNIH関連分野の研究活動に段階的に移行できるように支援するプログラムである。一方、K-99 Grantは、ポストドクターが自立した研究者になるために、“mentored（指導下の）”から“independent（自立した）”研究に円滑に移行できるように設けられた制度であり、最初の1-2年間はポストドクターとして上級の研究者の指導の下で研究を行い、その後教員などの自立したポストを獲得すると、さらに最大3年間の支援を受けることができる仕組みとなっている。いずれも、ポストドクター経験が5年未満の者（MD、PhD相当）が対象となっており、これらのGrant申請にもキャリア・デベロップメント・プランと呼ばれる計画書の提出が求められている。また、研究等のエフォート率も75%であれば良いことが規定されている。

科学技術の進歩は目覚しく、研究者に求められる専門性や能力も大きく変化している現代では、分野別の需要に対応した研究人材を計画的・効率的に養成することは難しい。人材養成の効率性の

²⁹ 米国では、ポストドクターとしての期間を5年程度に規定する機関も多く、本調査の対象となったポストドクター等とは、定義や位置付けが必ずしも一致していないことに留意する必要がある。

³⁰ 【海外情報（米国）】米国の国立衛生研究所(NIH)では、フェローシップやトレーニング・Grantの最低給与水準をおよそ\$35,000（年間）に規定しているが、それ以外のポストドクターについては、最低給与水準などの統一基準は見られない。個別機関の取組事例を見てみると、カリフォルニア大学システムでは、2003年7月に、ポストドクター（全体で約6000人のポストドクター）の最低給与をおよそ\$32,000（年間）、最高給与をおよそ\$76,000（年間）と定めており、担当教員（PI）がそれを下回る給与でポストドクターを雇うことはできない。また、ポストドクター期間も最大5年に設定している（例外あり）。2007年1月には、全米ポストドク協会(National Postdoctoral Association)の提言などを踏まえて、全米科学財団(NSF)と国立衛生研究所(NIH)が、「ポストドクターを「博士号取得後（または博士号相当）、ポストドクター自身が目指すキャリアを実現するために、上級研究者の指導の下で専門的なスキルと研究の自立性を高めるための高度なトレーニングを一定期間受けている者」と定義することで合意した。

米国では、従来の大学院プログラムの限られた期間内で高度に発展した物理学を習得することは難しいといった認識から、1876年にジョンズ・ホプキンス大学でポストドクトラル制度の前身となる研修制度が導入され、1920年代にロックフェラー財団が物理学分野のポストドクトラル・フェローシップを正式に確立したとされている。ポストドクトラル制度が確立されている米国においても、ポストドクターの定義や位置付けを統一し、体系的なポストドクトラル教育を実現するための環境整備は始まったばかりであると言える。

³¹ <http://grants.nih.gov/grants/guide/pa-files/>

観点からも、高い専門性と変化への柔軟な対応力を併せ持つ人材が求められており、ポストドクター一等が自身の専門分野のみならず、異分野を含めた幅広い研究活動に対応できるように自身の能力を磨き、段階的に研究者として自立できる仕組みも必要ではなかろうか。

最後に、大学院在学当時、博士課程修了後の進路や就職の見通しについて十分な情報を持っていなかったと回答したポストドクター等も多いことから、大学院教育の早い段階から、多様なキャリアパス事例を含む進路情報を出来る限り正確かつ詳細に提供していくことが、キャリア支援の一環としても重要であり、また大学院生やポストドクター等の主体的なキャリア選択と自立に向けた能力開発を促す上でも必要であろう³²。

³² 【海外情報（米国）】米国の全米アカデミーの提言（2005年）では、大学院生に対して進路の見通しなどについて十分に伝えておくことの重要性を指摘している。また、専門的な研究活動のみならず、様々なスキルを身につけることで、多様なキャリアパスに対応できるように大学院教育及びポストドクトラル・プログラムを開発すべきであるとしている。さらに、ファンディング機関に対して、必要に応じて、キャリア・トランジションを可能にするグラントを用意することについても言及している。（National Academies, “Policy Implications of International Graduate Students and Postdoctoral Scholars in the United States (2005)”を参照）

謝辞

本調査の有効回答者数は、「雇用状況調査」におけるポストドクター等総数の約1割（有効回答率66%）にも達しており、ポストドクター等の進路選択要因などを分析する上で非常に有益なデータが得られたと言える。本調査の実施に当たっては、多くの皆様のご協力を頂いた。何よりも、業務ご多忙の折、インターネット調査に快くご協力いただいたポストドクター等の皆様、調査対象者をご紹介いただいた各機関の担当者の皆様には、心からお礼を申し上げたい。

調査業務の分担

（実施主体： 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ）

実施計画の策定： 巖岩 晶、三須 敏幸

調査方法・調査票の設計： 三須 敏幸、巖岩 晶

記入要領等の作成・発送等各種手配： 三須 敏幸

依頼人数の確認・質問等対応： 水越 彩香、三須 敏幸

回収データのクリーニング： 巖岩 晶

報告書執筆： 三須 敏幸

報告書確認： 角田 英之、巖岩 晶

※WEB調査票の作成及びデータの回収は、マイボイスコム（株）に依頼。

参 考 資 料

依頼状・手順書・調査票

A1. 依頼状

「ポストドクター研究活動・生活意識調査」(調査依頼)

ポストドクターの皆様へ

文部科学省 科学技術政策研究所
第1調査研究グループ

本調査は、ポストドクターとして研究活動をしている皆さまが、どのような経済的・社会的環境のもとで研究生活を送っているのか、また、研究指導やキャリア支援をどの程度受けられているのかなどを、WEBアンケートでお聞きするものです。

アンケートで得られた情報は、ポストドクターに対する支援制度とそれを可能にする政策立案のための基礎情報として活用されます。また、調査結果は、大学・研究機関の運営やこれから研究者を目指す方々が利用できるように、報告書として公開する予定です。ただし、個人が特定されるような情報が公開されることはありません。

- 回答は、一人につき一回です。調査対象者に選ばれた方のみがご記入ください。
- 記入所要時間は約20分です。
- 本調査の調査期間は、平成19年11月26日(月)～12月9日(日)です。期間内の回答をお願いします。

下記のWEBアドレスにアクセスして頂き、本調査にご協力下さい。なお、アンケート調査にお答えいただく際には、以下のIDとパスワードを入力して頂く必要があります。

本調査のWEBアドレス：<http://www.myvoice.co.jp/vt/postdoc/>
(調査期間：平成19年11月26日(月)～12月9日(日))

あなたのID： _____ あなたのパスワード： _____

A2. 手順書

～『大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査』の担当者の方へ～ 「ポストドクター等の研究活動・生活意識調査」 調査手順について

調査名：「ポストドクター研究活動・生活意識調査」

調査目的：

本調査は、研究活動に従事しているポストドクターの研究・雇用環境、研究活動状況、生活意識などを把握することを目的としています。

第3期科学技術基本計画の中では、ポストドクターを「自立して研究が行える若手研究者の前段階」と位置付けて支援することが指摘されています。

ポストドクターが「自立した研究者」になるためにどのような環境で育成・支援され、研究活動はどの程度活発なのか、更には、ポストドクターとしての現状をどのように認識しているのかなどを把握し、ポストドクターの自立支援・キャリア支援等に繋がる政策提言や、各機関の施策のための基礎的資料として、本調査は必要とされています。

調査対象：現在、当該機関に所属しているポストドクターの1割の者

※ 本調査の「ポストドクター」は、同時期に実施する『大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査』（以下、『雇用状況調査』）で定義する「ポストドクター等」に従います。

本調査におけるポストドクターとは以下の条件をすべて満たす方です。

- ① 博士号取得者、又は博士課程満期退学者
- ② 大学等の研究機関において、任期付きで研究業務に従事している者（謝金による支払いを受けている者、人材派遣会社から派遣されている者、給与等の支給を受けずに研究活動を続ける者も含みます）
- ③ 教授・助教授・講師・助手などのポストについていない者
- ④ 研究グループのリーダー・主任研究員などのポストについていない者

※ 『雇用状況調査』の担当者の方には、当方で指定するポストドクターに対して本調査への協力依頼をお願いします。また、当該機関で協力依頼をされたポストドクターの数を本件連絡先（pd-shinro@nistep.go.jp）までお知らせ下さい。

調査方法： 指定インターネット・アドレス上でのWEBアンケート
<WEBアドレス> <http://www.myvoice.co.jp/vt/postdoc/>
(各機関に所属するポストドクター本人による回答)

調査期間：平成19年11月26日（月）～~~12月9日（日）~~ 12月26日（水）

調査手順：

後述の「ポストドクター研究活動・生活意識調査」サンプリング手順に従って、当該機関のポストドクターを抽出し、抽出されたポストドクターに対して本調査への協力依頼（ID及びパスワードの発行を含む）を行ってください。調査期間が平成19年11月26日（月）～12月9日（日）12月26日（水）のため、調査の開始時点（平成19年11月26日）までに調査期間終了前までに、調査対象者への協力依頼をお願いします。なお、本調査の実施手順・方法等の疑問点につきましては、下記担当にお問い合わせ下さい。

- ※ ポストドクターの抽出や本調査への協力依頼にあたっては、必要に応じて、当該機関でキャリア支援を担当する部局等と連携して頂いても結構です。
- ※ なお、本調査においてはポストドクター本人がWEB上で回答する方法を採用しているため、『雇用状況調査』の担当部局や担当者の方がアンケートの回収をして頂く必要はありません。本調査への協力依頼を受けたポストドクターが、協力依頼の際に配布して頂くID及びパスワードをWEB上で入力し、個人認証した上で、WEB上のアンケートに直接回答して頂きます。

調査結果の公表：

科学技術政策研究所より報告書として公表します。

- ※ ただし、個人情報保護の観点から、個人や研究室を特定できる形で公表されることはありません。

<本件連絡先>

文部科学省科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

TEL：03-3581-2395 FAX：03-5220-1252

E-mail：pd-shinro@nistep.go.jp

担当：巖、三須

「ポストドクター研究活動・生活意識調査」 サンプルング手順

① 平成 18 年度『雇用状況調査』(平成 17 年度実績)の整理

昨年度に実施した平成 18 年度『雇用状況調査』の当該機関における平成 17 年度実績データにおいて、学校基本調査などの分野分類（「理学」、「工学」、「農学」、「保健」、「人文・社会科学」、「その他」）毎に男女別の「ポストドクター等」数を算出して下さい。

(例)

分野分類 (平成18年度『雇用状況調査』の分野分類に従う。)	ポストドクター等		合計
	男性	女性	
理学	25人	10人	35人
工学	20人	3人	23人
農学	8人	7人	15人
保健	32人	16人	48人
人文・社会科学	23人	14人	37人
その他	5人	0人	5人
合計	113人	50人	163人

※ 今年度の『雇用状況調査』の分野分類（重点8分野）とは異なります。

② 調査対象者の抽出

次に、上記①で集計された、当該機関の平成 18 年度『雇用状況調査』の平成 17 年度実績値において、各分野の男性総数、女性総数のそれぞれ約 1 割程度の人数を目処に、当該機関に所属している「ポストドクター等」を抽出して下さい。(以下の例では、合計 17 人程度のポストドクターに本調査への協力依頼をすることになります。)

(例)

分野分類 (平成18年度『雇用状況調査』の分類に従う。)	調査対象者		調査対象者合計
	男性	女性	
理学	3人	1人	4人
工学	2人	0人	2人
農学	1人	1人	2人
保健	3人	2人	5人
人文・社会科学	2人	1人	3人
その他	1人	0人	1人
調査対象者合計	12人	5人	17人

※ 「1 割程度」の人数の抽出はあくまで目安です。

※ 該当者数が 0 人の場合には、抽出の必要はありません。

③ ポストドクターに対する本調査への協力依頼

上記②で抽出されたポストドクター（＝「ポストドクター等」）に該当する方々を探して頂いた上で、該当者に対して本調査への協力依頼をお願いいたします。

④ 調査対象者に対する ID 及びパスワードの発行

上記②で抽出したポストドクターに対して本調査への協力依頼をする際に、調査対象者に対して以下に指定する ID とパスワードを配布するとともに、本調査の WEB アドレスと調査期間を周知して下さい。

○ ID の割当方法

ID については、平成 18 年度『雇用状況調査』において指定された当該機関の「機関コード番号（4 桁）」に 3 桁の整理番号を組み合わせた合計 7 桁の番号を発行して下さい（以下のサンプルを参照）。

（例）「機関コード番号」が「3033」の場合、「3033001」、「3033002」、・・・となります。

○ パスワードの設定

パスワードについては、XXXXXXXXXXを発行して下さい（以下のサンプルを参照）。

（例）

分野分類	性別	ID	パスワード
理学	男性	3033001	
理学	男性	3033002	
理学	男性	3033003	
理学	女性	3033004	
工学	男性	3033005	
工学	男性	3033006	
農学	男性	3033007	
農学	女性	3033008	
保健	男性	3033009	
保健	男性	3033010	
保健	男性	3033011	
保健	女性	3033012	
保健	女性	3033013	
人文・社会科学	男性	3033014	
人文・社会科学	男性	3033015	
人文・社会科学	女性	3033016	
その他	男性	3033017	

○ WEB アドレス <http://www.myvoice.co.jp/vt/postdoc/>

○ 調査期間 平成 19 年 11 月 26 日（月）～~~12 月 9 日（日）~~ 12 月 26 日（水）

⑤ 協力依頼を行った総数に関する回答

上記④で、実際に ID 及びパスワードを発行したポストドクターの総数を、~~12 月 9 日（日）~~ 12 月 26 日（水）までに、以下の電子メール・アドレスまでお知らせ下さい。ここでは、上記②で抽出したポストドクターのうち、実際にポストドクター本人に ID 及びパスワードを渡す事ができた数を指します。

また、メール送信時には、メールの件名に、「ポストドク意識調査」＋「機関名」＋（当該機関の機関コード番号）＋「; 依頼総数」＋（実際に協力依頼を行った数）、のタイトルを記載して下さい。数字及び記号は半角で入力して下さい。本文メッセージは「空白」でも結構です。

（例）機関名「科学技術大学」、機関コード番号「3033」、実際に協力依頼を行った数が 9 人の場合、電子メールの件名は「ポストドク意識調査科学技術大学 3033; 依頼総数 9」となります。

○ 電子メールでの送付先 pd-shinro@nistep.go.jp （平成 19 年 ~~12 月 9 日（日）~~ 12 月 26 日（水） 締切）

ポストドクター等の研究活動・生活意識調査
Investigative Survey on the Research Activities and
Awareness of Postdoctoral Fellows

English

文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

本調査は、ポストドクターとして研究活動をしている皆さまが、どのような経済的・社会的環境のもとで研究生活を送っているのか、また、研究指導やキャリア支援をどの程度受けられているのか、などをお聞きするものです。

ここで得られた情報は、ポストドクターに対する支援制度とそれを可能にする政策立案のための基礎情報として活用されます。また、調査結果は大学・研究機関の運営やこれから研究者を目指す方々が利用できるように、報告書として公開されます。ただし、個人が特定されるような情報が公開されることはありません。

- 調査票は、一人につき一回です。調査対象者に選ばれた方のみがご記入ください。
- 現在のポストドクターとしての勤務に関する設問については、あなたが調査依頼を受けた所属機関について答えてください。
- 記入所要時間は20分～30分です。

配布されたIDを入力してください _____

配布されたパスワードを入力してくだ
さい

※ID番号が正しく入力されているか、御確認下さい

クリックしてアンケート画面へ

＜お問合せ先＞
マイボイスコム(株)
TEL: 03-5217-1911
e-mail: postdoc@myvoice.co.jp

1/7ページ

I. ポストドクターの学歴・職歴・研究歴

Q1. あなたの学位取得(または博士課程満期修了)時の年齢を教えてください

学位取得時: _____ 歳 (博士課程満期修了時: _____ 歳)

Q2. あなたが現在ポストドクターとして勤務している機関(あなたに本調査への協力を依頼した所属機関)と博士号を取得した(または博士課程を満期修了した)機関は同じですか

1. 同じ機関
2. 国内の違う機関
3. 海外の違う機関

Q3. あなたは現在お勤めの機関以外でポストドクターを経験したことがありますか 複数選択可

1. 経験なし
2. 国内の違う機関で経験あり
3. 海外の違う機関で経験あり

Q4. 他の機関も含めて、あなたは合計何年ぐらいポストドクターを経験しましたか

選択してください

Q5. 他の機関も含めて、あなたはポストドクターの職を、合計で何回経験しましたか
(回数については、辞令上の任期ではなく、指導教員が異なる場合に1回とカウントしてください)

選択してください

Q6. 大学卒業以降、ポストドクター以外に常勤の職業(アルバイトなどを除く)に就いた経験はありますか。経験年数のおおよその合計を記入してください
(経験が無い場合には、「0」を選択して下さい)

選択してください

Q7. あなたがこれまでのポストドクター期間中(過去及び現在のポストドクター経験を含む全期間)に発表した業績をすべて教えてください

査読付論文	本 (うちファーストオーサー	本)
紀要	本 (うちファーストオーサー	本)
学会での発表	回 (うちファーストオーサー	回)
著書	冊	
訳書	冊	
特許申請	件	

[次へ進む](#)

[ログインページへ戻る](#)

2/7ページ

II. ポストドクターの基本情報

Q8. 大学・研究機関におけるあなたの現在の正式な職名を教えてください

(特別研究員、特任研究員など)

Q9. あなたの現在のポストドクターとしての研究分野を教えてください

研究分野・分科: 選択してください ※は選択できません

Q10. 現在、ポストドクターとしてのあなたの給与は、以下のどの財源から支払われていますか。該当するものをすべて選択してください 複数選択可

- 1. 21世紀COEプログラム
- 2. 文部科学省科学研究費補助金
- 3. 戦略的創造研究推進事業
- 4. 1~3を除く競争的資金
- 5. 民間からの外部資金
- 6. 日本学術振興会特別研究員(PD等)
- 7. 6を除くフェローシップ
- 8. 国費留学生

- 9. 無給(雇用関係なし)
- 10. その他(運営費交付金等)
- 11. わからない

Q11. あなたのポストドクターとしての現在の業務は常勤ですか、それとも非常勤ですか。あなたの所属機関における「雇用契約上」の勤務形態をお答え下さい

- 1. 常勤
- 2. 非常勤
- 3. わからない

Q12. あなたの現在のポストドクターとしての任期は何年ですか。現在のポストドクターの職に就いてから、最長何年間、任期の更新が可能であるのかをお答え下さい。(7ヶ月以上は1年に繰り上げ、6ヶ月以下は0年として下さい。)また、現在、あなたはその任期の何年目にあたりますか

【任期】 選択してください 【何年目】 選択してください

Q13. あなたのポストドクターとしての現在の月平均給与(税込み)はいくらぐらいですか
選択してください

Q14. あなたの現在の一ヶ月あたりの収入のうち、以下のものが何割程度を占めていますか。該当するものをお選び下さい
(合計が10になるようにして下さい)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1) ポストドクターでの給与	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 他の給与(アルバイトなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q15. あなたは現在、誰かを扶養していますか、または誰かの扶養になっていますか

- 1. 扶養している
- 2. 扶養されている
- 3. どちらでもない

Q16. 社会保険加入状況についてお聞きします。あなたに該当するものを選択して下さい

- 1. 共済年金・健康保険
- 2. 厚生年金・健康保険
- 3. 国民年金・国民健康保険
- 4. その他()
- 5. 不明

Q17. 現在のあなたのポストドクターとしての「雇用契約」上(実働ではありません)の勤務時間は週何時間ですか

(例: 1日8時間、週5日勤務の方は、40時間になります)

- 1. 雇用契約あり(時間)
- 2. 雇用契約なし
- 3. わからない

Q18. あなたの現在のポストドクターとしての業務のうち、以下のものが「何割程度」を占めていますか。該当する数字を選択して下さい
(それぞれを加算した合計が10になるようにして下さい)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1) 自分の主たる研究業務	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 上記以外の研究・教育業務	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) その他の業務(雑務など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ進む 戻る

3/7ページ

III. ポストドクターの研究環境

Q19. あなたのポストドクターとしての研究活動を管理・指導する直属の上司(指導教官)のポストは、以下のどれに該当しますか

1. 任期付(定年は除く)
2. 任期なし
3. わからない

Q20. あなたは、現在のポストドクターとしての研究業務において、以下の項目についての程度コントロールすることができますか

	自分が全て コントロール	自分がある程度 コントロール	指導教官と共同で コントロール	指導教官がある程度 コントロール	指導教官が全て コントロール
1) 新規研究プロジェクトの計画	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 共同研究者の選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) 問題のあるプロジェクトの中止	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) 論文の執筆	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) 著者の決定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) グラントの申請書作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q21. あなたは、以下の教育研究に必要な基本スキルなどの習得のために、所属機関・研究室が運営する訓練・支援(ワークショップ/クラスの受講など)や指導教官などによる実質的な教育・指導(OJTなどの実務を通じたスキル習得など)を受けていますか。該当するものすべてを選んでください 複数選択可

運 所 実 指 教 左 特

記の訓練・支援／
 育・指導のいずれもなし
 導教官などによる
 質的な教育・指導
 異機関・研究室が
 営する訓練・支援
 に必要なし

- | | | | | |
|-----------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1) 研究計画の作成スキル | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2) 論文などの文章作成スキル | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3) 教育スキル | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4) 交渉スキル | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5) 研究マネジメント・スキル | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 6) 研究倫理 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

Q22. あなたは、直属の上司(指導教官)と、研究内容、進路、私生活などの個人的な話題についてどの程度の頻度で意見交換をしますか。以下の選択肢から、該当するものを選んでください

- | | 1週間に数
回程度 | 1ヶ月に数
回程度 | 1年に数回
程度 | なし |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1) 研究内容 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2) 進路 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3) 私生活などの個人的な話題 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q23. あなたがポストドクターとして研究活動する上で、以下の項目のうち、現在所属する機関から用意されているものはどれですか。該当するものを選択してください

- | | 用意されて
いる | 用意されて
いない | わからない |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1) あなた専用のデスク | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2) あなた専用のPC | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3) 機関発行の身分証明(ID) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4) インターネットへのアクセス権 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5) あなた専用の電子メールアドレス | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6) 機関附属図書館を利用する資格 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q24. あなたは、過去1年以内に、ポストドクターとして文部科学省科学研究費補助金を申請したことがありますか

1. 申請した
2. 申請を希望したが、申請できなかった(または申請を断念した)
3. 申請を希望しなかった(または申請の必要がなかった)

SQ. 「2. 申請を希望したが、申請できなかった(または申請を断念した)」と回答された場合は、その理由を教えてください

Q25. あなたは、過去1年以内に、ポストドクターとして育児休暇を取得したことがありますか

1. 取得した
2. 取得を希望したが、取得できなかった(または取得を断念した)
3. 取得を希望しなかった(または取得する必要がなかった)

※ 「2. 取得を希望したが、取得できなかった(または取得を断念した)」と回答された場合は、その理由を教えてください

Q26. 就職活動と配偶者／パートナーとの関係についてお聞きします。
あなたの今後の就職活動でもっとも該当すると思われるものを1つ選んでください。
なお現在、配偶者／パートナーがいない方も、今後いることになった場合を想定してお答えください

1. 配偶者／パートナーの仕事の都合(勤務地など)に合わせて、応募範囲を限定する
2. 配偶者／パートナーが、あなたの今後のキャリア選択に合わせて職業、就業形態、勤務地などを調整する
3. 配偶者／パートナーと話し合い、どちらの都合に合わせるのかを決める
4. 配偶者／パートナーとの別居も止むを得ない
5. その他()

次へ進む 戻る

4 / 7 ページ

IV. ポストドクターの意識及び取組み

Q27. 現在のあなたのポストドクターとしての業務を鑑みて、あなたがポストドクター期間中に十分な研究成果を出す上で、何年程度の任期が適当だと思いますか

- 1年
- 2年
- 3年

- 4年
- 5年以上
- わからない

Q28. 現在のあなたのポストドクターとしての業務を鑑みて、あなたのポストドクターとしての収入(税込み)は、月額いくら位が妥当だとお考えですか

選択してください

Q29. あなたは、以下のことに満足していますか。該当するものを選んでください

	不 満	や や 不 満	ど ち ら ど も い え な い	や や 満 足	満 足
1) 現在の研究テーマ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 現在の研究環境(研究設備、研究費など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) 現在の雇用条件(給与、社会保障など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) 直属の上司(指導教官)の指導	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) 研究室の人間関係や人付き合い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) 論文等における著者名の並び順	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7) 学会・研究会等での成果発表の機会	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8) ポストドクターを選択したこと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9) 生活全体	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q30. あなたは、現在のポストドクターとしての任期中に、自らのキャリア開発のために何らかの取組み(語学習得、資格取得など)をしていますか(または、していましたか)。以下の中から該当するものをすべてお選び下さい。複数選択可

	所属機関が 用意するワ ークショップ /クラスな どの受講	左記以外の ワークショップ ブ/クラス などの受講	独自の学 習・情報取 集など	特に、何も していない
1) 外国語習得のための取組み	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) 資格取得に向けた取組み 企業等が求めるスキル(コミュニ ケーション能力など)獲得の取組 み	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) キャリアのための人脈形成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) その他()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q31. あなたは、現在のポストドクターとしての任期中に、国または所属機関が実施するポストドクター等に対する支援プログラムを活用したことがありますか

1. はい
2. いいえ

SQ. 「1. はい」と回答された方は、どのような支援プログラムを活用したのかを教えてください
 (例: 文部科学省「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」など)

Q32. あなたは、どのような職業であれば、実際に就職しても良いと考えますか。あてはまるものを選んでください。現状のあなたが応募可能かどうかは問いません

	就きたくない	あまり就きたくない	どちらともいえない	就いても良い	是非就きたい
1) 大学・公的研究機関の研究者(短大・高専教員を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 大学・公的研究機関の研究支援者・補助者(技官など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) 大学・公的研究機関の上記以外の職(事務など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) 企業(ベンチャー企業を除く)の研究者・技術者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) ベンチャー企業の研究者・技術者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) 企業(ベンチャー企業を含む)の研究者・技術者以外の職	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7) 小学校・中学校・高等学校の教員	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8) 塾・予備校の講師	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9) 国家公務員、地方公務員	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10) 医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11) 知的財産関連職(弁護士、弁理士、大学・公的機関・企業等の知的財産部門担当者など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12) 経営専門職(公認会計士、税理士など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13) 産学連携コーディネーター職(大学等での優れた研究成果の発掘、企業・地域との共同研究のコーディネーター等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14) 学術関連のコミュニケーター職(科学記者、サイエンスライター、科学館・博物館等関係者、機関の広報担当者など)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15) 起業家	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

16) その他()

Q33. 現在のポストドクターとしての研究業務以外に、以下の活動や業務を兼任できるとしたら、あなたの将来のキャリアを考える上でどのような活動が有益だと考えますか。1つだけ選んでください

1. 現在のポストドクターとしての研究業務以外の活動を特に希望しない
2. 現在のポストドクターとしての研究テーマとは異なる研究活動
3. 大学、大学院、短大、高専での教育業務(授業担当)
4. 小学校、中学校、高等学校での教育業務(授業担当)
5. 民間企業での研究・開発業務
6. 研究・開発業務以外の専門的業務(科学館等でのコミュニケーター業務、知的財産関連業務など)
7. スキル開発や資格取得のためのトレーニング/クラス受講
8. その他()

Q34. あなたは現在、以下の人と意見交換する機会がありますか。以下の中から、該当するものを選んでください

	1ヶ月に1回 以上	3ヶ月に1回 程度	年1回程度	全く交流し ない
1) 研究室・研究グループの同僚との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) 1)以外の同一分野の研究者との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) 異分野の研究者との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) 異業種の人との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) 学生時代の友人・知人との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) 近所・地域の人との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7) 所属サークル・団体のメンバーとの交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8) その他()	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ進む 戻る

5/7ページ

V. ポストドクターへのキャリアパスを振り返って

Q35. 研究者になりたいと思ったのは、いつ頃ですか。以下の選択肢から1つ選んでください。また、そのきっかけも教えて下さい

1. 小学校
2. 中学校

3. 高等学校
4. 大学
5. 大学院以降
6. 研究者になりたいと思ったことはない
7. わからない

SQ. 研究者になりたいと思ったきっかけ

Q36. あなたは、大学院在学当時、博士課程終了後の進路や就職の見通しについて、十分な情報を持っていましたか

1. はい
2. いいえ
3. わからない

SQ. 「1. はい」と回答された方は、どこからその情報を得たのか教えてください

Q37. ポストドクターになった主な理由を、以下から1つだけ選んでください

1. 研究者になりたかったから
2. 研究を続けたかったから
3. 企業などへの就職にあまり興味がなかったから
4. 他に就職先が見つからなかったから
5. 研究職以外の職業に就く上で、ポストドクターの経験が役立つと思ったから
6. 奨学金の返済義務が免除されるから
7. 先生、家族、知人、先輩などから勧められたから
8. ポストドクターになるのが当然といった認識があったから
9. 特にこれといった理由はない、または考えたことがない
10. その他()

Q38. あなたは、将来どのようなポストに就きたいと思って、現在ポストドクターとして研究していますか

VI. その他

Q39. あなたのポストドクターに対するイメージを教えてください。どのようなことでも結構です

Q40. ポストドクター支援策として、あなたが必要だと考える施策を記入してください

Q41. 大学等、所属している機関への要望事項について記入してください

Q42. 今後、当研究所が行うポストドクターに関する調査研究に御協力いただける方は、氏名、電子メールアドレスまたは電話番号をを記入してください

氏名:

電子メールアドレス:

電話番号:

F1. あなたの性別を教えてください

1. 男性

2. 女性

F2. あなたの現在の年齢を教えてください

_____歳

F3. あなたの国籍を教えてください

1. 日本
2. 日本以外(_____)

F4. あなたの世帯構成についてお聞きします。現在、何人の方と一緒に暮らしていますか。自分を除く人数をお答えください

_____人

F5. 現在一緒に暮らしている方を、すべてお選びください

- 1. 配偶者／パートナー
- 2. 子供 選択してください
- 3. 親
- 4. 兄弟姉妹
- 5. 親戚
- 6. その他(_____)

F6. あなたの配偶者／パートナーの職業は研究職ですか。配偶者／パートナーについて該当する職業をお答えください

1. ポストドクター相当の職
2. ポストドクター以外の任期付き研究職(任期付き大学教員など)
3. 任期付きでない研究職(定年制を含む)
4. 上記以外の職
5. 無職(学生含む)
6. 該当しない(配偶者／パートナーなし)

F7. あなたは、何らかの公的資格を持っていますか。以下の中から該当する分野の資格をすべて選んでください 複数選択可

- 1. 法曹分野(裁判官、検察官又は弁護士)
- 2. 会計・ファイナンス分野(公認会計士、税理士)
- 3. 知的財産分野(弁理士)
- 4. 教育分野(小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、養護学校、幼稚園教諭)
- 5. 医学分野(獣医師、医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師)
- 6. その他(_____)
- 7. 持っていない

回答 戻る やり直し

ポストドクター等の研究活動・生活意識調査

**これでアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。**

文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

A4. 調査票(英語版)

Investigative Survey on the Research Activities and Awareness of
Postdoctoral Fellows

日本語

1st Policy Oriented Research Group
National Institute of Science and Technology Policy
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

The objective of this survey is to investigate the research activities of postdoctoral fellows and to assess their economic and social situation; as well as learn about the level of research guidance and career support that is required.

The data obtained from this survey will form the basis for policy making and enable the development of postdoctoral support systems. The results of the survey will be made publicly available for use by university and research institute management as well as to researchers. No individual level data will be presented in the publicly available report.

- Only one person should complete this questionnaire form. This should only be the person that was selected to participate.
- Regarding questions about your current postdoctoral work, answer questions about the organization that requested you to respond to this survey.
- Completion of this survey will take 20-30 minutes.

Please enter your questionnaire ID number: |

Please enter your questionnaire password:

※Please check to make sure that you have entered the correct ID number.

Click to enter

Where to ask
MyVoice Communications, Inc
TEL: 03-5217-1911
e-mail: postdoc@myvoice.co.jp

1/7

I Academic, Professional and Research Background of Postdoctoral Fellows
Q1. How old were you when you obtained your doctoral degrees (or completed your doctoral course)?

Age when obtaining degree: years old

(Age when completing course: years old)

Q2. Are you currently employed at the same research organization (the organization that requested you to respond to this survey) where you obtained your doctoral degree (or completed your doctoral course)?

1. Same organization
2. Other Japanese organization
3. Other overseas organization

Q3. Do you have experience of postdoctoral work in other organizations to the one where you are currently employed (numerous responses possible)? Please select all that apply

1. No experience
2. Experience at other Japanese institution
3. Experience at overseas institution

Q4. Including experience at other institutions, in total how many years experience do you have as a postdoctoral fellow?

Q5. Including other research organizations, how many times have you been a postdoctoral fellow so far?

(do not count the number of appointments, please only count the number of times you have had a different postdoctoral supervisor).

Q6. Since graduation from university, with the exception of working as a postdoctoral fellow (and part-time work), do you have any experience of full-time employment?

Please select the most appropriate category from those below.

(In the case of no experience, please select [0]).

Q7. Please list all your achievements during the period as a postdoctoral fellow (in the entire period including past and current experiences as a postdoctoral fellow).

- Refereed research paper(s) | in total (of which the first author: in total)
- Bulletin(s) | in total (of which the first author: in total)
- Conference presentation(s) | in total (of which the first author: in total)
- Book(s) in total
- Translation version(s) | in total
- Patent filing(s) in total

NEXT RETURN INDEX

II Basic Information on Postdoctoral Fellows

Q8. Please write the title of your official current position at your university or research organization.

Q9. With regard to your postdoctoral research, please select the most appropriate research category from the list below.

Research field/details:

(Please do not choose "※")

Q10. Regarding your current postdoctoral salary, from which of the following sources is this derived? Please select all that apply

- 1. 21st Century COE Program
- 2. Grants-in-aid from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology(MEXT)
- 3. Strategic basic research projects
- 4. Competitive funds, with the exception of 1-3
- 5. External funds from the private sector
- 6. Postdoctoral fellowship from the JSPS (PD etc.)
- 7. Fellowships, with the exception of 6
- 8. Government funded overseas scholarship
- 9. Unpaid (with no employment relationship)
- 10. Other (e.g. from subsidies etc.)
- 11. Don't know

Q11. Are you currently employed on a part-time or full-time basis? Please answer on the basis of your employment contract.

- 1. Full-time
- 2. Part-time
- 3. Don't know

Q12. With regard to your current postdoctoral appointment, over how many years is this term (the longest period that it is possible to renew the term)? How many years have passed since you have taken up this position? (please count any period above 7 months as 1 year; for a period less than 6 months please choose 0)

Term length:

Number of years passed:

Q13. Including taxation, what is your current average monthly salary as a postdoctoral fellow?

Q14. What proportion of the following account for your monthly income? (please select the most appropriate category)
(please ensure that the total is 10).

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1) Postdoctoral Income	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) Other income (part-time work etc.)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q15. Currently, do you have any dependents, or are you a dependent?

1. I have dependents
2. I am a dependent
3. Not applicable

Q16. This question concerns your membership of social insurance schemes. Please select the most appropriate category.

1. Mutual fund/health insurance
2. Welfare pension/health insurance
3. National pension /national health insurance
4. Other()
5. Don't know

Q17. In your current position as a postdoctoral fellow, how many hours do you work each week (this should be your contracted amount rather than actual amount).

1. I have an employment contract: (hour(s))
2. I do not have an employment contract
3. Don't know

Q18. What percentage of your current work as a postdoctoral fellow is spent on the activities below? Please select the most appropriate category
(please ensure that the total is 10).

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1) Your main research work	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) Research and educational activities other than the above	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) Other activities (miscellaneous work)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

NEXT RETURN

III Postdoctoral Research Environment

3/7

Q19. As a postdoctoral fellow, what is the position of your immediate supervisor who administers and supervises your activities?

1. Fixed term (excluding the retired)
2. Not fixed term
3. Don't know

Q20. As a postdoctoral fellow, what level of control do you have over the following research activities?

	I have complete control	I have some control	I share control with my supervisor	My supervisor tends to control	My supervisor has total control
1) Planning new research projects	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) Selection of collaborative partners	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) Termination of unsuccessful projects	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) Writing research papers	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) Deciding on co-authors	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) Developing grant proposals	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q21. For the purpose of acquiring educational and research skills, has your organization/research laboratory provided any training support (workshops or class lectures), or has your leading supervisor provided substantive training or guidance (through on-the-job-training or learning of practical skills etc.)? Please select all those that apply

	My research organization/laboratory has supported	My supervisor has provided me with training and education	No guidance or training support	No need
1) Research planning skills	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) Paper drafting skills	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) Teaching skills	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) Negotiation skills	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) Research management skills	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) Research ethics	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q22. With what frequency do you get the opportunity to talk with your direct supervisor about your research subject, career, and personal/private life? Please select those that apply from the list below.

- | | | | |
|----------------------|-----------------------|----------------------|-------|
| Several times a week | Several times a month | Several times a year | Never |
|----------------------|-----------------------|----------------------|-------|

- | | | | | |
|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1) Research subject | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2) Career | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3) Personal issues/private life | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q23. In performing research activities as a postdoctoral fellow, does your organization provide you with any of the following items? Please select all that apply.

- | | Provided | Not Provided | Don't know |
|----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1) Personal Desk | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2) Personal PC | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3) Personal ID | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4) Internet access | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 5) Personal e-mail address | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6) Access to the Library | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q24. Within the past year have you applied for any grant-in-aid from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)?

1. Yes I have
2. I wanted to apply but didn't (or gave up)
3. I couldn't want to apply (or it was not necessary)

SQ. For those who answered that they "wanted to apply but couldn't (or gave up)" could you please explain the reasons in the form below.

Q25. As a postdoctoral fellow have you taken maternity leave or child care leave within the past year?

1. Yes I have
2. I wanted to, but didn't (or gave up)
3. I couldn't want to (or it was not necessary)

SQ. For those who answered that they "wanted to apply but couldn't (or gave up)" could you please explain the reasons in the form below.

Q26. This question concerns the relationship between your job search activities and your spouse/partner. Which of the following probable choices would you make regarding your job search activities? If you do not have a spouse/partner at present, please answer as if you have one in the near future.

1. depending upon the circumstances of my spouse/partner (work location etc), there are limits to the scope of my job seeking, my most recent career decision of work, employment type and location was in coordination with my spouse/partner.
2. my career decision regarding work, employment type and location is in coordination with my spouse/partner.
3. through discussion with my spouse/partner, we decide on the basis of conditions
4. being separate from my spouse/partner cannot be helped
5. Other()

NEXT RETURN

4/7

IV Awareness and Activities as a Postdoctoral Fellow

Q27. As a postdoctoral fellow, how many years of postdoctoral appointment do you think are appropriate to achieve satisfactory research results?

- 1 year
- 2 years
- 3 years
- 4 years
- 5 years or more
- Don't know

Q28. In your position as a postdoctoral fellow, what do you consider to be an appropriate monthly salary (tax included)?



Q29. How satisfied are you with the following points? Please select all that apply.

	Unsatisfied	Moderately unsatisfied	Neutral	Moderately satisfied	Satisfied
1) Your current research theme Your current research	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) environment (research facilities/ funds etc.) Your current employment	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) conditions (salary and social insurance etc.)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) The guidance from your supervisor Your relationship and	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- | | | | | | |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 5) association with other co-workers | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 6) The order of authorship on papers | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 7) Opportunities for presentations at academic conferences and research meetings | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 8) Your decision to become a postdoctoral fellow | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 9) Your life overall | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q30. During the course of your postdoctoral employment, have you taken (or are you taking) any courses (such as learning a foreign language or qualification) in order to develop your personal career? Please choose all those that apply

- | | Attending workshops and classes at your organization | Attending workshops and classes at other organizations | Self-study or collection of information | None |
|--|--|--|---|--------------------------|
| 1) Learning foreign languages | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2) Acquiring qualifications | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3) Acquiring skills required by companies (such as communication skills) | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4) Building personal networks for your career | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5) Other: () | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

Q31. In your current term as a postdoctoral fellow, are you using any national or institutional support program for postdoctoral fellows etc.?

1. Yes
2. No

SQ. For those that answered [1.Yes], could you please explain what sort of support program this is?

Q32. Regarding your employment, in practice which of the following jobs do you think would be good? Please select those that apply. (This question is not to imply that you are currently eligible to apply for jobs)

- | | | | | |
|--------------------|------------------------|---------|----------------------|------------------------|
| I have no interest | I have little interest | Neutral | I have some interest | I have strong interest |
|--------------------|------------------------|---------|----------------------|------------------------|

	in such a job	in such a job	in this job	in this job
1) A researcher at a university or public research institute (including a teacher at a college or technical college)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) A research/technical assistant at university or public research institute (technician etc.)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) Other posts at a university or public research institute other than the above (e.g. clerical position)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) A researcher or engineer in a business (excluding venture companies)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) A researcher or engineer at a venture company	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) Other positions in business (or venture company) other than the above	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7) A teacher at an elementary school, junior high school or high school	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8) An instructor at a private tutoring school or preparatory school	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9) A national government official or local government official	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10) A doctor, dentist, veterinarian or pharmacist	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11) An intellectual property related position (lawyer, patent attorney, and intellectual property related post at a university, research institute or business)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12) A management professional (such as a certified public accountant or tax accountant)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13) A coordinator of industry-university links (locating research results at universities, or coordinating joint research between business and regions)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14) A scientific or academic communicator (science correspondent, science writer, a post in a science museum or museum, or press officer)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15) An entrepreneur	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16) Other:	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q33. If you could hold a concurrent position other than as a postdoctoral fellow, which do you think would be beneficial for your future career? Please select one option.

1. I have no interest in any position other than my present postdoctoral position
2. Research and development activities in a different research area to that of my postdoctoral work
3. An educational position in a university, graduate school, two-year college or technical college (with responsibilities for tuition)
4. An educational position in an elementary school, junior high school or high school (with responsibilities for tuition)
5. Private sector research and development activities
6. Specialist work other than research and development (communicator at a science museum, intellectual property activities etc.)
7. by taking lectures and training classes to acquire skills and qualifications
8. Other: (_____)

Q34. Currently, how many opportunities do you roughly get to exchange opinions or ideas with the following people? Please select the most appropriate from the following.

	Once a month or more	Once in three months	Once a year	None
1) Co-workers in your laboratory or research group	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2) Researchers in the same research field except those mentioned above	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3) Researchers in different research fields	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4) Individuals in different industries	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5) Friends and acquaintances or former school friends	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6) People in the local community	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7) Members of your groups or other circles	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8) Others: (_____)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

NEXT RETURN

5/7

V Reflections on your Postdoctoral Career path

Q35. When did you decide that you wanted to become a researcher? Please select one option below. Also, please explain what inspired you to become a researcher.

1. In elementary school

2. In junior high school
3. In high school
4. In university
5. In/After graduate school
6. I do not think that I wanted to be a researcher
7. I don't know

SQ. What inspired you to become a researcher? (please explain)

Q36. While you were in graduate school, do you think that you had sufficient information regarding career prospects and employment opportunities for after completion of your doctoral course?

1. Yes
2. No
3. Don't know

SQ. For those who answered "1. Yes", please explain the source of the information.

Q37. What was the main reason for becoming a postdoctoral fellow? Please select one option

1. I wanted to become a researcher
2. I wanted to continue research
3. I had little interest in working in business
4. I could not find any other employment
5. I thought that postdoctoral experience would be useful for other employment opportunities
6. To avoid repayment of scholarships
7. My teachers/family/acquaintances/superior recommended it
8. It was a natural to become a postdoctoral fellow
9. There is no particular reason, or I have never thought about it
10. Other (_____)

Q38. In the future, what sort of post do you think you would like to take? (please state freely)

[Empty text box]

NEXT RETURN

6/7

VI Other

Q39. Could you please explain your image of a postdoctoral fellow? You may write anything.

[Empty text box]

Q40. Regarding support measures for postdoctoral fellows, what sort of measures do you think would be important? Please state freely.

[Empty text box]

Q41. What sort of requests would you like to make to your university or research institute? Please state freely.

[Empty text box]

Q42. If you are interested in cooperating in our postdoctoral research surveys from hereon, please provide us with your name, email address, and telephone number.

Name: _____

Email address: _____

Telephone number: _____

NEXT RETURN

F1. What is your sex?

1. Male
2. Female

F2. What is your current age?

| years old

F3. What is your nationality?

1. Japanese
2. Not Japanese please state your nationality (_____)

F4. Regarding your household, currently how many people do you live with? (please do not include yourself in the total)

| person(s)

F5. Which people are you currently living with? Please select all that apply.

- 1. Spouse/partner
- 2. Children Number of children
- 3. Parents
- 4. Sibling (s)
- 5. Relative (s)
- 6. Other (_____)

F6. Is your spouse or partner employed as a researcher? Please indicate their occupation from the following list.

1. A postdoctoral fellow or similar
2. A faculty member/researcher (excluding postdoctoral fellow) employed for a fixed term
3. A tenured faculty member/researcher
4. Other work with the exception of the above
5. Not employed (or student)
6. Not relevant (no spouse or partner)

F7. Do you hold any publicly recognized qualifications? (From the following list, please select all those fields that apply) Please select all that apply

- 1. Legal field (judge, prosecutor or lawyer)
- 2. Accountancy or finance field (public accountant/tax accountant)
- 3. Intellectual property (patent attorney)
- 4. Teaching field (elementary school, junior high school, high school, school for the blind, school for the deaf, special needs school, kindergarten)
- 5. Medical field (veterinarian, medical physician, dentist, pharmacist, nurse,

midwife, public health nurse)

6. Other: ()
7. No publicly recognized qualification

SUBMIT RETURN RESET

**Investigative Survey on the Research Activities and Awareness of
Postdoctoral Fellows**

**This is the end of the questionnaire.
Thank you.**

**1st Policy Oriented Research Group National Institute of Science and Technology
Policy Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology**

A5. 調査票のプルダウン・メニュー一覧

Q4. 他の機関も含めて、あなたは合計何年ぐらいポストドクターを経験しましたか									
1=1年未満	2=2年	3=3年	4=4年	5=5年	6=6年	7=7年	8=8年	9=9年	10=10年
11=11年	12=12年	13=13年	14=14年	15=15年	16=16年	17=17年	18=18年	19=19年	20=20年
21=21年	22=22年	23=23年	24=24年	25=25年	26=26年	27=27年	28=28年	29=29年	30=30年
31=31年	32=32年	33=33年	34=34年	35=35年	36=36年	37=37年	38=38年	39=39年	40=40年以上
Q5. 他の機関も含めて、あなたはポストドクターの職を、合計で何回経験しましたか									
1=1回	2=2回	3=3回	4=4回	5=5回	6=6回	7=7回	8=8回	9=9回	10=10回
11=11回	12=12回	13=13回	14=14回	15=15回	16=16回	17=17回	18=18回	19=19回	20=20回以上
Q6. 大学卒業以降、ポストドクター以外に常勤の職業(アルバイトなどを除く)に就いた経験はありますか。経験年数のおおよその合計を記入してください									
1=0年	2=1年	3=2年	4=3年	5=4年	6=5年	7=6年	8=7年	9=8年	10=9年
11=10年	12=11年	13=12年	14=13年	15=14年	16=15年	17=16年	18=17年	19=18年	20=19年
21=20年	22=21年	23=22年	24=23年	25=24年	26=25年	27=26年	28=27年	29=28年	30=29年
31=30年	32=31年	33=32年	34=33年	35=34年	36=35年	37=36年	38=37年	39=38年	40=39年
41=40年以上									
Q9. あなたの現在のポストドクターとしての研究分野(科研究分類)を教えてください									
1=文学	2=史学	3=哲学	4=その他【人文科学】	5=法学・政治	6=商学・経済	7=社会学	8=その他【社会科学】	9=数学	10=物理
11=化学	12=生物	13=地学	14=その他【理学】	15=機械・船舶	16=電気・通信	17=土木・建築	18=応用化学	19=応用理学	20=原子力
21=材料	22=繊維	23=航空	24=経営工学	25=その他【工学】	26=農学	27=農芸化学	28=農業工学	29=農業経済	30=林学
31=林産	32=獣医・畜産	33=水産	34=その他【農学】	35=医学	36=歯学	37=薬学	38=看護	39=その他【保健】	40=家政
41=教育	42=芸術・その他【その他の部門】								
Q12. あなたの現在のポストドクターとしての任期は何年ですか。現在のポストドクターの職に就いてから、最長何年間、任期の更新が可能であるのかをお答え下さい。(7ヶ月以上は1年に繰り上げ、6ヶ月以下は0年として下さい。)また、現在、あなたはその任期の何年目にあたりますか【任期】									
1=0年	2=1年	3=2年	4=3年	5=4年	6=5年	7=6年以上	8=わからない		
Q12. あなたの現在のポストドクターとしての任期は何年ですか。現在のポストドクターの職に就いてから、最長何年間、任期の更新が可能であるのかをお答え下さい。(7ヶ月以上は1年に繰り上げ、6ヶ月以下は0年として下さい。)また、現在、あなたはその任期の何年目にあたりますか【何年目】									
1=0年	2=1年	3=2年	4=3年	5=4年	6=5年	7=6年以上	8=わからない		
Q13. あなたのポストドクターとしての現在の月平均給与(税込み)はいくらぐらいですか									
1=無給	2=5万円未満	3=5万円以上、10万円未満	4=10万円以上、15万円未満	5=15万円以上、20万円未満	6=20万円以上、25万円未満	7=25万円以上、30万円未満	8=30万円以上、35万円未満	9=35万円以上、40万円未満	10=40万円以上、45万円未満
11=45万円以上、50万円未満	12=50万円以上、55万円未満	13=55万円以上、60万円未満	14=60万円以上、65万円未満	15=65万円以上、70万円未満	16=70万円以上、75万円未満	17=75万円以上、80万円未満	18=80万円以上、85万円未満	19=85万円以上、90万円未満	20=90万円以上、95万円未満
21=95万円以上、100万円未満	22=100万円以上								
Q28. 現在のあなたのポストドクターとしての業務を鑑みて、あなたのポストドクターとしての収入(税込み)は、月額いくら位が妥当だとお考えですか									
1=無給	2=5万円未満	3=5万円以上、10万円未満	4=10万円以上、15万円未満	5=15万円以上、20万円未満	6=20万円以上、25万円未満	7=25万円以上、30万円未満	8=30万円以上、35万円未満	9=35万円以上、40万円未満	10=40万円以上、45万円未満
11=45万円以上、50万円未満	12=50万円以上、55万円未満	13=55万円以上、60万円未満	14=60万円以上、65万円未満	15=65万円以上、70万円未満	16=70万円以上、75万円未満	17=75万円以上、80万円未満	18=80万円以上、85万円未満	19=85万円以上、90万円未満	20=90万円以上、95万円未満
21=95万円以上、100万円未満	22=100万円以上								
F8. 現在一緒に暮らしている方を、すべてお選びください【子供の人数】									
1=1人	2=2人	3=3人	4=4人	5=5人	6=6人	7=7人	8=8人	9=9人	10=10人

調査資料-161

ポストドクター等のキャリア選択に関する分析

2008年12月18日 初版1刷発行



